SCRAMBLER
DUCATI

オーナーズマニュアル

日本語

SCRAMBLER DUCATI

1100 TRIBUTE PRO

ドゥカティスタの皆様

弊社に対するご信頼の元、新しい Scrambler 1100 TRIBUTE PRO をご購入いただいた皆様に**心より感謝いたします**。

Ducati にすばやく慣れ、**そのすべての機能をご利用**いただけるために、**本オーナーズマニュアルを注意深くお読みになる**ことをお勧めします。本マニュアルでは、**安全性**、車両の**お手入れ方法**、専門的なサービスによる**適切なメンテナンス**により車両の価値を高く保つ方法について、多くの役立つヒントと情報を提供しています。

また、**本オーナーズマニュアルはデジタル形式でもご利用いただけます。Ducati ウェブサイトの専用エリア**と、コンピュータと携帯電話の両方からお使いいただける **MyDucati アプリ**から、常に最新版をご参照いただけます。

このようにして、常に**最新版のマニュアル**をご利用いただけ、バイクと Ducati ワールドに関する**情報やよくある質問**もご覧いただくことができます。

本オーナーズマニュアルの内容に関する皆様のご意見・ご提案は、OwnerManual@ducati.com までご連絡ください。

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は 本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

重要

Ducati のウェブサイトでは、お客様のモーターサイクルの機能や特長に関する最新情報をお届けしております。ウェブサイトから、専用の「よくある質問 (FAQ)」とチュートリアルをご確認ください。
本マニュアルに掲載されている情報は、印刷時点で最新のものです。Ducati モーターサイクルの品質基準および安全基準は日々更新されています。Ducati ウェブサイトから、モーターサイクルの最新版オーナーズマニュアルに記載されている機能や特徴をご確認ください。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで (書面による) 許可の申請をしなければなりません。
車両の修理に関するお問い合わせや、その他のご質問等につきましては、ドゥカティ正規アシスタンスセンターにご連絡ください。

ご不明な点等ございましたら、下記メールアドレスまでお気軽にお問い合わせください。
contact_us@ducati.com
役に立つアドバイス等、弊社アドバイザーが対応いたします。

重要

詳細については、ウェブサイト www.ducati.com のサービスとメンテナンスセクションで「お問い合わせ」をクリックして、Ducati サポートまでお問い合わせください。
役に立つアドバイス等、弊社アドバイザーが対応いたします。

楽しいライディングを！

目次

ロードアシスタンス..... 9
ロードアシスタンス..... 9

ソフトウェアのアップデート 12
ソフトウェアのアップデート 12

インフォテインメント 13
インフォテインメント (搭載している場合) 13
Bluetooth デバイスのペアリングと操作 (装備している場合)..... 14
電話 (装備している場合)..... 23
音楽 (ある場合)..... 28

一般情報 30
取扱説明書内で使用される頭字語および略語..... 30
本マニュアルで使用されている警告シンボル 30
用途 30
ライダーの義務..... 31
ライダーの教育..... 32
服装 32
"安全のための""ベストプラクティス""" 33
燃料の補給..... 35
最大積載時の運転..... 35
車両への積載に関する注意..... 36
危険物 - 警告 36
車両識別番号 38
車両識別番号 39
エンジン識別番号..... 40

主要構成部品 / 装備 41
車両上の配置..... 41
燃料フィラープラグ..... 42
シートロック 43
バッテリー充電の維持 46
サイドスタンド..... 48
USB コネクター 50
フロントフォーク調整..... 51
リアショックアブソーバーの調整..... 53

運転時に必要なコマンド.....55
コマンド類の配置.....55
スイッチ類.....56
ライトコントロール.....58
キー.....64
イグニッションスイッチ / ステアリングロック.....66
PIN CODE による車両の解除.....67
クラッチレバー.....70
スロットルグリップ.....72
フロントブレーキレバー.....73
リアブレーキペダル.....74
ギアチェンジペダル.....75
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整 76

運転の方法.....77
慣らし運転の方法.....77
走行前の点検事項.....78
ABS 装置.....80
エンジンの 始動 / 停止.....81
車両の発進.....84
ブレーキ操作.....85
車両の停止.....86
パーキング.....87
燃料の補給.....88
付属アクセサリー.....90

インストルメントパネル(ダッシュボード).....91
インストルメントパネル.....91
パラメーターの表示.....94
主な機能.....98
車両スピード.....100
エンジン回転数表示 (RPM).....101
ライディングモード (Riding Mode).....102
ギア.....106
DTC.....107
燃料レベル.....112
時計.....113
メニュー機能.....114
オドメーター (TOT).....115
トリップメーター 1 (TRIP 1).....116
トリップメーター 2 (TRIP 2).....117
航続可能距離 (RANGE).....118
外気温 (T-AIR).....119
ヒーテッドグリップ (H. GRIPS).....120
設定メニュー.....122
ライディングモードのパーソナライズ (R.M.).....124
ライディングモードのパーソナライズ：エンジンの調整.....127
ライディングモードのパーソナライズ：DTC レベルの設定.....129

ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復 (DEFAULT)..... 131
ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復 (ALL DEFAULT)..... 133
PIN CODE (PIN) - 登録..... 135
PIN CODE (PIN) - 変更..... 138
バックライト設定 (B.L.)..... 143
DRL Auto / Manual モード設定 (DRL)..... 144
時計の調整 (CLK)..... 145
日付設定 (DAT) 148
サービス期限の表示 (SRV) 154
単位の設定 (UNT)..... 156
バッテリー表示 (BAT) 161
ターンインジケーター自動解除の停止 (TRN) 162
エンジン回転数表示 (RPM) 164
メンテナンス表示 (SERVICE) 165
OIL SERVICE ゼロの表示..... 166
SERVICE DATE または DESMO SERVICE 表示..... 167
SERVICE DATE または DESMO SERVICE カウントダウン表示 168
注意 / 警告 (Warning)..... 169
エンジンの過熱 172
エラー表示..... 173

主な整備作業とメンテナンス..... 174
ブレーキフルードレベルの点検 174
エアフィルターの交換..... 175
ブレーキパッドの摩耗点検 176
バッテリーの充電..... 177
ジョイント部の潤滑 179
トランスミッションチェーン張力の点検 180
チェーンの潤滑 182
ヘッドライドの電球の交換 187
ヘッドライトの光軸調整 190
リアビューミラーの調整 192
チューブタイヤ..... 193
エンジンオイルレベルの点検..... 196
車両の清掃..... 198
長期間の保管 200
重要注意事項..... 200
車両の運搬..... 202

メンテナンスプログラム 203
メンテナンスプログラム： ディーラーでおこなうメンテナンス 203
メンテナンスプログラム： お客様が行うメンテナンス 207

テクニカル仕様 208

重量 208
サイズ 209
補給 210
エンジン 212
タイミングシステム 213
性能データ 214
スパークプラグ 214
燃料供給 214
ブレーキ 214
トランスミッション 216
フレーム 217
ホイール 217
タイヤ 217
サスペンション 217
エキゾーストシステム 218
カラーバリエーション 218
エレクトリカルシステム 219

オープンソースソフトウェア 223
オープンソースソフトウェアに関する情報 223

EU 適合宣言書 224

EU 適合宣言書 224

ロードアシスタンス

ロードアシスタンス

ACI Global Servizi

Ducati Card Assistance (ドゥカティ・カード・アシスタンス) プログラムは、Ducati と ACI Global Servizi の協力の下、故障や事故の際のサポートを Ducati ユーザーにご提供するものです。本サービスは 24 時間 365 日対応しており、納車日から 24 カ月間 (延長保証をご購入の場合は、延長保証の条件が適用されます)、または Ever Red 延長保証適用期間の間ご利用いただけます。

ロードアシスタンスサービスの内容：

- 緊急時ロードサービスおよび牽引
- 情報サービス
- 緊急時ロードサービス後の乗員の移送
- 乗員の帰宅、または行程の続行
- 修理が完了、または発見された車両の回収
- 海外から本国への車両の輸送
- スペアパーツの入手と海外への発送
- 宿泊費用
- 事故で道路を逸脱した車両の回収
- 海外で刑事上の車両押収時の保証金立替

以下の国でロードアシスタンスサービスをご依頼いただけます。
アンドラ、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、クロアチア、キプロス、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス (コルシカを含む、一般道路)、北マケドニア (FYROM：マケドニア旧ユーゴスラビア共和国)、ドイツ、ジブラルタル、ギリシャ、アイルランド、アイスランド、イタリア (サンマリノ、バチカン市国を含む)、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マルタ、モンテネグロ、ノルウェー、オランダ、ポーランド、ポルトガル、モナコ公国、イギリス、チェコ共和国、ルーマニア、セルビア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、トルコ、ウクライナ、ハンガリー。

重要
Tutte le informazioni sono dettagliate e a vostra disposizione sul sito Ducati del rispettivo paese.

オペレーションセンターの電話番号

アシスタンスを要請する場合：
お住いの国から：表の最初の欄に記載されているお住いの国のフリーダイヤルへご連絡ください。
海外から：表の 2 番目の欄に記載されている、国番号も含めたお住いの国の電話番号 (有料) へご連絡ください。
海外からお住いの国の電話番号にかけることができない場合は、故障や事故が発生した国の電話番号にかけることができます。

警告
Nel caso i numeri di riferimento fossero temporaneamente inattivi per malfunzionamento delle linee telefoniche, il Cliente potrà contattare il numero della Centrale Operativa di ACI Global Servizi in Italia: +39-02 66165610.

アンドラ	+34-91-594 93 40	+34-91-594 93 40
オーストリア	0800-22 03 50	+43-1-25 119 19398
ベルギー	0800-14 134	+32-2-233 22 90
ブルガリア	(02)-986 73 52	+359-2-986 73 52
キプロス	25 561580	+357-25 561580
クロアチア	0800-79 87	+385-1-464 01 41
デンマーク	80 20 22 07	+45-80 20 22 07
エストニア	(0)-69 79 199	+372-69 79 199
フィンランド	(09)-77 47 64 00	+358-9-7747640 0
フランス (+コルシカ)	0800-23 65 10	+33-4-72 17 12 83
北マケドニア (FYROM)	(02)-3181 192	+389-2-3181 192
ドイツ	0800-27 22 774	+49-89-76 76 40 90
ジブラルタル	91-594 93 40	+34-91-594 93 40
ギリシャ	(210)-9462 058	+30-210-9462 058
アイルランド	1800-304 500	+353-1-617 95 61
アイスランド	5 112 112	+354-5 112 112
イタリア	800,744,444	+39 02 66.16.56.10
ラトビア	67 56 65 86	+371-67 56 65 86
リトアニア	(85)-210 44 25	+370-5-210 44 25

ルクセンブルク	25 36 36 301	+352-25 36 36 301
マルタ	21 24 69 68	+356-21 24 69 68
モナコ公国	+33-4-72 17 12 83	+33-4-72 17 12 83
モンテネグロ	0800-81 986	+382-20-234 038
ノルウェー	800-30 466	+47-800-30 466
オランダ	0800-099 11 20	+31-70-314 51 12
ポーランド	061 83 19 885	+48 61 83 19 885
ポルトガル	800-20 66 68	+351-21-942 91 05
イギリス	00800-33 22 88 77	00800-33 22 88 77
チェコ共和国	261 10 43 48	+420-2-61 10 43 48
ルーマニア	021-317 46 90	+40-21-317 46 90
セルビア	(011)-240 43 51	+381-11-240 43 51
スロバキア	(02)-492 05 963	+421-2-49 20 59 63
スロベニア	(01)-530 53 10	+386-1-530 53 10

スペイン	900-101 576	+34-91-594 93 40
スウェーデン	020-88 87 77	+46-771-88 87 77 (+46 8 5179 2873)
スイス (+リヒテンシュタイン)	0800-55 01 41	+41 58 827 60 86
トルコ	(216) 560 07 50	+90 216 560 07 50
ウクライナ	044-494 29 52	+380-44-494 29 52
ハンガリー	(06-1)-345 17 47	+36-1-345 17 47

ソフトウェアのアップデート

ソフトウェアのアップデート

一部の車両構成部品には、ソフトウェアによって管理されるもの、またはソフトウェアの使用が想定されているものがあります。このようなソフトウェアはアップデートの対象であり、アップデートを必要とする場合があります。

- 車両の安全性を保証するために必要なアップデートは Ducati から通知され、Ducati 正規サービスネットワークにてインストールが実施されます。
- 車両の適合性を維持するために必要なアップデートの情報は Ducati ウェブサイトに公開され、車両購入日から 2 年間、または保証期間中 (車両に有効な場合)、Ducati 正規サービスネットワークにてインストールが実施されます。
- ソフトウェアの更なるアップデートや新バージョンについては、本オーナーズマニュアルに記載されている車両の定期点検プログラムに則った点検作業を実施する Ducati 正規サービスネットワークにてインストールが実施されます。

Ducati ウェブサイトのアップデートに関するセクションを定期的にご覧になり、My Ducati アプリをインストールして、利用可能なアップデートに関する情報を確認するようにしてください。

警告

車両の法的な適合性および保証 (有効な場合) を維持するために、お客様は、利用可能なアップデートを、当該アップデートの重要性も考慮して、可能な限り速やかに、いずれの場合も合理的な期間内にインストールするものとします。
合理的な期間内にアップデートがインストールされなかった場合、アップデートがインストールされなかったことに起因する適合性または安全性の欠如について、Ducati は一切の責任を負いません。

インフォテインメント

インフォテインメント (搭載している場合)

Bluetooth コントロールユニットを搭載している場合は、インフォテインメントシステムが作動します。インフォテインメントシステムでは、スマートフォン、ライダーインターコム、パッセンジャーインターコム、衛星ナビゲーターなどの Bluetooth デバイスを介して接続し、電話の発着信を管理したり、スマートフォンで音楽を再生したりできます。

- Bluetooth デバイスのペアリングと操作に関しては、ページ 14 を参照してください。
- 着信の応答に関しては、ページ 23 を参照してください。
- 音楽プレーヤーの操作に関しては、ページ 28 を参照してください。

Bluetooth デバイスのペアリングと操作(装備している場合)

この機能ではBluetooth デバイスのペアリング、およびその解除を行います。Bluetooth システムを装備している場合にのみ有効になります。

設定メニューに入ります (ページ 122 参照)。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“BTH” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

プレーヤーが作動している時や着信中、通話中、最呼び出し中にはBluetooth メニューに入ることはできません。

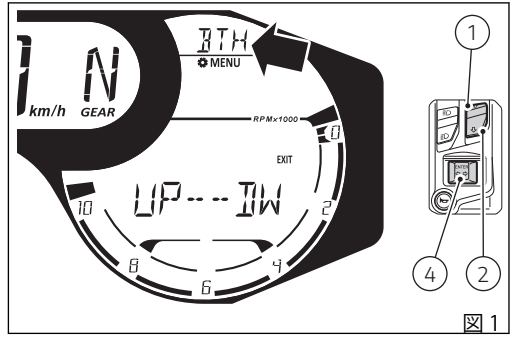


図 1

機能に入ると、インストルメントパネルはギア表示の代わりにペアリングされているデバイス数 (最大 5 台) を 1 桁の数字で表示します。
少なくとも 1 台のデバイスがペアリングされている場合は、メニューにペアリングされている最初のデバイス名が表示されます。そうでない場合は “NO DEV” と表示されます。
ボタン (1) と (2) で、デバイス一覧と “PAIRING” (枠が点滅)、“EXIT” (枠が点滅) をスクロール / 選択することができます。

ペアリングやペアリングデバイスの削除を行わずに設定メニューの前の画面に戻るには、ボタン (1) と (2) で “EXIT” を選択 (枠が点滅) し、ボタン (4) を押します。

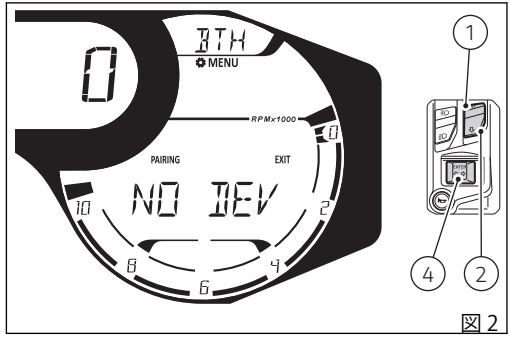


図 2

新しいデバイスのペアリング

この機能ではひとつ以上のBluetoothデバイスをペアリングコマンドを使用してペアリングすることができます。
Bluetoothデバイスをコントロールユニットが検出してアクセスできるように設定します。デバイスの電源を入れ、識別できるようにしてください。
検出モードにあるとき、Bluetoothデバイスはワイヤレスシグナルを送信し他のデバイスから検出されるようにします。このモードは、ペアリングモードと呼ばれることもあります。
車両にはBluetoothコントロールユニットが装備されています。これによりBluetoothに対応する電子機器間での通信が可能になります。

参考
最大スマートフォン2台、ライダーヘッドセット1台、パッセンジャーヘッドセット1台、衛星ナビゲーター1台をペアリングできます。

警告
Bluetoothスマートフォンおよびヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります(スマートフォン、ヘッドセット)。

警告
ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更がBluetoothスマートフォンおよびヘッドセット(音楽共有、マルチメディア再生など)の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン(Bluetooth対応プロファイルによる)に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

1) 市販されているヘッドセットとスマートフォンの全機種
2) 規定のBluetoothプロファイルをサポートしていないスマートフォン

スマートフォン本体が以下のプロフィールをサポートしていることを確認します。

- MAPプロフィール：SMSおよびMMS受信通知を正しく表示する。
- PBAPプロフィール：スマートフォンの電話帳データを正しく表示する。

設定メニューに入ります (ページ 122 参照)。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“BTH” を選択します。
次に、ボタン (1) と (2) で "PAIRING" (図 3) (枠が点滅) を選択し、ボタン (4) を押します。

デバイス検索が開始され、インストルメントパネルに “WAIT..” と表示されます(図 4)。近くにあるデバイスを検出した時点でペアリングは自動的に終了します。

PAIRING” 機能中にデバイス検索を中止して前の画面に戻りたい時は、ボタン (1) と (2) で “EXIT” を選択 (枠が点滅) し、ボタン (4) を押すと終了することができます。

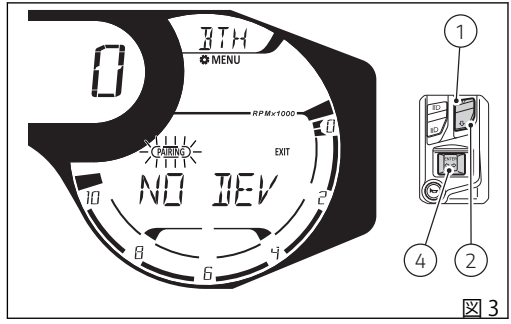


図 3

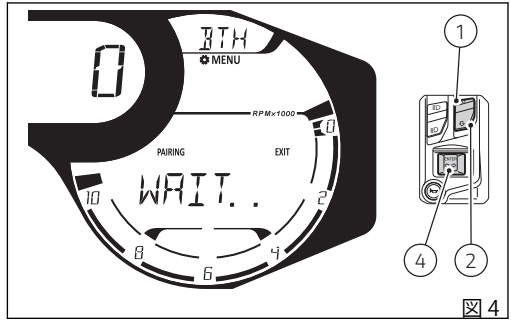


図 4

検索が終了すると、速度の代わりに検出されたデバイス数 (最大 20 台) が表示されます。
ボタン (1) および (2) を使って一覧内のデバイスをスクロールさせ、ボタン (4) を押して希望のデバイスを選択します。
識別された 2 台以上のデバイスが同じデバイス名を持っている場合は、検出デバイス一覧には同じ名前のデバイスが 2 台以上表示されます。
検出されたデバイスにデバイス名が存在しない場合は、検出デバイス一覧には表示されません。

参考
ペアリング中に検出されたデバイス一覧には、Bluetooth ON 状態であってもすでにペアリングされているデバイスは表示されません。

選択したデバイスをペアリングするには、ボタン (4) を押します。すると “WAIT..” の文字が表示され、スマートフォンやヘッドセットの場合は最大 30 秒、衛星ナビゲーターの場合は最大 90 秒かかります。

一覧からデバイスをひとつ選択した時は、ユーザーは接続したデバイスのタイプを指定する必要があります。
ペアリングするデバイスを選択すると、デバイスの右側に 4 つのアイコン (スマートフォン、ライダーインターコム、パッセンジャーインターコム、ナビゲーター) が現れます。

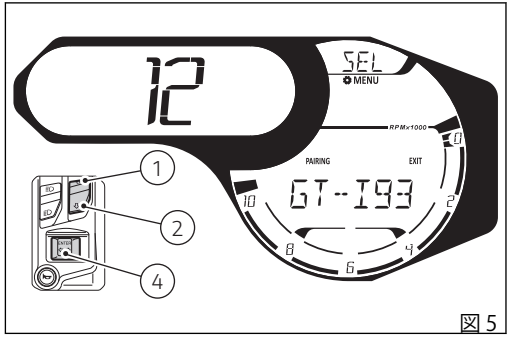


図 5

ユーザーは接続したデバイスのタイプを指定する必要があります。ボタン (1)、(2) を押して該当するマークを点滅させ、ボタン (4) を押して決定します。

- スマートフォン
- ライダーヘルメット (1)
- パッセンジャーヘルメット (2)
- ナビゲーター

デバイスタイプを選択すると、ディスプレイに “WAIT..” の文字が現れ、ペアリングされているデバイス数が更新されます。

ペアリングデバイス一覧にすでに：

- 2 台のスマートフォンが存在する場合は電話アイコンを選ぶことはできませんので、別のスマートフォンをペアリングすることはできません。
- 1 つのライダーヘルメットが存在する場合はライダーヘルメットのアイコンを選ぶことはできませんので、別のライダーヘルメットをペアリングすることはできません。
- 1 つのパッセンジャーヘルメットが存在する場合はパッセンジャーヘルメットのアイコンを選ぶことはできませんので、別のパッセンジャーヘルメットをペアリングすることはできません。
- 1 台のナビゲーターが存在する場合はナビゲーターアイコンを選ぶことはできませんので、別のナビゲーターをペアリングすることはできません。

スマートフォンをペアリングする場合、Bluetooth コントロールユニットとのペアリング手順はスマートフォンのポップアップから確定する必要があります。

ナビゲーターを接続する場合は、ナビゲーター本体側で車両の Bluetooth コントロールユニットとの接続を選択して接続プロセスを完了する必要があります。この場合は、ペアリング中の Bluetooth 設定メニュー内にナビゲーターアイコンが点滅します。Bluetooth コントロールユニットとデバイス間の接続に成功した時点で、アイコンは点滅を止めて点灯に切り替わります。

参考

万一 90 秒以内にユーザーがナビゲーター側のペアリングを完了しない時は、インストルメントパネルのペアリング画面が終了し、Bluetooth 設定メニューのメイン画面に戻ります。

ペアリングが完了すると "WAIT.." の文字が表示され、その後接続されたデバイス名に代わります (完全なデバイス名が 1 回スクロール表示され、その後はデバイス名の最初の数文字だけが表示されます)。デバイスのペアリング後は、自動的に Bluetooth 設定メニューのメイン画面に戻ります。

ペアリング中にひとつのデバイスも検出できなかった場合は、メニューに "NO DEV" の文字と数字のゼロが表示されます。ペアリングされたデバイスが存在しないため、ペアリングデバイスタイプに該当するアイコンは表示されません。
これらの表示は 3 秒間表示され、その後ボタン (1)、(2) で “EXIT” または “PAIRING” (もう一度検索を行う場合) を選択し、ボタン (4) で確定します。

ペアリングは Bluetooth 設定メニューを終了するか、検出されたデバイスの他に Bluetooth デバイスが存在しないと終了します。

ペアリングデバイスの削除

ここではペアリングデバイス一覧からペアリングデバイスを削除することができます。

設定メニューに入ります (ページ 122 参照)。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“BTH” を選択します。
機能を選択してから、ボタン (1) および (2) を使用して、一覧から消去するデバイスを選択し、ボタン (4) を押します。
デバイスの削除を決定すると、インストルメントパネルは "WAIT.." の文字を表示します。
削除が終了するとデバイスが一覧から削除され、自動的にペアリングデバイス数が更新されます。そして、“EXIT” が選択 (枠が点滅) されます。
一覧にデバイスが存在しない場合は、“NO DEV” の文字が表示されます。

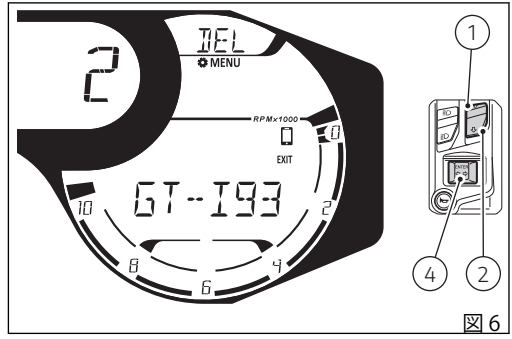


図 6

ペアリング済み Bluetooth デバイスのアイコン

ペアリングが完了すると、Bluetooth デバイスは次のように表示されます。

1) 接続ナビゲーター
2) 接続ライダーインターコム
3) 接続スマートフォン
4) 接続パッセンジャーインターコム

デバイスは最大 4 台まで接続が可能です。

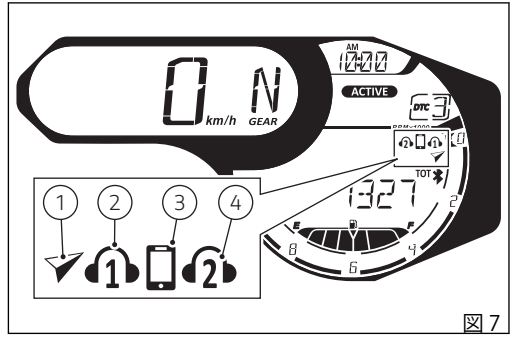


図 7

電話 (装備している場合)

Bluetooth モジュールが搭載され、スマートフォンが接続されている場合、メニュー内 (ページ 114 参照) から “CALLS” 機能 (図 8) を利用できます。この機能は、最新の不在着信、発信、受信のリストを表示します。Bluetooth のペアリング手順については、「Bluetooth デバイスのペアリングと操作」(ページ 14) の章を参照してください。

この機能は直前 7 件の不在着信、発信、着信の履歴を表示します。Bluetooth コントロールユニットを搭載し、スマートフォンが接続されている場合にのみ利用できます。
インストルメントパネルは、Bluetooth 接続されているスマートフォンから履歴一覧情報を直接受け取ります。

ボタン (4) を押して履歴一覧を表示します。
機能に入ると、ディスプレイに直前の通話相手の名前または電話番号が表示されます (図 9)。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して、通話履歴のスクロール表示や “EXIT” の選択 (枠が点滅) が可能です。

- 一覧から電話番号/名前を選択し、ボタン (4) を押して通話を発信します。
- "EXIT" を選択 (枠が点滅) し、ボタン (4) を押して前の画面に戻ります。

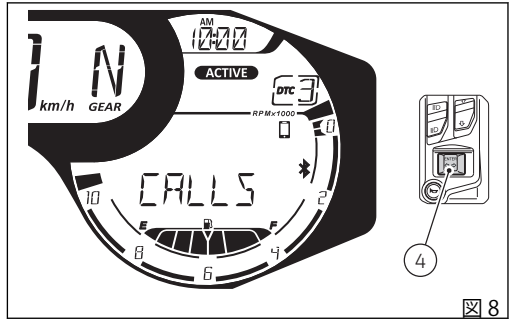


図 8

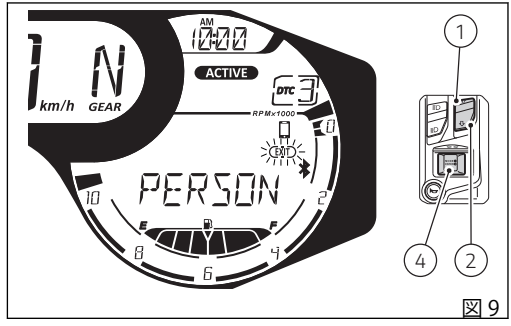


図 9

通話履歴が何もない場合は、ディスプレイに "EMPTY" の文字が表示されます。この場合は、ボタン (4) を押して機能を終了します。

通話中

着信が入ると、インストルメントパネルに着信マークと “CALL” の文字が点滅します。
着信を受けるにはボタン (2) を押します。着信を拒否する時はボタン (1) を 2 秒間押します。
通話を終了するには、ボタン (1) を 2 秒間押し続けます。

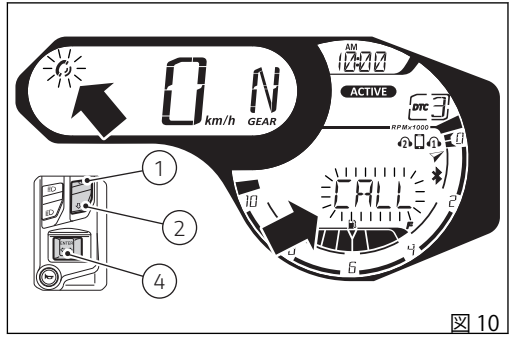


図 10

参考
通話相手の名前や電話番号は表示されません。
着信時にプレーヤーが作動している場合は、通話中はプレーヤーが一時停止になり、通話が終わると再開します。

参考
別の通話中の時は、インストルメントパネルに不在着信マークが表示されます。通話中の通話表示は不在着信の表示より優先されます。

直前の電話番号にリダイヤル (RECALL)

通話終了後 5 秒間は、電話をかけ直すことができる “RECALL” 能が有効になります。
“RECALL” 機能を使用するには 5 秒以内にボタン (2) を押します。
5 秒が過ぎると、“RECALL” 機能は解除されます。

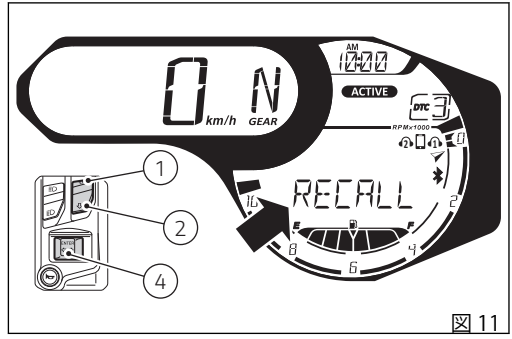


図 11

不在着信

不在着信があると、インストルメントパネルにマーク (A) が 60 秒間表示されます。マークは最初の 3 秒間点滅します。

参考
不在着信の相手番号は表示されません。

受信したメッセージ / E メール

メッセージや E メールを受信すると、インストルメントパネルはマーク (B) を 60 秒間表示して知らせます。マークは最初の 3 秒間は点滅します。

参考
メッセージの相手先番号や E メールアドレスは表示されません。

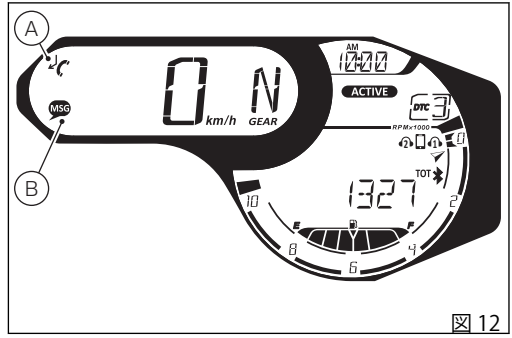


図 12

音楽 (ある場合)

Bluetooth モジュールが搭載され、スマートフォンが接続されている場合、メニュー内 (ページ 114 参照) から “PLAYER” 機能 (図 13) を利用できます。この機能で音楽再生を管理します。
Bluetooth のペアリング手順については、「Bluetooth デバイスのペアリングと操作」(ページ 14) の章を参照してください。

プレーヤーが起動していない場合 (図 13)、インストルメントパネルは “PLAYER” の項目と "OFF" の文字を表示します。プレーヤーを起動するには、ボタン (1) を 2 秒間押します。

プレーヤーが起動している場合は (図 14)、インストルメントパネルには次のように表示されます。

- “PLAYER” の項目
- 再生中の曲名 (フル曲名が右から左に 1 回スクロール表示されたのち、最初の 6 文字が表示されます)
  トラック名を表示できない場合は、曲名の代わりに “NOT AVAILABLE” が表示されます (右から左に 1 回スクロール表示されたのち、最初の 6 文字が表示されます)。
- プレーヤーのグラフィック

ボタン (1) を 2 秒間押すとプレーヤーが停止します。

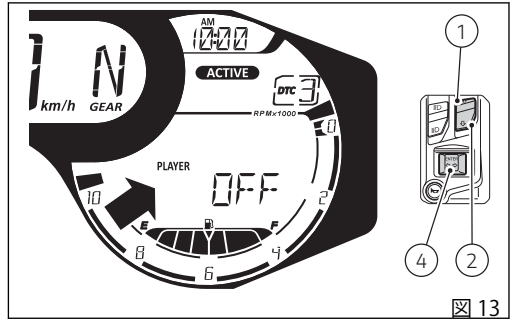


図 13

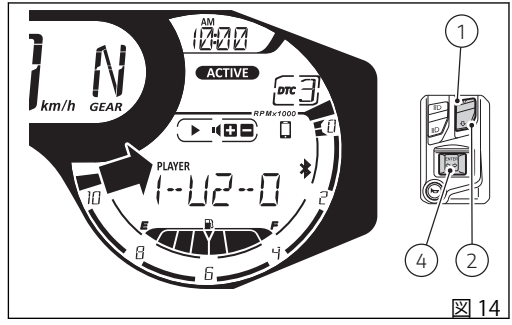


図 14

プレーヤーの作動中に"プレーヤー操作" (ページ 28) 機能内にいる時は、ボタン (1)、(2)、ボタン (4) はプレーヤー操作専用ボタンになります。

- 音量を上げる：ボタン (1) を 1 回押します。
- 音量を下げる：ボタン (2) を 1 回押します。
- 一時停止 / 再生：ボタン (4) を 2 秒間押します。
- 次の曲をスキップ：ボタン (4) を 1 回押します。ボタンを押すごとに次の曲に移ります。

プレーヤーを ON の状態にしたままで、プレーヤー操作から出るにはボタン (2) を 2 秒間押します。プレーヤー操作から出ると、

- プレーヤーと音量をインストルメントパネルから操作することはできなくなります。
- ディスプレイの “プレーヤー操作” 機能内にトラック情報 (再生中、または一時停止) が表示されます。
- ボタン (1)、ボタン (2)、ボタン (4) は通常の機能に戻ります。

プレーヤー操作に戻るには、メニュー内の “プレーヤー操作” 機能に行き 3 秒間待つと、自動的にプレーヤー操作に入ります。

プレーヤーを停止するには、メニュー内の “プレーヤー操作” に行き、ボタン (1) を 2 秒間押します。インストルメントパネルには “PLAYER” 表示と “OFF” の文字が表示され、プレーヤーのグラフィックが消えます。

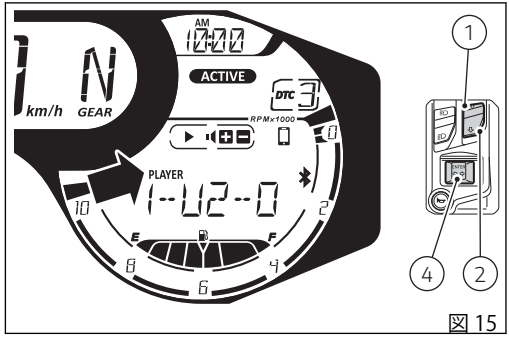


図 15

参考

着信中、通話中、およびリコール中はプレーヤー機能を起動することはできません。スマートフォンの接続が解除された場合、プレーヤーはオフになります。

一般情報

取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS	アンチロックブレーキシステム
BBS	ブラックボックスシステム
CAN	コントローラーエリアネットワーク
DRL	デイタイムランニングライト
DSB	インストルメントパネル
DTC	ドゥカティトラクションコントロール
ECU	エンジンコントロールユニット
RbW	ライドバイワイヤ

本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ

警告
これらの注意事項が守られない場合、ライダーや他の人に重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。

重要
車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考
作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

用途

警告
このオートバイはオンロード用に設計されていますが、路面状態の良好なオフロードであれば一時的に使用可能です。本来の設計条件以外 (公道以外の場所、山林、原野、海岸、砂漠等) での使用は、車両のコントロールを失い転倒の危険性が高まります。

警告
本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

本モーターサイクルにはライダーが搭乗し、パッセンジャーを一人乗せることができます。

警告
ライダー、パッセンジャー、荷物、オプションパーツを含む車両総重量が 396kg/ 873lb を超えないようにしてください。

重要
ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

ライダーの義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。

警告
無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

警告
アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

警告
薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

警告
現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

警告
現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

警告
事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

警告
ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されてることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

警告
ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、バックプロテクター、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットは「ライダーの義務」に記載されている要件を満たしていなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5 本指のもの、また指にはナックルプロテクターと補強を備えた規格適合品を着用してください。

- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- バックプロテクターは、メーカーの仕様に応じて、ライダーの体格に合ったサイズの規格適合品を着用してください。
- ジャケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いている規格適合品を着用してください。規格適合プロテクターを備えた製品を選ぶようにしてください。

重要
車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

重要
安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

重要
パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

"安全のための""ベストプラクティス"""

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

重要
慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。
この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

警告
運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

エンジンを始動する前に、本冊子の「エンジン始動前の点検」の章で定める点検を必ず実施してください。

警告
これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

警告
エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。
排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

重要
ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

重要
走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

重要
パッセンジャーはシート下のフレームの所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

重要
私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。

重要
相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

重要
右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

重要
モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

重要
タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。
トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

警告
エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。エンジンとエキゾーストシステムが高温の間は、カバーシートが破損するおそれがありますので、バイクをカバーしないでください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。
エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。
給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。
給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

警告
この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

警告
燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹸で洗ってください。

警告
燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。
車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

警告
サイドバッグおよびトップケース装着時の最高速度は 150 Km/h (93 mph) を超えないでください。いずれの場合も法定速度を遵守してください。

警告
最大許容重量を超えないようにしてください。また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意

重要
積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

重要
車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

重要
バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

重要
車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

警告
タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

「タイヤ」の段落を参照してください。

危険物 - 警告

使用済みエンジンオイル

警告
使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹸で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告
車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

警告
ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

警告
エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかからないようにしてください。

バッテリー

警告
バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリーの充電中は作業エリア内の換気が十分に行われ、気温が40° C(104° F)以下であることを確認してください。バッテリーを開封しないでください。バッテリーにはバッテリー液やその他の液体を補充する必要はありません。

車両識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

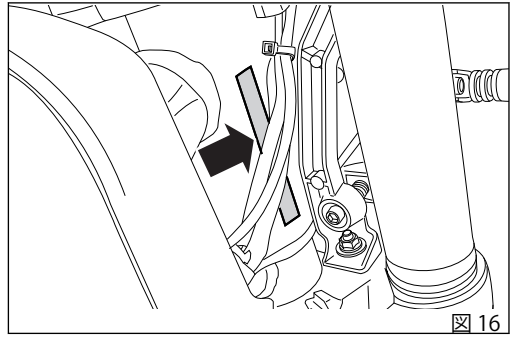


図 16

車両識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

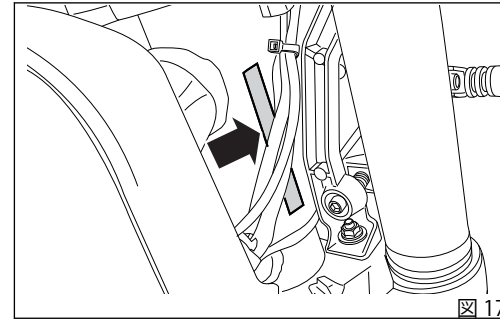


図 17

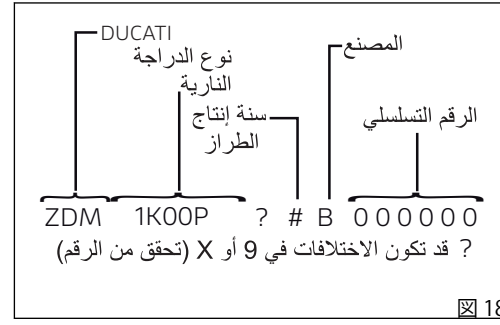


図 18

エンジン識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

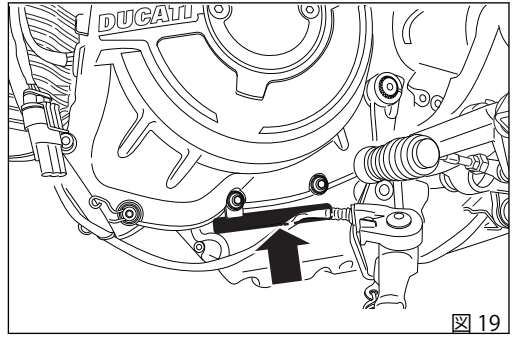


図 19

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

1) フィラープラグ
2) シートロック
3) サイドスタンド
4) リアビューミラー
5) リアショックアブソーバーアジャスター
6) 触媒コンバーター
7) エキゾーストサイレンサー
8) チェーンテンショナーアジャスター (両側)
9) フォークアジャスター

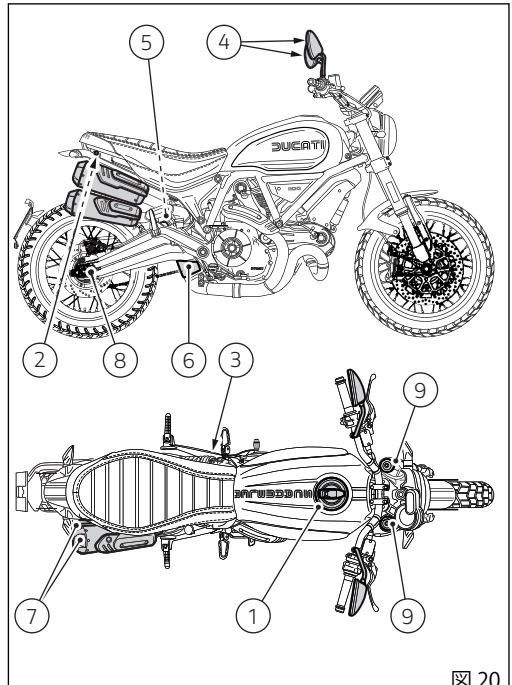


図 20

燃料フィラープラグ

開け方

鍵穴にキーを挿入します。
キーを時計回りに1/4回転させ、ロックを解除します。
プラグ (1) を後ろ側に起こします。

閉じ方

キーを挿入してプラグ (1) を閉じ、プラグを押します。
キーを反時計回りに元の位置まで回し、抜き取ります。

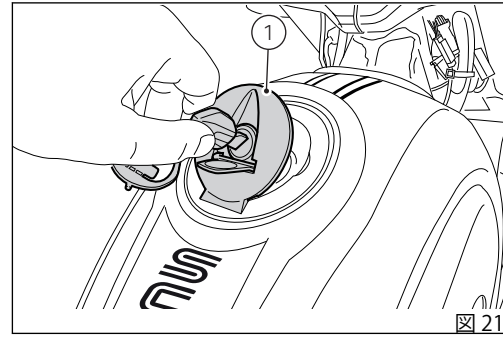


図 21

参考
キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることが可能です。

警告
燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

シートロック

シートの取り外し

スプラッシュガード下にある鍵穴にキー (1) を差し込み、反時計回りに最後まで回します。ピンが外れやすいように、シートのラッチ付近を下に押します。
シート (2) を後ろに引っ張りながらフロントリテーナーから抜き取ります。

警告

シートロックにキーを差し込む時は、エキゾーストシステムに体が触れないように注意してください。エキゾーストシステムは、エンジンを停めた後も長時間熱い状態が続きます。

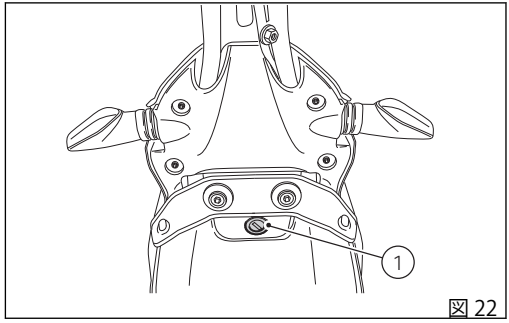


図 22

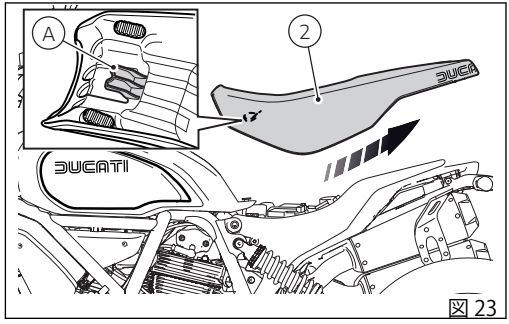


図 23

シートを取り外すと、バッテリーメンテナー接続用コネクター (3) にアクセスできます。使い方は「バッテリー充電の維持」の記載に従い、コネクターをクランプ (X) から抜いてバッテリーメンテナー (4) に接続してください。

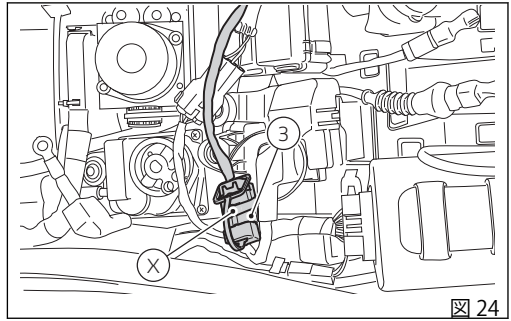


図 24

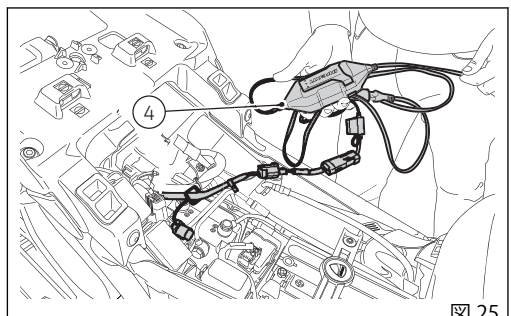


図 25

シートの取り付け

すべての部品がシート下に正しく配置され、固定されていることを確認します。
シート底部の前端部 (A) をフレームマウントの取り付け位置 (B) の下に挿入します。
カチッと音がしてロックされるまでシート (2) の最後部を押します。
シートがフレームにしっかりと固定されたことを確認し、鍵穴からキー (1) を抜きます。

バッテリー充電の維持

本車両のシート下にはコネクター (9) が装備されています。このコネクターには専用バッテリーチャージャー (10) (バッテリーメンテナーキット、部品番号：69928471A (各国)、部品番号：69928471AX (オーストラリアのみ)、部品番号：69928471AW (日本のみ)、部品番号：69928471AY (イギリスのみ)) を接続することができます。専用バッテリーチャージャーは当社販売店にてお求めいただけます。

参考

本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。

重要

所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

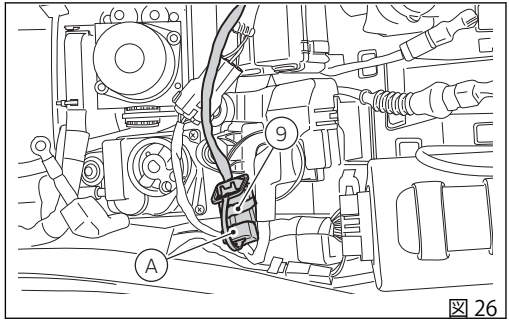


図 26

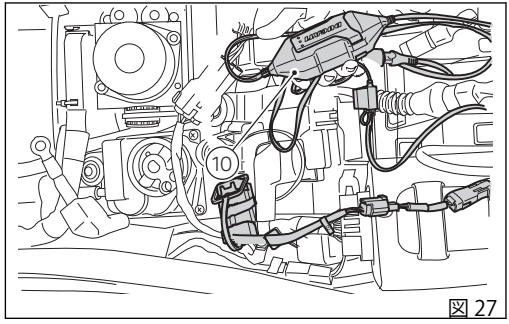


図 27

警告

車両を使用しない期間 (およそ 30 日以上) は、Ducati バッテリーメンテナー (バッテリーメンテナーキット、部品番号：69928471A (各国)、部品番号：69928471AX (オーストラリアのみ)、部品番号：69928471AW (日本のみ)、部品番号：69928471AY (イギリスのみ)) のご使用をお勧めします。電力をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されいます。メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続してください。

参考

Ducati が認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

サイドスタンド

警告

サイドスタンドの位置は、インストルメントパネル上の警告灯によって識別されます。警告灯が点灯している場合は、サイドスタンドが下がっていること示しています (エンジンの始動が禁止されます)。

重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。
サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック (1) を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。
サイドスタンドを元の位置　(水平位置)　に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム (1) を持ち上げます。
サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる

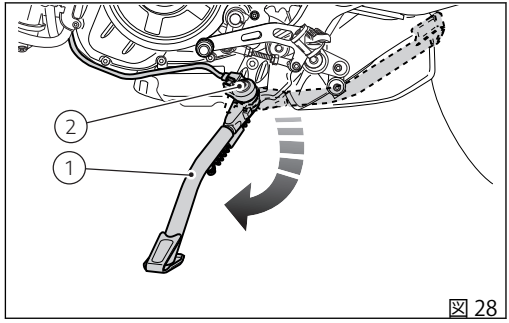


図 28

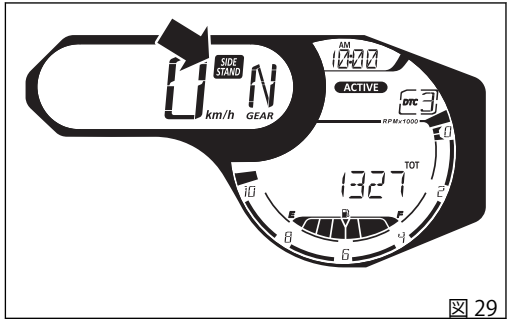


図 29

部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。

警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

参考

定期的にスタンド (内側と外側 2 つのスプリングの状態) と安全センサー (2) の作動を点検することをお勧めします。

警告

停車して長時間エンジンをかけたままにしていると、冷却が十分に行えないためにオーバーヒートによる損傷につながるおそれがあります。停車した状態で、不必要にエンジンをかけ続けないでください。エンジンの始動後は、速やかに発進してください。

USB コネクター

モーターサイクルには 5V USB コネクターが装備されています。USB コネクターは最大 1 A の電流をサポートします。
USB コネクター (1) はシート下に位置し、カバーで保護されています。カバーを持ち上げてコネクターを使用します。

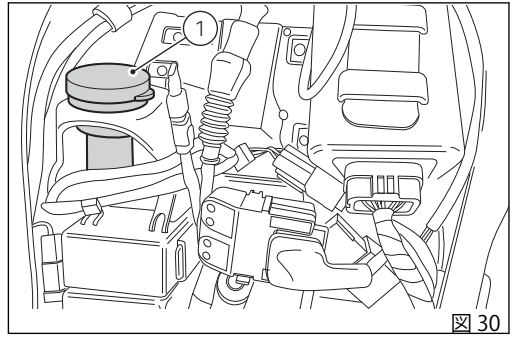


図 30

重要

Key-ON 状態でエンジンを停止している時は、車両のバッテリーが上がるおそれがありますので、長時間装置を USB コネクターに接続したままにしないでください。

警告

USB コネクターを使用していないときは、USB コネクター保護キャップをいつも必ず閉じてください。

警告

雨天の場合は、決して USB ソケットを使用しないでください。

フロントフォーク調整

フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンドダンピング(リターン)、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。
調整は外部アジャスタースクリューを使用して行います。

1) リバウンドダンピングの調整 (1) (右レッグ)
2) コンプレッションダンピングの調整 (2) (左レッグ)
3) スプリングプリロード調整 (3)

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。
リバウンドダンピングを調整するには、左フォークレッグの先端にあるアジャスター (1) をマイナスドライバーで回します。
コンプレッションダンピングを調整するには、右フォークレッグの先端にあるアジャスター (2) をマイナスドライバーで回します。

アジャスタースクリュー(1)、アジャスタースクリュー(2) を回し、ダンピングを調整します。
スクリューを完全に締め付けると、リバウンドダウンピング (1) またはコンプレッションダンピング (2) が最大になります。反対側に回すと、リバウンドダウンピ

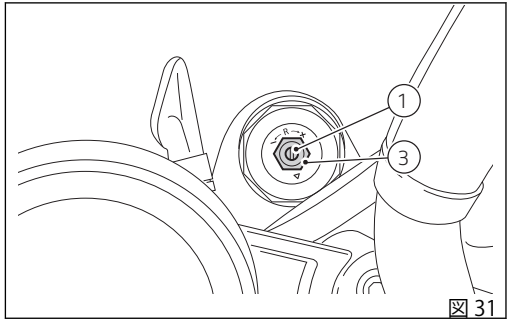


図 31

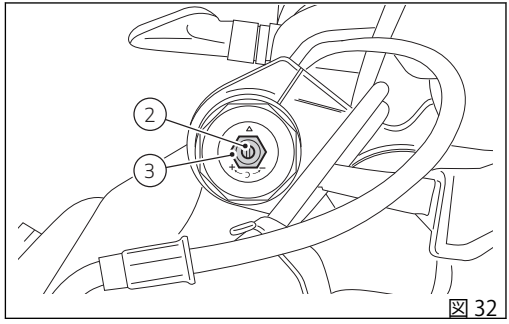


図 32

ング (1)、コンプレッションダンピング (2) が小さくなります。
各レッグのスプリングプリロードを調整するには、六角形のアジャスター (3) をすべて開いた位置から六角レンチで回します (時計回り)。

標準設定

1) リバウンド：すべて閉じた位置から 2 クリック開く
2) コンプレッション：すべて閉じた位置から 2 クリック開く
3) プリロード：5 mm (0.19 in)

警告

アジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

リアショックアブソーバーの調整

KAYABA 製モノショックアブソーバー
リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。モノショックアブソーバー下部にあるアジャスター (1) はリバウンドダンピングを調整します。
リングナット (3) はショックアブソーバーのスプリングプリロードを調整します。スプリングプリロードを変更するには、上部固定リングナットを緩めます。下部リングナットを締める、または緩めることでプリロードの強弱を調整します。希望のプリロードに調整したら、上部固定リングナットを締め付けます。

標準設定
リバウンド：すべて閉じた位置から 3 クリック
スプリングプリロード：11 mm (0.43 in)
軸間距離：305 mm (12.01 in)

警告
ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

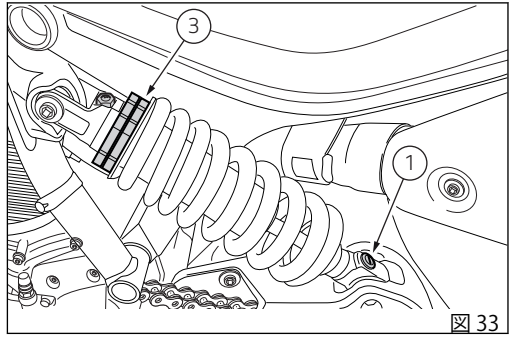


図 33

警告
パッセンジャーと荷物を載せる場合は、リアショックアブソーバーのスプリングプリロードを 3 回転上げます。これによりハンドリングを向上させ、車両が地面に接触するのを防ぎます。この場合、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。

警告

プリロードアジャスターを回すにはピンレンチを使用します。作動中にリングナットのすき間にレンチのソケット部分が急に落ちた場合に車両の他の部品に手を強くぶつけてケガをしないよう十分注意してください。

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置

警告
この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

1) インストルメントパネル
2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
3) 左側スイッチ
4) クラッチレバー
5) リアブレーキペダル
6) 右側スイッチ
7) スロットルグリップ
8) フロントブレーキレバー
9) ギアチェンジペダル

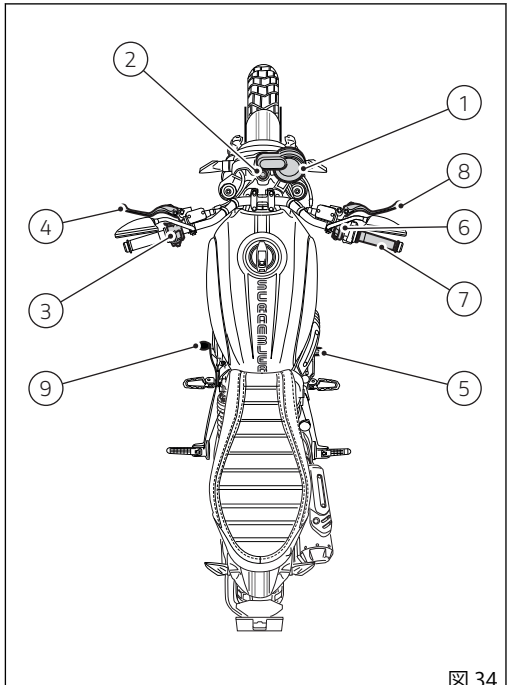
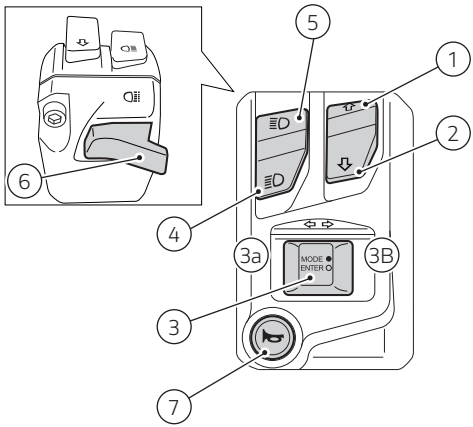


図 34

スイッチ類



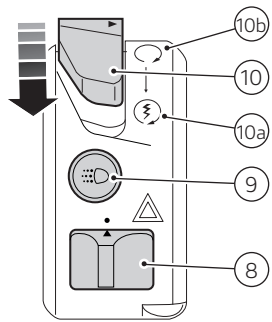


図 35

1	⇧	コントロールボタン UP
2	⇩	コントロールボタン DOWN
3	MODE ● ENTER ○ ⇦⇨	メニュー決定ボタン「ENTER」、およびターンインジケーター (3 ポジション) を変更するボタン ● ポジション (3a)、左ターンインジケーター ● 中央、OFF ● ポジション (3b)、右ターンインジケーター
4		ロービームライト
5		ハイビームライト
6		ハイビームライト点滅
7		警告ホーン
8		ハザードランプ (赤色)
9		DRL (装備している場合)
10		スイッチ、2 ポジション (赤色)
10a		エンジンの始動、下に押す
10b		エンジンの停止

ライトコントロール

ロービーム / ハイビームランプ (DRL 非搭載バージョン)

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯 (OFF) したままパーキングランプのみが点灯します。
エンジンの始動後、ロービームランプが自動的に点灯します。ボタン (7) のポジション (B) とポジション (A) を切り替えて、ロービームランプとハイビームランプを切り替えることができます。ボタン (3) を押すとライトをフラッシュします。Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン (7) をポジション (B) と (A) に押してロービーム / ハイビームランプを起動できます。ボタン (3) を押すとライトをフラッシュします。
ロービーム / ハイビームランプを手動で起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯 (OFF) します。

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームライト、ロービームライトが点灯している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

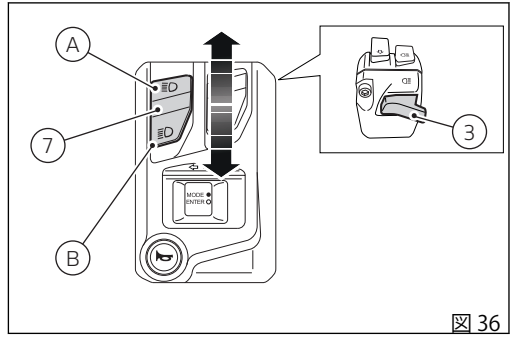


図 36

ロービーム / ハイビームランプ (DRL 搭載バージョン)

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯 (OFF) したままパーキングランプおよび DRL のみが点灯します。
エンジンを始動した時、AUTO モードに設定されており、インストルメントパネルが外光の弱い状況 (NIGHT) を検出した場合は、ロービームランプが自動的に点灯します。一方、外光の強い状況 (DAY) を検出した場合には、DRL が点灯を続け、ロービームランプは消灯したままになります。
ロービーム / ハイビームランプを手動で起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯 (OFF) します。

ボタン (5) を使用して、DRL とロービームランプの切り替えが可能です。

ロービームランプが点灯した場合、ボタン (7、 図 36) のポジション (A) でハイビームランプも点灯するか、ボタン (3、 図 36) でライトをフラッシュすることができます。
Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン (7、 図 36) をポジション (B) と (A) に押してロービーム / ハイビームランプを起動できます。ボタン (3、 図 36) を押すとライトをフラッシュします。

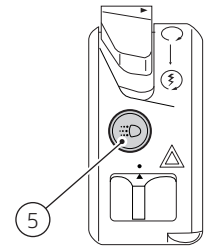


図 37

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームランプ、ロービームランプ、DRL のいずれかが点灯 (ON) している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

DRL (デイタイムランニングライト) — DRL 搭載バージョンのみ

左側スイッチにあるボタン (5) を使用すと、DRL が “MANUAL” に設定されて消灯します。もう一度ボタン (5) を押すと、DRL が点灯して “AUTO” に設定されます。DRL が “AUTO” に設定されている時は、示されているマークがディスプレイに表示されます。

ボタン (5) を押して DRL を “MANUAL” に設定しても、次の Key-ON 時には常に “AUTO” に自動設定されます。一方、設定メニューから “AUTO” または “MANUAL” を設定した場合は、Key-OFF 時も含めて常にその設定が記憶され維持されます。次の Key-ON 時に DRL 制御が直前の設定 (“AUTO” または “MANUAL”、ページ 144 参照) に初期化されます。

ボタン (7、図 36) を押すと、ハイビームランプまたはロービームランプが点灯し、DRL が消灯します。ランプボタン (7、図 36) を離すと、DRL が再び自動的に点灯します。

DRL AUTO モード

DRL がこのモードにある時、エンジン始動時にインストルメントパネルが外光が弱い状況 (NIGHT) を検出した場合は DRL が自動的に消灯し、ロービームランプが点灯します。一方、インストルメントパネルが外光の

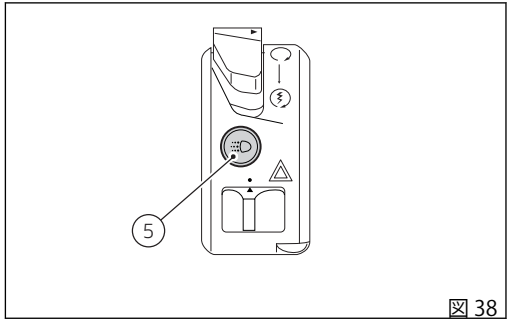


図 38

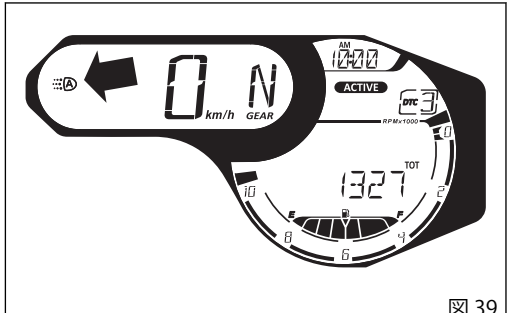


図 39

強い状況 (DAY) を検出した場合は、DRL が点灯し続け、ロービームランプが消灯したままになります。このモードでは、インストルメントパネルが検出した外光の明るさに応じて、DRL とロービームを自動的に切り替えます。ディスプレイには示されているマークが表示されます。

警告
外光の弱い状況下、特に霧や曇りの時に DRL を AUTO (自動) モードで使用すると、非常に危険な場合があります。このような場合には、ロービームランプを自動で点灯するようにしてください。

DRL MANUAL モード

設定メニューから DRL をこのモードに設定している時は (ページ 144 参照)、エンジンを始動しても DRL ステータスは変更されません。DRL を停止 / 点灯するにはボタン (5) を押してください。

警告
外光の特に弱い状況下 (暗闇) で DRL を使用すると、運転中の視界を損なう危険だけでなく、対向車のドライバーの目をくらませるおそれがあります。

参考
日中であれば対向車のドライバーはロービームランプに比べて DRL の方が知覚しやすいため、DRL の日中の使用は視認性を高めます。

ターンインジケーター

インストルメントパネルは、設定メニューからの設定に基づいてターンインジケーターを手動モードまたは自動モードで制御します (ページ 162 参照)。

手動解除：

2 つのうちどちらかのターンインジケーターを起動した後、ボタン (4) で解除することができます。

自動解除：

車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感知して、ターンインジケーターが自動的に消灯します。
自動解除機能は、インジケーターボタンを操作することにより、車両速度が 20 km/h (12.4 mph) を超えると作動します。
ターンインジケーターは、車両がかなりの長距離を走行している間作動したままになっている場合にも、自動的に消灯します。ターンインジケーターボタンが操作された時の車両速度に応じて、200～2,000 メートル (656～6,562 フィート) までの範囲で変化します。

ターンインジケーターの作動中、ターンインジケーターを作動させようとしてターンインジケーターボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。

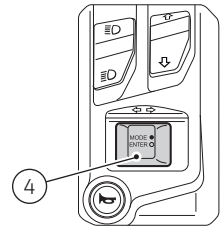


図 40

警告
自動解除システムは、ライダーがターンインジケーターをより快適に操作できるように助ける、ライダー支援システムです。こうしたシステムは、ほとんどの運転において動作するように開発されていますが、ライダー自身がターンインジケーターの動作に注意を払わなくてよくなる機能ではありません (必要に応じて手動で作動/停止)。

ハザード機能 (ターンインジケーターすべて点滅)

ハザード機能は、非常事態を知らせるために 4 つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。
ボタン (6) を押してこの機能を起動します。
ハザード機能の作動中は、4 つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルの該当するランプが同時に同期点滅します。

Key-ON 時にハザード機能を起動すると、Key-OFF しても作動を続けます。
Key-OFF 状態でハザード機能が作動している場合、自動的に消灯するのは 120 分後です。
Key-OFF 状態の時にハザード機能を起動することはできません。

参考
"ハザード" 機能の作動中に車両を Key-ON した場合、ハザード機能は作動し続けます (ただし、インストルメントパネルの初期点検中にハザード機能が一時的に中断される場合があります)。

参考
パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

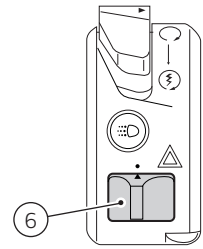


図 41

参考
"ハザード" 機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、"ハザード" 機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

キー

車両には 2 本のキーが付属しています。
キーには "イモビライザーシステムの暗号" が含まれています。
キー (B) は通常時に使用し、以下の操作に必要です。

- 起動
- フィラープラグの開閉
- シートロックの解除

警告
キーは別々に保管し、車両を使用する際は 2 本のキーのどちらか一方を使用してください。

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。
Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。
Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。
登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくするためです。

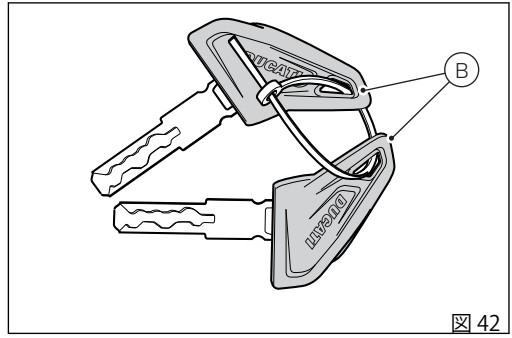


図 42

参考
車両の所有者を変更した場合は、必ず新規所有者にすべてのキーを譲渡してください。

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをブロックする電子システム (イモビライザー) が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。
各キーには電子装置が内蔵されており、スイッチ内に組み込まれた特殊アンテナが起動時に発する信号を変調します。

変調された信号は起動毎に異なる "パスワード" から構成され、これによりコントロールユニットはキーを識別します。正常に識別された場合のみエンジンを始動させることができます。

イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、4 つのポジションがあります。

A) ：エンジンおよびランプを ON にする
B) ：エンジンおよびランプを OFF にする
C) ：ステアリングロック状態

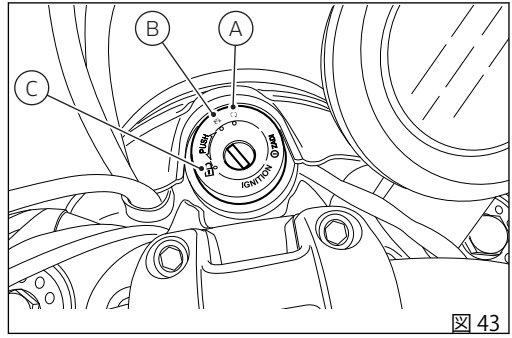


図 43

警告

キーをポジション (C) に合わせるには、キーを押しながらポジション (A)、(B) を超えて回します。ポジション (A)、(B)、(C) の位置でキーを抜くことができます。

PIN CODE による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

PIN CODE 機能が有効な場合は、インストルメントパネルはロック解除のコードを入力できるようにします。すなわち、“PIN” の表示と 4 本の破線 “- - - -” (1 桁目の破線が点滅) が現れます。

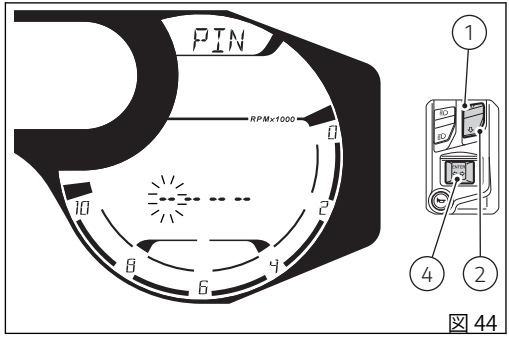


図 44

コードの入力

1) ボタン (2) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり (+1) 、その後 "0" に戻ります。
2) ボタン (1) を押す度に数字が "0" までひとつずつ小さくなり (-1)、その後 "9" に戻ります。
3) ボタン (4) を押して数字を決定し、次の数字に移動します。次の桁には “0” が点滅します。
4) 2) と 3) の手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

ボタン (4) を押して最後の桁の数字を決定すると (A)、

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは “PIN” と "WRONG" を 3 秒間点滅表示します (B)。3 秒後、“PIN” と 4 本の破線 “----” (1 桁目の破線が点滅) を表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。
- PIN CODE の検証中に問題が発生した場合は、インストルメントパネルに "ERROR" が 3 秒間表示され、その後 "WRONG" が表示される場合と同じになります。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは “PIN” と “OK” を 3 秒間点滅表示し (C)、その後メイン画面に戻ります。

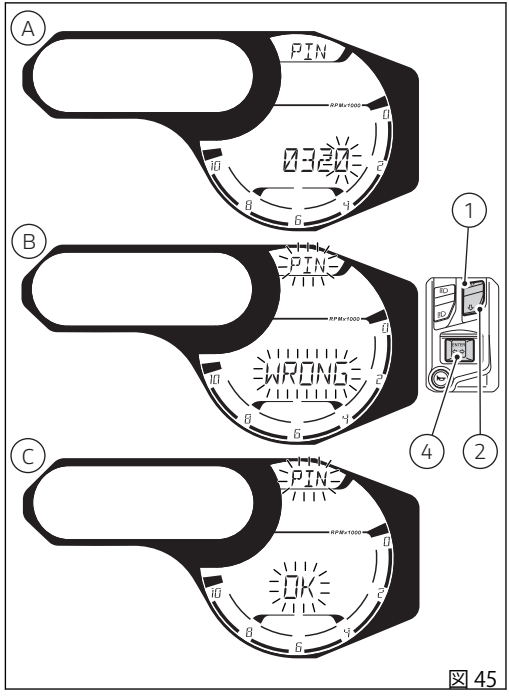


図 45

PIN CODE 入力画面で 2 分間操作を行わないと、インストルメントパネルは “TIME” と “OUT” の文字を 3 秒間点滅表示し、その後自動的にオフになります。

重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

クラッチレバー

レバー (1) でクラッチの接続を操作します。レバー (1) を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください (この場合は、ギアを入れる前にサイドスタンドを上げてください)。

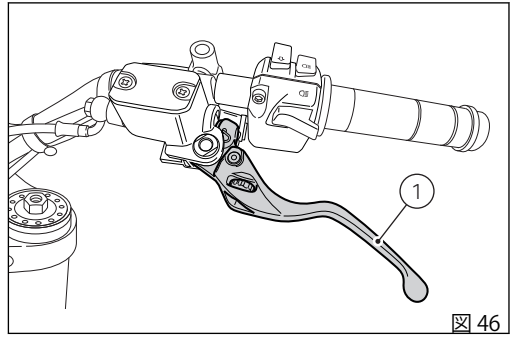


図 46

ノブ (2) を時計方向 / 反時計方向に回すと、レバー (1) とグリップとの距離を調節できます。

警告
これらのコマンドを使用する前に "車両の起動および走行" に記載されている内容をお読みください。

警告
クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

警告
磨耗によるクラッチのすべりがある場合は、上記のようにレバーのアジャスター (2) を絶対に緩めないでください。この場合はアジャスターを締めてください。
すべりが続く場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

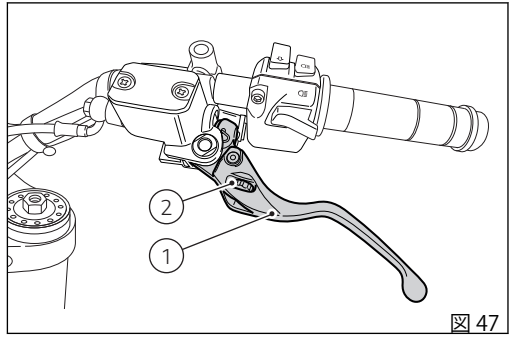


図 47

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ (1) は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。グリップを離すと、自動的に元の位置 (アイドリング状態) に戻ります。

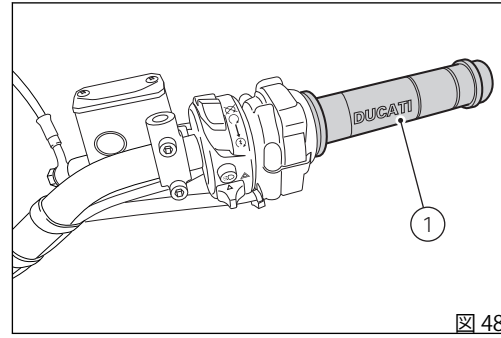


図 48

フロントブレーキレバー

レバー (1) をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。この機種には調整用つまみ (2) が搭載されているため、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。

レバーを調節してレバー (1) とグリップの距離を変更するには、レバー (1) を完全に放した状態でノブ (2) を時計方向 / 反時計方向に回します。

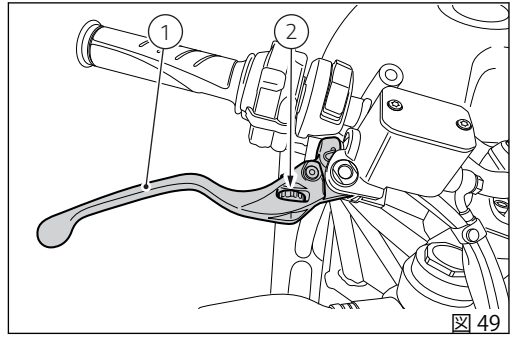


図 49

警告

これらのコマンドを使用する前に "車両の起動および走行" に記載されている内容をお読みください。

警告

フロントブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

リアブレーキペダル

リアブレーキ (1) をかけるには、ペダルを足で下に押してください。
制御システムは油圧式です。

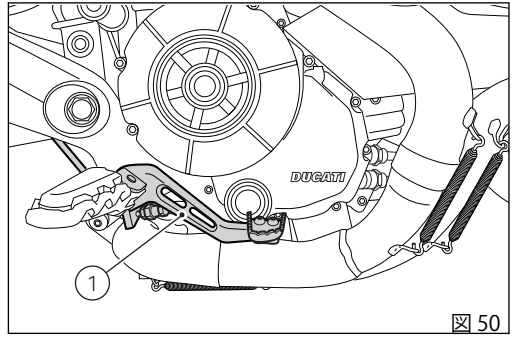


図 50

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルは中央のニュートラルポジションNに自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプNで表示されます。

ペダルは次のように動かせます。

- 下へ＝シフトダウンおよび1速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプNが消えます。
- 上へ＝ペダルを上へ上げることで、2速から順次3速、4速、5速、6速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

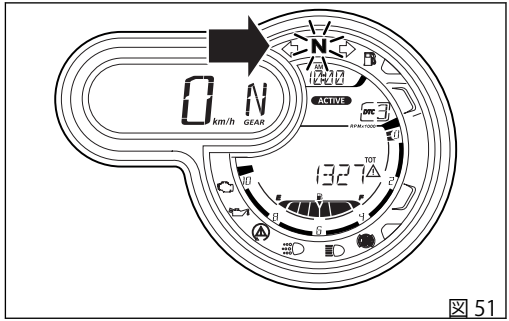


図 51

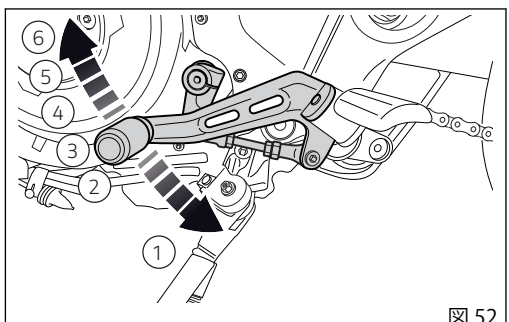


図 52

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダル (1) とリアブレーキペダル (2) のポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。ギアチェンジペダルの位置とリアブレーキペダルの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

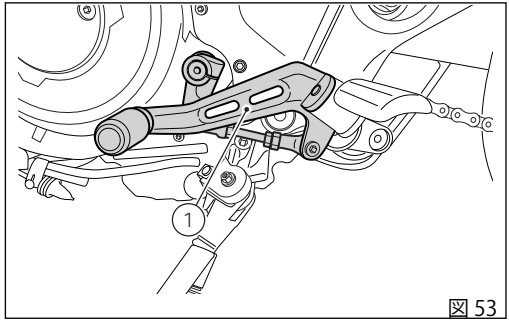


図 53

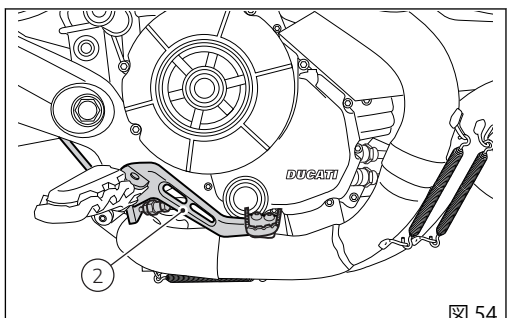


図 54

運転の方法

慣らし運転の方法

エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最高許容回転数：
1) 1,000 km (621 mi) まで
2) 1,000 km (621 mi) ～ 2,500 km (1,553 mi)

1,000 km (621 mi) まで

最初の 1,000 km まではタコメーターに注意し、5,500～6,000 rpm を決して超えないようにしてください。最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。
最初の 100 km (62 mi) は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。
すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、

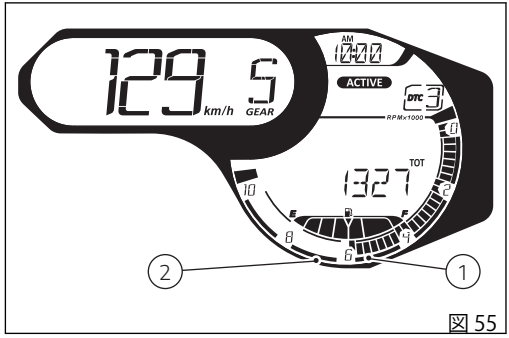


図 55

急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。
定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

走行前の点検事項

警告

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量
  タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください (“燃料の補給” をご覧ください)。
- エンジンオイル量
  点検窓からオイルパン内のレベルを点検します。必要であれば補充してください (“エンジンオイルレベルの点検” をご覧ください)。
- ブレーキフルード
  各フルードタンクのフルードレベルを点検してください (”ブレーキフルードレベルの点検“ をご覧ください)。
- タイヤコンディション
  タイヤ空気圧と摩耗度を点検します (“タイヤ” および “チューブタイヤ” をご覧ください)。
- コマンド機能
  ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
  ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください (”ヘッドライト電球の交換“ をご覧ください)。
- ロック類
  フィラープラグのロックを点検します (”燃料フィラープラグ“ をご覧ください)。
- サイドスタンド
  サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します (”サイドスタンド“ をご覧ください)。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプは点灯し続けます。
走行速度が 5 km/h を越えた時点でランプが消灯する場合は、ABS システムが正常に作動していることを示します。

警告
異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

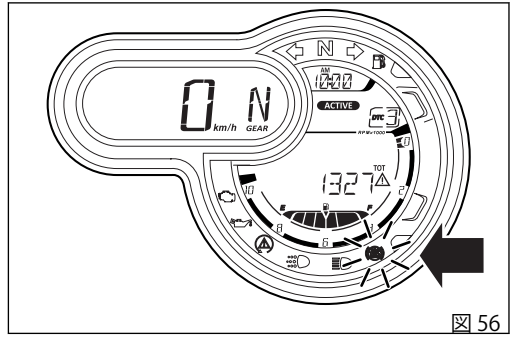


図 56

ABS 装置

アンチロックブレーキシステム (ABS) 9M

ABS 9M はデュアルチャンネルの次世代システムです。リアホイールのリフティングを制御するインテグラルブレーキにより、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

フロントフォニックホイール (1) とリアフォニックホイール (2) が汚れていないことを確認します。

警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

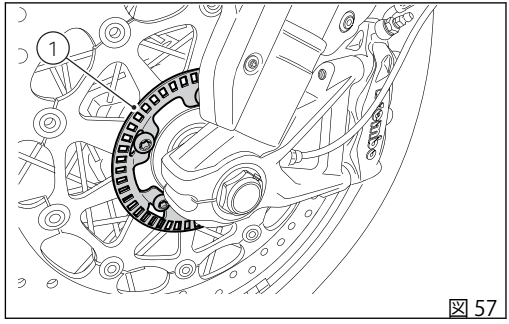


図 57

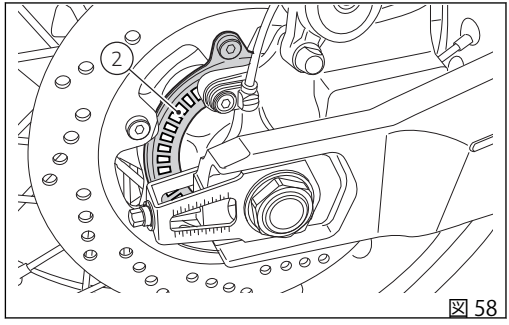


図 58

エンジンの 始動 / 停止

警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。

警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

エンジンの始動

イグニッションキーを (1) の位置に回します。インストルメントパネルの緑のランプ N と赤のランプ が点灯していることを確認してください。

重要

オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。

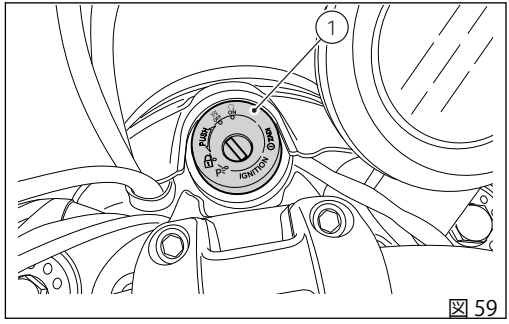


図 59

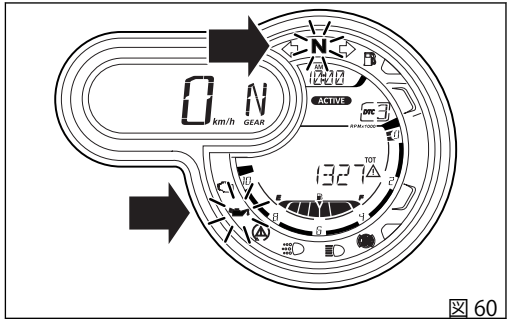


図 60

警告
サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

参考
サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

非常用起動 / 停止スイッチ (2) がポジション (B) (RUN) にあることを確認してください。
スイッチ (2) を下 (C) に押して放します。
スロットルコントロールを操作せず、車両が自然に起動するまで待ちます。

参考
バッテリーが上がっている場合、システムは自動的にスターターモーターの起動を停止します。

重要
エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

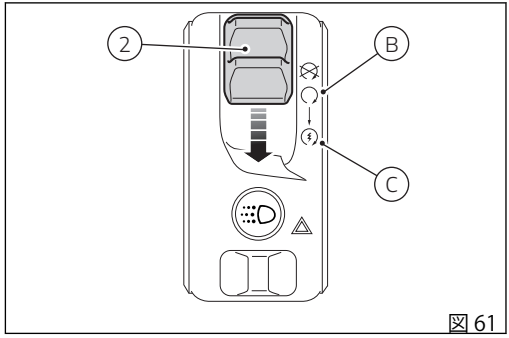


図 61

警告
停車して長時間エンジンをかけたままにしていると、冷却が十分に行えないためにオーバーヒートによる損傷につながるおそれがあります。停車した状態で、不必要にエンジンをかけ続けないでください。エンジンの始動後は、速やかに発進してください。

オイル圧の赤色警告灯 は、エンジン始動後数秒で消灯します。

エンジンの停止

イグニッションスイッチを元の位置に合わせてエンジンを停止します(D)。

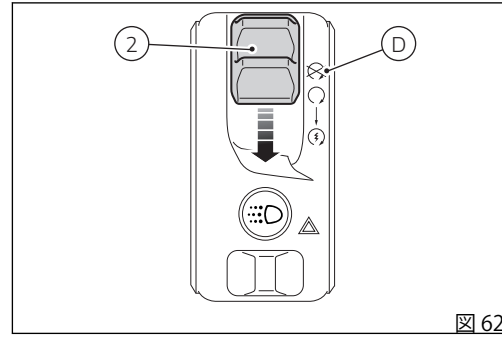


図 62

車両の発進

1) サイドスタンドを水平位置まで上げます。正しい位置に戻ると、インストルメントパネルの警告灯が消えます。
2) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
3) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを 1 速に入れます。
4) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々に放していくと、車両は発進し始めます。
5) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
6) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。

シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。
これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。

警告
急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。

警告
ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。

ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABS もフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。
シフトダウンしながら 1 速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。
ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。
エンジンを停止するには、キーを (2) の位置に回します。

重要

エレクトリカル部品の破損を防ぐため、エンジンを切った状態でキーを ON、(1) の位置のまま放置しないでください。

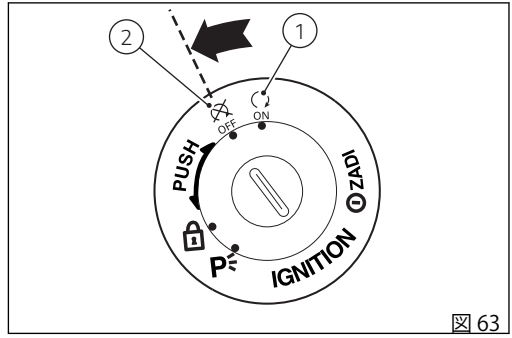


図 63

パーキング

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを (3) の位置に回します。車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。

警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック (ディスクロック、リアスプロケットロック等) は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

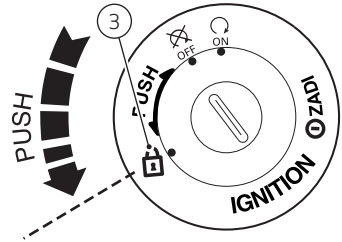


図 64

警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。エンジンとエキゾーストシステムが高温の間は、カバーシートが破損するおそれがありますので、バイクをカバーしないでください。

燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグ (1) が収まる給油口より低くなければなりません。

警告

極端な場合には、キャップを開ける時にタンク内の圧力によって燃料が噴き出る可能性があります。
キャップを開ける時は十分注意して、ゆっくりと開けるようにしてください。
キャップを開けている時にシューという音が聞こえたら、音が聞こえなくなるのを待ってからキャップを完全に開けてください。
このノイズは燃料タンク内の圧力が外に逃げている時に鳴る音です。音がしなくなったということは、残っていた圧力が完全に外へ逃げたことを意味します。
上記のような状況は、特に暑い気候の時に起こりやすくなります。

警告

オクタン価が 95 以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。

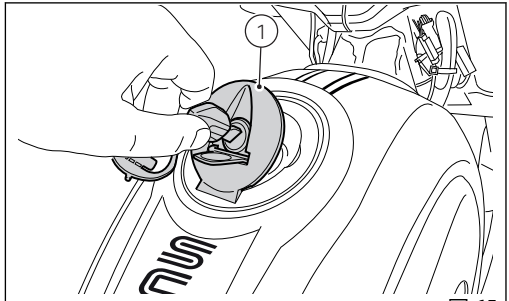


図 65

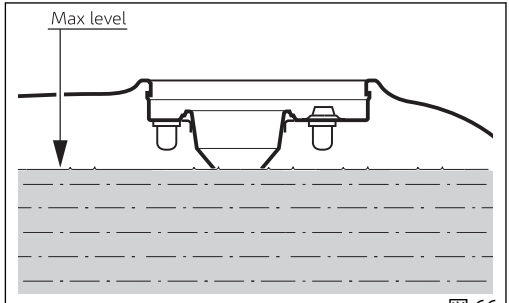


図 66

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

付属アクセサリー

シート下にはツールキット (1) が装備されています。ツールキットに含まれる内容は以下の通りです。

- ドライバー
- ドライバーのハンドル
- ヒューズ用ピンセット
- 六角レンチ 3 mm (0.11 in)
- 六角レンチ 4 mm (0.16 in)
- パイプレンチ用ハンドル
- スパークプラグ用パイプレンチ

このスペースで作業を行うには、"シートの取り外し" の記載に従ってシートを取り外す必要があります。

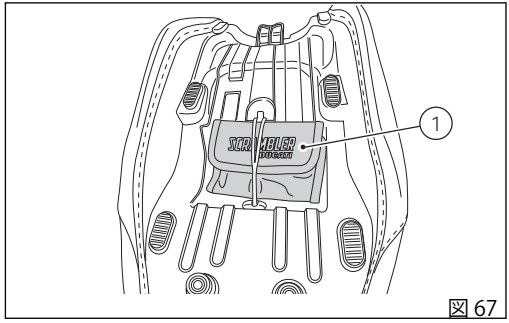


図 67

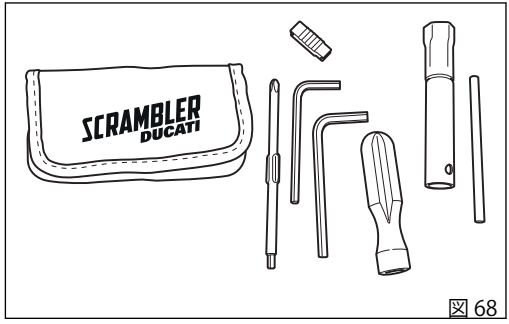


図 68

インストルメントパネル (ダッシュボード)

インストルメントパネル

インストルメントパネル

車両には LCD インストルメントパネルが搭載されています。
インストルメントパネルには、安全運転に必要なすべての情報が表示されます。

警告灯

1) LCD

2) タコメーター
1 分間のエンジン回転数を表示します。

3) ニュートラルランプ N (緑)
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。

4) ハイビーム表示灯 (青)
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。

5) エンジンオイル圧警告灯 (赤)
エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。
"KEY-ON" 時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

重要
エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

6) リザーブ燃料警告灯 (琥珀色)
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します (「補給」をご覧ください)。

7) ターンインジケーター表示灯 (緑)
ターンインジケーターの作動中、左右いずれかの表示灯が点滅します。ハザード作動中は、左右の表示灯が同時に点滅します。

8) "エンジン/車両診断 - MIL" ランプ (琥珀色)
- エンジンマネジメントエラーが発生すると警告灯が点灯します。急な加速や追い越し運転は避け、Ducati 正規サービスセンターまでゆっくりと走行し、故障の修理をご依頼ください。
- 警告灯が点滅するときは、排出ガスに重大なエラーが発生しているため、触媒コンバーターを損傷するおそれがあることを通知しています。可能で

あればDucati正規サービスセンターまで車両の運搬を依頼し、サービスセンターに故障の修理をご依頼ください。いずれの場合も、急な加速や追い越し運転は避けてゆっくりと走行してください。

9) ABS ランプ (琥珀色)
ABS エラーまたは作動しない時に点灯します。

10) OVER REV / イモビライザー停止 / 盗難防止 (赤)

オーバーレブ：
- ランプ消灯 – リミッターの介入なし
- ランプ点灯 – リミッター介入の第一起点
- ランプ点滅 – リミッター介入

参考
エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

イモビライザー / 盗難防止装置：
- ランプ点滅 – 車両オフ (Key-OFF) 状態
- ランプ消灯 – 車両オン (Key-ON) 状態、または 12 時間以上車両オフ (Key-OFF) 状態

11) 一般的エラー警告灯
車両にエラーがある場合や他のコントロールユニットに起因するエラーが存在する場合に点灯します。

12) DTC ランプ (琥珀色)
- ランプ消灯 – DTC システムが起動し作動している
- ランプ点灯 – コントロールユニット不具合のため、DTC が解除されているか作動していない
- ランプ点滅 – DTC システムは起動しているが、性能が制限されている

13) DRL ランプ (緑) (装備している場合のみ)
- ランプ消灯 – DRL 機能が作動していない
- ランプ点灯 – DRL 機能が作動している
- ランプ点滅 – DRL 機能を起動したあと、インストルメントパネルがエラーを検出した

重要
ディスプレイに "TRANSPORT MODE" の文字が表示されている場合は、直ちにドゥカティ正規ディーラーにご連絡ください。正規ディーラーにてこの項目を削除し、バイクの完全な機能の保証を受けてください。

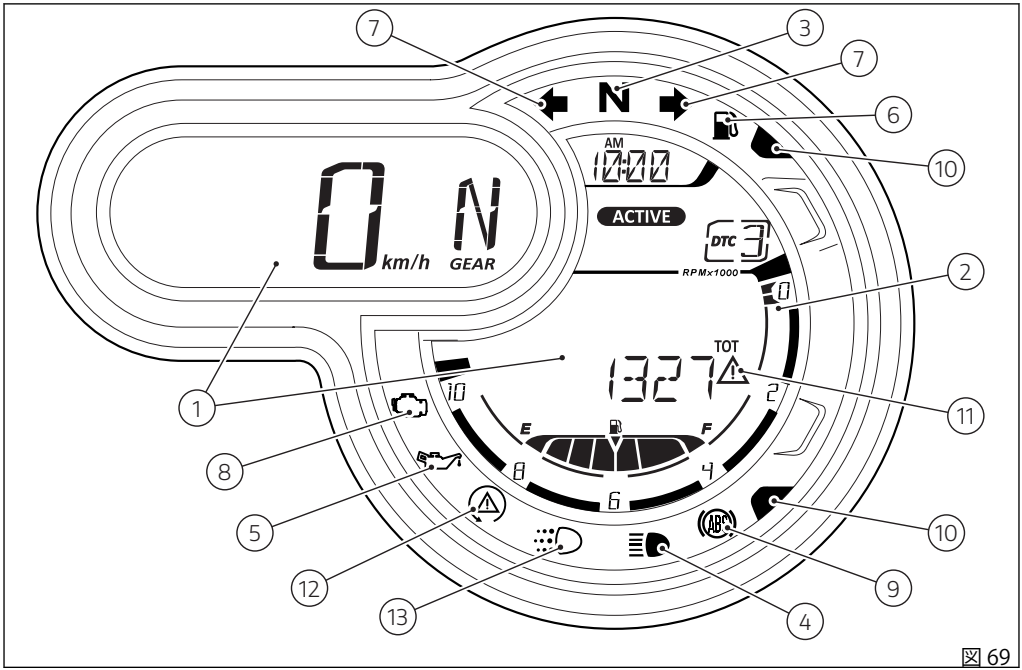

7
3
7
6
10
N
AM
10:00
ACTIVE
DTC
3
0 N
km/h
GEAR
RPMx1000
2
0
TOT
1327
1
11
10
2
E
F
8
4
6
8
5
12
13
4
9
10

図 69

パラメーターの表示

インストルメントパネル起動時に、初期点検としてランプとディスプレイの点検が次のように実施されます。
ランプが順番に点灯し、ディスプレイにはソフトウェアバージョンが表示されるとともに、タコメーターとスピードメーターのバーが徐々に点灯します。
点検が終了すると、インストルメントパネルは所定の機能が表示されるメイン画面 ("スタンダードスクリーン") に移り、警告がある場合は警告灯が点灯します。

点検中に車両速度が 5 km/h (3 mph) (実速度) を超えると、インストルメントパネルはランプとディスプレイの点検を直ちに中断し、メイン画面を表示します。

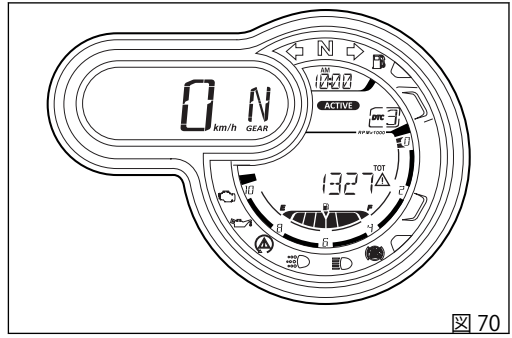


図 70

メイン画面には以下の情報が表示されます。

1) 車両スピード
2) ギア表示
3) タコメーター
4) 燃料レベル
5) メニュー
6) 起動しているDTCレベル、またはDTC解除の表示
7) 設定ライディングモード (Riding Mode)
8) 時計
9) DRLステータス表示 (装備している場合)
10) Bluetoothおよびインフォテインメント (装備している場合)
11) ヒーテッドグリップ (装備している場合)

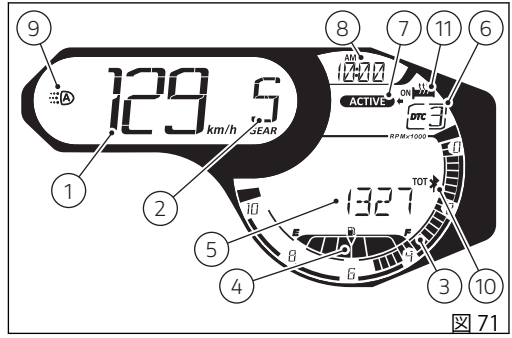


図 71

以下の機能が有効な時は、これらの詳細情報が表示されます。

- 注意 / 警告表示 (Warning)
- サイドスタンドの状態 (Side Stand)
- SERVICE 表示
- SERVICE カウントダウン表示

左側スイッチのボタン (1) または (2) を押すと、メイン画面にメニュー内の機能をスクロール表示することができます。

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター 1 (TRIP 1)
- トリップメーター 2 (TRIP 2)
- 航続可能距離 (RANGE)
- 外気温 (T-AIR)
- プレーヤー操作 (PLAYER) (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- 通話操作 (CALLS) (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- ヒーテッドグリップ (H. GRIPS) (装備、起動している場合)
- 設定メニュー (SETTING MENU)

左側スイッチのボタン (4) を押して操作できる機能がいくつかあります。例えば、トリップメーター 1 (TRIP 1、ページ 116) のリセットなどです。

インストルメントパネルには使用していたメニューの設定が Key-OFF 時に記憶されます。次の Key-ON 時、前回記憶した機能がメニュー内に表示されます。

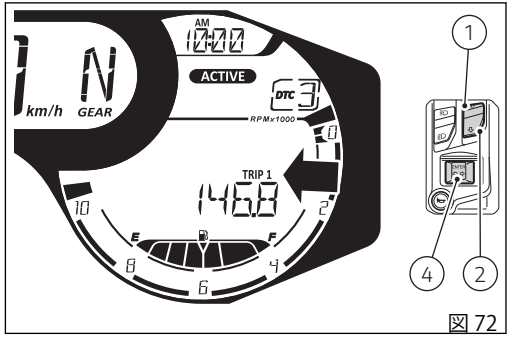


図 72

急な Key-OFF (電源供給が突然途絶えた) の場合、次の Key-ON 時にインストルメントパネルはメニュー内にオドメーター (TOT) 機能を表示します。

Key-ON 時には毎回、インストルメントパネルのメニューに 10 秒間オドメーター (TOT) のページが表示され、その後、前回の Key-OFF 時に保存したページが表示されます。

KEY-ON 時および点検終了時にキーが認識されない場合、インストルメントパネルは以下のように作動します。

- PIN CODE 機能が有効でない場合、ランプの初期点検が省略され、スタンダードスクリーンが表示されます。設定メニューにはアクセスできません。
- PIN CODE 機能が有効な場合は、インストルメントパネルに解除コードを入力する PIN CODE 機能画面が表示されます ("PIN CODE による車両の解除" をご覧ください ページ 67)。

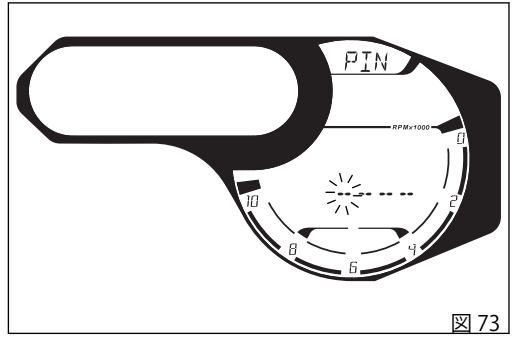


図 73

主な機能

スタンダードスクリーンに表示される機能

メイン機能

- 車両スピード
- エンジン回転数表示 RPM
- ライディングモード (Riding Mode)
- ギア表示 (Gear)
- DTC レベル表示
- 燃料レベル
- 時計
- メニューには以下の機能が表示されます。
  オドメーター (TOT)
  トリップメーター 1 (TRIP 1)
  トリップメーター 2 (TRIP 2)
  航続可能距離 (RANGE)
  外気温 (T-AIR)
  プレーヤー操作 (PLAYER) (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
  通話操作 (CALLS) (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
  ヒーテッドグリップ (H.GRIPS) – 装備している場合
  設定メニュー

サブ機能

- インフォテインメント (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- メンテナンス表示 (SERVICE)
- 注意 / 警告
- エラー表示

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモードのパーソナライズ (R.M.)
- PIN CODE (PIN)
- バックライト設定 (B.L.)
- DRL Auto / Manual モード設定 (DRL)
- 時計 (CLK)
- 日付設定 (DAT)
- サービス情報 (SRV)
- 単位の設定 (UNT)
- バッテリー表示 (BAT)
- ターンインジケーター自動解除の停止 (TRN)
- エンジン回転数表示 (RPM)
- Bluetooth 機器の設定 (Bluetooth モジュールを装備している場合) (BTH)

車両スピード

この機能は車両の走行速度を表示します (設定により km/h または mph)。
インストルメントパネルは車両の実速度 (km/h で算出) 情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位 (km/h または mph) で表示します。
表示最高速度は 299 km/h (186 mph) です。

以下の場合には "- - -" と単位が表示されます。

- 速度が 299 km/h (186 mph) を超えた場合、またはインストルメントパネルが速度情報を受信しない場合 ("- - -" 点灯)
- リアスピードセンサーに異常がある場合 ("- - -" 点滅)

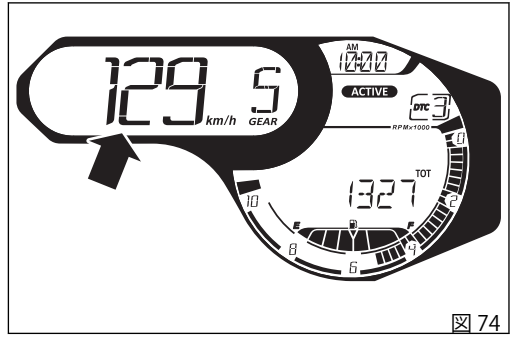


図 74

エンジン回転数表示 (RPM)

この機能はエンジン回転数を表示します。
エンジン回転数データは、回転数に相当する棒グラフの目盛りが右から左へ点灯して表示されます。

リミッター手前の起点値に達すると、該当する警告灯 (ランプ 10、“インストルメントパネル” 参照) が点灯します。

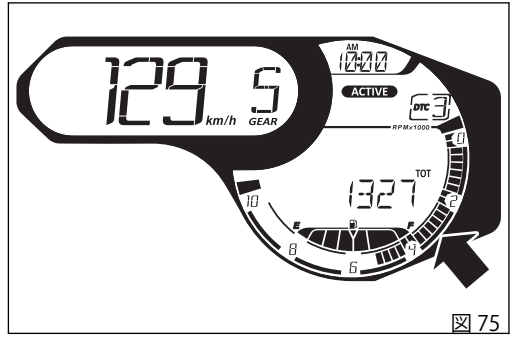


図 75

ライディングモード (Riding Mode)

インストルメントパネルから好みのライディングモードを選択することが可能です。あらかじめ設定された次の3通りのライディングモード ACTIVE、JOURNEY、CITY です。
選択、設定されたライディングモードが、ディスプレイの右側に表示されます。

警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください (低速での変更をお勧めします)。

それぞれのライディングモードには以下のドゥカティが設定したパラメーター、またはユーザーが設定メニューの該当ページから変更したパラメーターが連動しています (項を参照)。

- DTC ドゥカティトラクションコントロールの介入レベル (1、2、3、4、OFF)
- スロットル作動を変更するエンジン出力 (HIGH、MEDIUM、LOW)

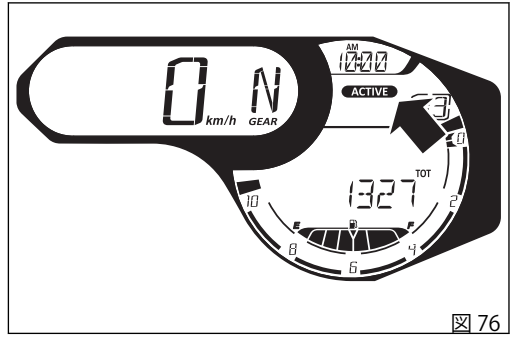


図 76

ライディングモード変更機能

この機能は車両のライディングモードを変更します。ボタン(4)を1秒間押すと、ライディングモードを変更することができます。

ディスプレイには3通りのライディングモード(ACTIVE、JOURNEY、CITY)と“EXIT”の文字が表示されます。
現在設定されているライディングモード名が点滅し、その横には矢印“ ◀ ”が表示されます(図例では、ライディングモード“ACTIVE”が点滅)。
ボタン(1)またはボタン(2)を操作して、ライディングモードと“EXIT”の文字をスクロールさせて選択を変更できます(ライディングモード名が点滅し、矢印が点灯)。
希望のライディングモードを選択したら、メニュー決定ボタン(4)を押して起動します。

“EXIT”の表示を選択している時(枠が点滅)にボタン(4)を押すと、新しいライディングモードを保存せずに終了します。

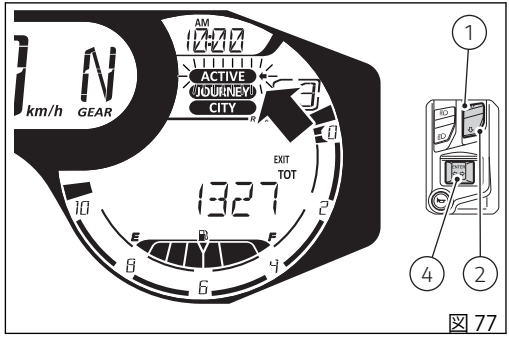


図 77

参考
ライディングモード変更画面に入ってから5秒間ボタン(1)もボタン(2)も操作しなかった場合は、前のライディングモード選択入口画面に戻り設定は変更されません。

ライディングモード変更時、インストルメントパネルは次のような動作を行います。

- 走行速度 5 km/h (3 mph) 以下でスロットルグリップが閉じている場合、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認します。ライディングモード名が 3 秒間点滅してから、スタンダードスクリーンに戻ります。
- 走行速度が 5 km/h (3 mph) 以下でスロットルグリップが開いている場合、インストルメントパネルは “CLOSE”、“GAS” (A、図 78) (スロットルを閉じてください) と表示します。スロットルグリップが閉じられた場合にのみ、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。
- 走行速度が 5 km/h (3 mph) を超えていてスロットルグリップが閉じており、ブレーキが踏まれていない場合、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認します。ライディングモード名が 3 秒間点滅してから、スタンダードスクリーンに戻ります。
- 走行速度が 5 km/h (3 mph) を超えていてスロットルグリップが開いている場合、インストルメントパネルは “CLOSE”、“GAS” (A、図 78) (スロットルを閉じてください) と表示します。スロットルグリップが閉じられた場合にのみ、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。

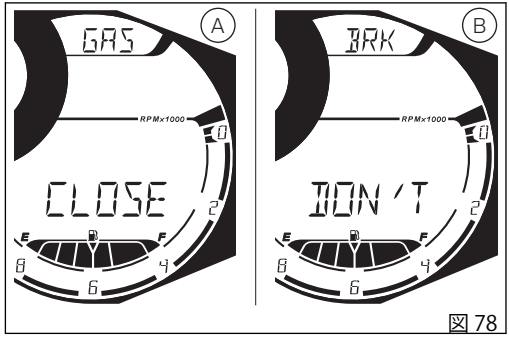


図 78

- 走行速度が 5 km/h (3 mph) を超えていて、スロットルグリップは閉じているもののブレーキをかけている場合は、インストルメントパネルはメニュー枠内に “DON’T”、“BRK” (B、図 78) (ブレーキを放してください) と表示します。ブレーキが放された場合にのみ、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認し、スタンダードスクリーンに戻ります。

- 走行速度が 5 km/h (3 mph) を超えていてスロットルグリップが開いており、ブレーキをかけている場合、インストルメントパネルはメニュー枠内に “CLOSE GAS” (A、図 78)、“DON’T BRK” (B、図 78) (スロットルを閉じてブレーキを放してください) と表示します。スロットルグリップが閉じられ、ブレーキが放された場合にのみ、インストルメントパネルは選択したライディングモードを承認し 、スタンダードスクリーンに戻ります。

“CLOSE GAS” (A、図 78) または “DON’T BRK” (B、図 78) の表示が現れてから 5 秒以内にライディングモードの変更を有効にする上記の条件が満たされなかった場合は、選択手順は中止されます。インストルメントパネルは設定を変更せずに前の表示、ライディングモード選択入口画面に戻ります。

ギア

インストルメントパネルは車両のギアに関する情報を受信し、ディスプレイにその値を表示します。
ギアが挿入されている時は 1 から 6 の値が表示され、ニュートラルの時は "N" の文字が表示され、ニュートラルランプ (ランプ 2、“インストルメントパネル” 参照) が点灯します。

ギアの学習が実施されていない場合は、文字 “C” とニュートラルランプ (ランプ 2、“インストルメントパネル” 参照) が点滅します。

以下のような場合には線 “-” が表示されます。

- インストルメントパネルがギアデータを受信できない場合は、線 “-” とニュートラルランプ (ランプ 2、“インストルメントパネル” 参照) が点滅します。
- エラーが発生した場合は、線 “-” が点灯し、ニュートラルランプ (ランプ 2、“インストルメントパネル” 参照) が点滅します。
- ギアデータが不安定な場合は、線 “-” が点灯します。

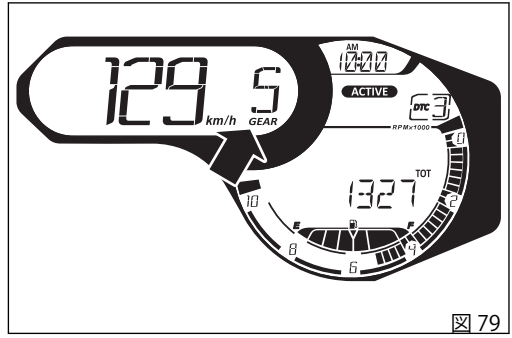


図 79

参考
線 “-“ が点灯し、ニュートラルランプが消えている場合は、ギアが機械的に安定した位置にない可能性があります。この場合は、ギアが正しく表示されるまでギアを操作してください。

DTC

ドゥカティトラクションコントロール (DTC)

ドゥカティトラクションコントロール (DTC) はリアホイールのスリップ制御を行い、4つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。

インストルメントパネルはディスプレイにDTC機能の状態を以下のように表示します。

- DTCがONの場合、"DTC" の文字と設定介入レベル1から4までの数値。
- DTCがOFFの場合は、"DTC" の文字と "-" が点灯。
- DTCがONの時に機能制限モードである場合は、"DTC" の文字が点灯、1から4までの数値が点滅、さらにDTCランプ (ランプ8、“インストルメントパネル” 参照) が点滅します。
- システムに異常が発生した場合は、"DTC" の文字が点滅し、1から4までの数値が点灯します。
- DTCエラーの場合は、"DTC" の文字と "-" が点滅、さらにDTCランプ (ランプ8、“インストルメントパネル” 参照) が点灯します。

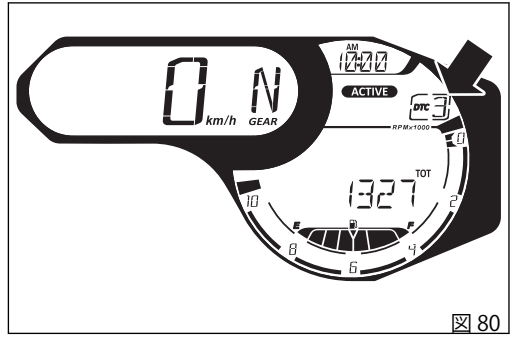


図 80

警告

システム異常の場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

警告

DTCはライダーをアシストするシステムです。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDTC干渉レベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC	ライディングタイプ	用途	DEFAULT
1	SPORT	このレベルはグリップの良い路面のサーキットと一般道両方での中級・上級ライダー向けスポーツ走行用に設計されています。システムはドリフトを許容します。	NO
2	TOURING	このレベルはグリップの良い路面でのストリート走行用に設計されています。システムはドリフトを許容します。	ライディングモード "ACTIVE" のデフォルトレベル
3	SAFE & STABLE	このレベルは乾いたアスファルトのあらゆる走行条件を考慮した一般道走行用に設計されています。システムはスリップを許容しません。	ライディングモード "JOURNEY" および "CITY" のデフォルトレベル
4	RAIN	このレベルは濡れたアスファルトや滑りやすい路面での一般道走行用に設定されています。ENGINE LOW の使用を推奨。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

警告

車両に搭載されている DTC システムの全レベルの調整は、車両の標準装備タイヤ (フロント：Pirelli MT60 RS 120/70 - 18、リア：Pirelli MT60 RS 180/55 - 17) を使用して決定されています。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を及ぼす可能性があります。

標準装備のタイヤと違いがわずかなタイヤ、たとえばモデルやメーカーは異なってもサイズクラスが同じタイヤ (フロント＝120/70 - 18、リア＝180/55 - 17) を装着する場合は、適切なレベルを選択することでシステムは最適に作動することができます。サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合、システムの機能が影響を受けるため、設定可能な 4 レベルのどれも納得のいくものでなくなる可能性があります。この場合、システムを解除することをお勧めします。

レベル 4 を選択すると、DTC システムはリアタイヤのわずかなスピンにも介入します。レベル 4 とレベル 1 の間には、その他に中間の介入レベルが存在します。DTC の介入度はレベル 4 から 1 に向かい減少します。レベル 1、2 ではコーナー出口でリアタイヤをスピンやドリフトさせることができます。レベル 1 は中級・上級ライダーにのみ推奨されます。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

1) タイヤ/アスファルトのグリップ (タイヤタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
2) レイアウト/行程 (類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる)
3) ライディングスタイル (より "スムーズ" に、またはより "シャープ" に)

グリップ状況とレベルの関係：正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況に大きく左右されます (後述の一般道での使用時のアドバイスを参照)。
レイアウトタイプとレベルの関係：レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当な DTC 介入レベルが必要になります。
ライディングスタイルからのレベル選択カーブ出口で早めに車体を起こし「シャープ」に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して「スムーズ」に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

乾いた一般道での使用時のアドバイス

DTC を起動した後、レベル 3 を選択し、好みのスタイルで運転します。DTC が介入しすぎると感じる場合は、レベルを 2、1 と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。

グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更してもまだ設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します (例：レベル 2 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 1 に、レベル 2 では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル 3 に変更します)。

濡れた一般道での使用時のアドバイス

濡れた一般道ではレベル 4 を使用することが推奨されます。同時に ENGINE LOW レベルを選択してください。

燃料レベル

この機能は燃料残量を表示します。
リザーブ警告灯 (ランプ 5) は、レベルが目盛 2 まで下がると点灯します。
さらにレベルが下がると、燃料ポンプマークが点滅を始め、文字 “E”、“F” とインジケーター “ ▼ ” が点滅します。

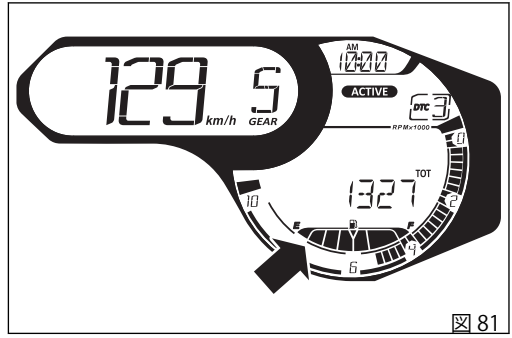


図 81

重要

燃料がリザーブ状態に入りランプが点灯している場合は、給油の際に車両を停止 (Key-OFF) することが推奨されます。車両を停止せずに (Key-ON でエンジン OFF の状態) 給油を行うと、燃料データがすぐに更新されないことがあります。

参考

レベルセンサーにエラーや異常が発生した場合は、目盛りは表示されません。代わりに、燃料ポンプマーク、文字 “E”、“F” とインジケーター “ ▼ ” が点滅します。

時計

インストルメントパネルは時間を次のように表示します。

- hh (時間) : mm (分)
- AM または PM の文字。

電源の供給が中断 (バッテリー OFF) すると、時間表示の代わりに 4 本の破線 “– – :– –” と “AM” の文字が表示されます。

時間は設定メニューから設定することができます。

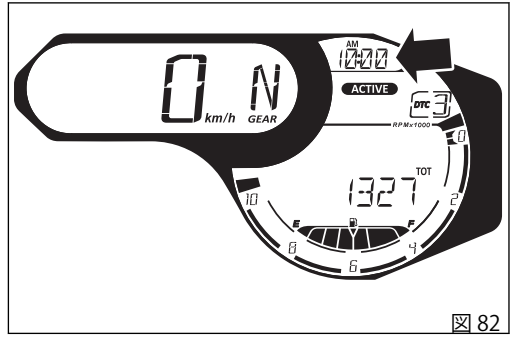


図 82

メニュー機能

左側スイッチのボタン (1) または (2) を押すと、メイン画面にメニュー内の機能をスクロール表示することができます。ボタン (4) を押して、表示されている機能を操作することができます (例：トリップメーター TRIP 1 のリセット)。

メニューには以下の機能が表示されます。

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター 1 (TRIP 1)
- トリップメーター 2 (TRIP 2)
- 航続可能距離 (RANGE)
- 外気温 (T-AIR)
- プレーヤー操作 (PLAYER) (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ、ページ 28 参照)
- 通話操作 (CALLS) (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ、ページ 23 参照)
- ヒーテッドグリップ (H.GRIPS) (装備している場合)
- 設定メニュー

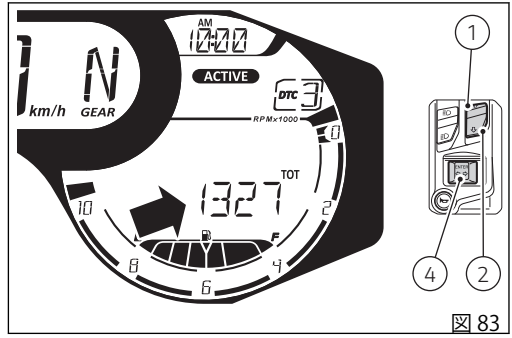


図 83

オドメーター (TOT)

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。
オドメーターに対応する数値 (キロ またはマイル) は、"TOT" の文字と単位で表示されます。最大値 (199999 km または 199999 mi) に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。
オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

電源の供給が中断 (バッテリー OFF) してもデータは消去されません。

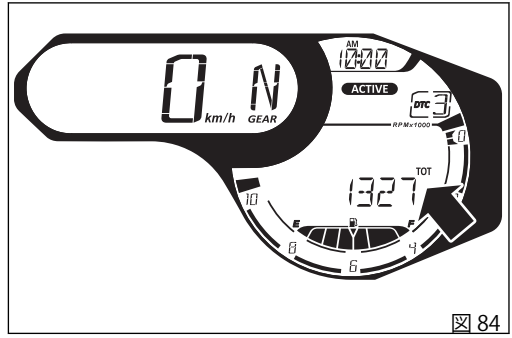


図 84

参考

Key-ON 時にインストルメントパネルは 10 秒間オドメーターを表示し、その後ユーザー設定ページの画面に移ります。

参考

オドメーター機能で点線 " ----- " が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

トリップメーター 1 (TRIP 1)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。
データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。
トリップメーターの表示中にボタン (1) を 2 秒間押すと、TRIP 1 のデータがリセットされます。
TRIP 1 のカウンターは、システムの単位を手動で変更した場合、もしくは電源の供給が中断された場合 (バッテリー上がり等) にも自動的にリセットされます。カウンターは新しく設定した単位で再びゼロからカウントを始めます。

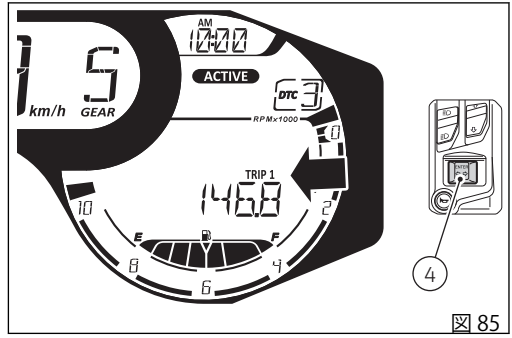


図 85

トリップメーター 2 (TRIP 2)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。
データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。
トリップメーターの表示中にボタン (1) を 2 秒間押すと、TRIP 2 のデータがリセットされます。
TRIP 2 のカウンターは、システムの単位を手動で変更した場合、もしくは電源の供給が中断された場合 (バッテリー上がり等) にも自動的にリセットされます。カウンターは新しく設定した単位で再びゼロからカウントを始めます。

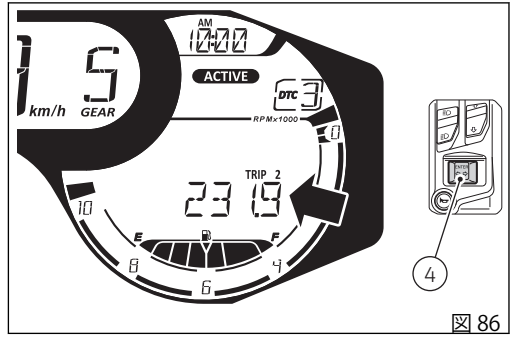


図 86

航続可能距離 (RANGE)

この機能はフューエルタンク内の燃料で走行できる航続可能距離を表示します。
"RANGE" の文字とデータが表示されます。

この機能にエラーが検知されると、インストルメントパネルは 3 本の破線 "- - -" を点滅させます。
インストルメントパネルが RANGE データを受信できない場合は、3 本の破線 "- - -" が固定表示されます。

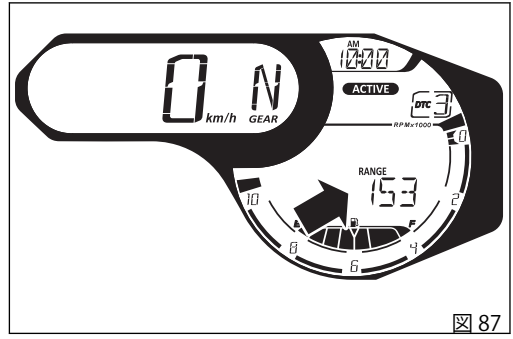


図 87

外気温 (T-AIR)

インストルメントパネルは設定された単位 (°Cまたは°F) に換算された外気温、設定単位、"T-AIR" の文字を表示します。温度データは -39°C～+125°C (-38°F～+257°F) の場合に表示されます。それ以外の温度 (-39°C (-38°F) 未満 か +125°C (+257°F) を超える場合) では、3 本の破線 "- - -" と単位が表示されます。
気温センサーエラーの場合、インストルメントパネルには単位と共に 3 本の破線 "- - -" が点滅します。さらに一般的エラー警告灯が点灯します。
インストルメントパネルが気温のデータを受信しない場合、単位と共に 3 本の破線 "- - -" が固定表示されます。

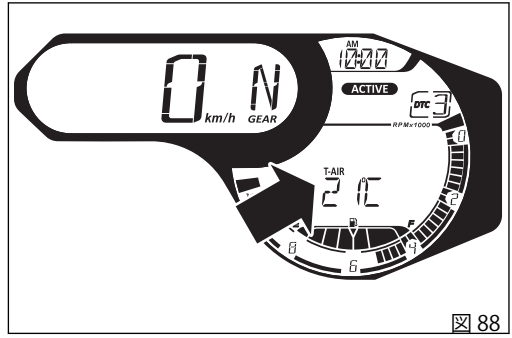


図 88

参考

エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

ヒーテッドグリップ (H. GRIPS)

この機能はヒーテッドグリップの起動と調整を行います。ヒーテッドグリップを搭載している場合に限りメニュー内に表示されます。
“H.GRIPS” の文字と現在設定されているレベルが表示されます。設定できるレベルは、“OFF”、“LOW”、“MED”、“HIGH” です。
ヒーテッドグリップが起動しているときは、ヒーテッドグリップ表示灯 (A) も点灯し、"ON" の文字が表示されます。

参考
エンジンがかかっているときのみ、ヒーテッドグリップが実際に作動します (熱くなる)。

機能を調整するには、ボタン (1) および (2) でメニュー内に “H.GRIPS” 機能を表示し、ボタン (4) を押してレベル設定に入ります。
ボタン (1) と (2) を押して、選択できるレベル (点滅) “OFF”、“LOW”、“MED”、“HIGH” と “EXIT” の文字 (枠が点滅) を順番にスクロールすることができます。
レベルを選択して前の画面に戻るにはボタン (4) を押します。すると、インストルメントパネルがヒーテッドグリップの温度を選択したレベルに設定します。

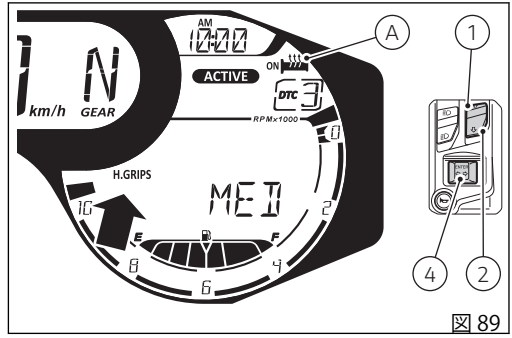


図 89

現在の設定レベルを変更せずに終了するには、ボタン (1) と (2) で “EXIT” の文字 (枠が点滅) を選択し、ボタン (4) を押すと前の画面に戻ります。

参考
バッテリーが切れた場合 (Battery-OFF) は、次回の Battery-O N / Key-O N 時にはデフォルト値の "OFF" に設定されます。

参考

グリップヒーターが起動した状態でエンジンが停止している場合、グリップヒーターは "一時的に" 作動を停止しますが、表示は継続して起動状態を示します。エンジンを再始動するとグリップヒーターは自動的に再起動します。

参考

エンジンがアイドリング中 (2,000 rpm 以下) は、バッテリー充電状態を維持するために、ヒーテッドグリップのレベルを “MED” または “HIGH” に調整している場合であっても、実際には “LOW” レベルに調整されます (“LOW” レベル調整時の温度)。エンジンがアイドリング状態でなくなると (2,000 rpm 以上)、調整レベルは実際の設定レベルに戻ります (“MED” または “HIGH”)。

参考

ヒーテッドグリップは電力消費が大きいため、エンジン低回転域ではバッテリーが上がるおそれがあります。 バッテリーが充電不足 (電圧が 13.2 V を下回っている) 状態になると、エンジンの始動ができる状態を維持するためにヒーテッドグリップの作動を停止します。バッテリー電圧が前述の電圧値を上回ると、自動的に作動を開始します。

設定メニュー

このメニューではいくつかの車両機能のON/OFFおよび設定を行います。
設定メニューに入るには、ボタン (1) と (2) でメニューの機能一覧から “SETTING MENU” を選び、ボタン (4) を押してメニューに入ります。
安全上の理由から、車両の実速度が 5 km/h (3 mph) 以下の時にのみ設定メニューに入ることができます。このメニュー内にいる時に速度が 5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的にメイン画面に戻ります。
設定メニューには以下の機能が表示されます。

- ライディングモードのパーソナライズ (R.M.)
- PIN CODE (PIN)
- バックライト設定 (B.L.)
- DRL Auto / Manual モード設定 (DRL) (装備している場合のみ)
- 時計の調整 (CLK)
- 日付設定 (DAT)
- サービス期限の表示 (SRV)
- 単位の設定 (UNT)
- バッテリー表示 (BAT)
- ターンインジケーター自動解除の停止 (TRN)
- エンジン回転数表示 (RPM)
- Bluetooth (BTH) (搭載している場合のみ、ページ 14 参照)

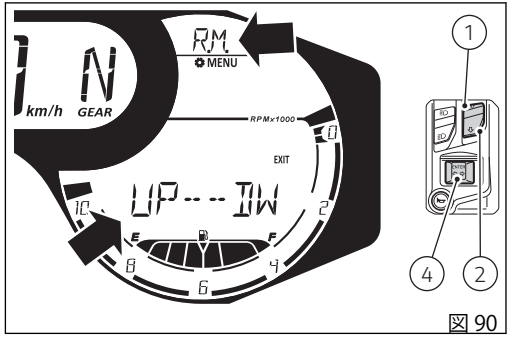


図 90

設定メニューに入ると、画面は次のように表示されています。

- インストルメントパネル上部には、時計の代わりに設定メニュー内の機能 (例：“R.M.”) が表示されます。
- メニューの代わりに “UP – – DW” の文字が表示されます。
- 歯車マークと “MENU” の文字。
- "EXIT" の文字。

ボタン (1) と (2) を押して、設定メニューの機能をひとつずつスクロール表示することができます。また、“EXIT” の文字を選択 (枠が点滅) することができます。

ボタン (2) を押すと次の機能を表示し、ボタン (1) を押すと前の機能を表示します。
希望の機能を表示した後、ボタン (4) を押して対応する設定メニューに入ります。
機能が装備されていない場合や一時的に解除されている場合は、メニューページにアクセスできません。
設定メニューを終了するには、"EXIT" を強調表示 (枠が点滅) してボタン (4) を押します。

ライディングモードのパーソナライズ (R.M.)

この機能で次の 3 つのライディングモードをパーソナライズすることができます。ACTIVE、JOURNEY、CITY。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“R.M.” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、画面には 3 つのライディングモード “ACTIVE”、“JOURNEY”、“CITY” に加えて、ライディングモード “ACTIVE” を示す点滅矢印、“DEFAULT” と “EXIT” の文字が表示されます (図 92)。

ボタン (1) または (2) を使用して、ライディングモード横の点滅矢印、“DEFAULT” (枠が点滅)、“EXIT” (枠が点滅) を順番に表示することができます。
いずれかのライディングモードを選択した状態 (ライディングモード名の横の矢印が点滅) でボタン (4) を押すと、選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
"EXIT" を選択 (枠が点滅) している時にボタン (4) を押すと、設定メニューのメイン画面に戻ります。
"DEFAULT" の枠が点滅している時にボタン (4) を押すと、すべてのライディングモードの全パラメーターを

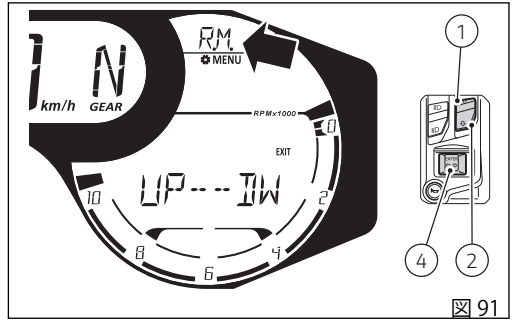


図 91

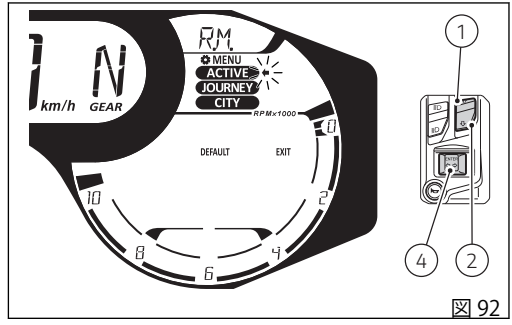


図 92

初期設定値に回復します。詳しくは "全ライディングモード設定の回復 (ALL DEFAULT)" をご覧ください。

参考

現在使用していないライディングモードの設定を変更した場合、変更した新パラメーター (DTC、ENGINE、DEFAULT) が保存されます。一方、現在使用しているライディングモードのパラメーターを変更した場合は、すべての新パラメーターが保存されるとともに、直ちに設定に反映されます。

個別のライディングモードで、以下のパラメーターをパーソナライズできます。

- ENGINE
- DTC

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ると、ディスプレイは次のように表示されます。

- パラメーターを変更するライディングモード名
- “DTC” の文字と現在の設定レベル
- “ENGINE” の文字が点滅し、現在の設定値を中央に表示
- "DEFAULT" の文字
- "EXIT" の文字

自動的に強調表示され最初に変更できるパラメーターは “ENGINE” パラメーター (点滅) です。ボタン (1) と (2) を使用して、各項目を次のように順番に選択 (点滅) することができます。“ENGINE”、“DTC”、“DEFAULT”、“EXIT”。

パラーメーターが強調表示されている時にボタン (4) を押すと、パラメーターのパーソナライズに入り、パラメーターの設定を変更することができます。

"EXIT" の文字が強調表示され、ボタン (4) を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。

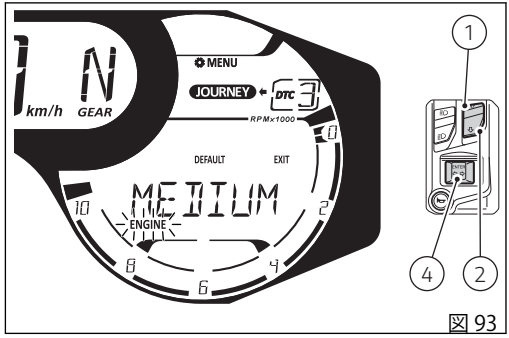


図 93

警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"DEFAULT" 機能を使用してパラメーターを修復してください。

ライディングモードのパーソナライズ：エンジンの調整

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“R.M.” を選択します(A)。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

"R.M." メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、希望するライディングモードを ACTIVE、JOURNEY、CITY から選択します (B)。希望のライディングモードを選択したら (横の矢印が点滅)、ボタン (4) を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります (例：“JOURNEY”)。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して、パーソナライズするパラメーター ENGINE を点滅させて選択します (C)。パラメーターを強調表示したら、ボタン (4) を押します。

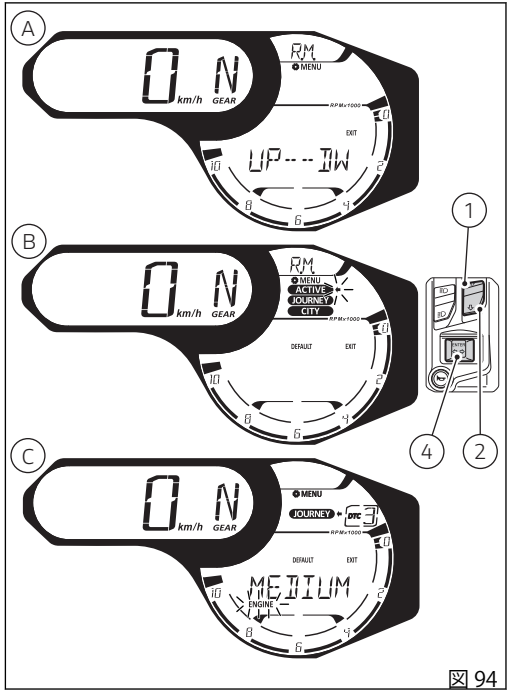


図 94

この機能に入ると、現在設定されているエンジン出力 (“HIGH”、“MEDIUM”、“LOW”) が点滅します (図 95)。ボタン (1) と (2) で、“HIGH”、“MEDIUM”、“LOW” の値と “EXIT” の文字 (枠が点滅) を順番に選択することができます。

新しい ENGINE パラメーター値を選択したら、ボタン (4) を押します。

インストルメントパネルには新しく設定したレベルが表示され、“EXIT” の枠が点滅します (図 96)。この時点でボタン (4) を押すと、前の画面に戻ります。

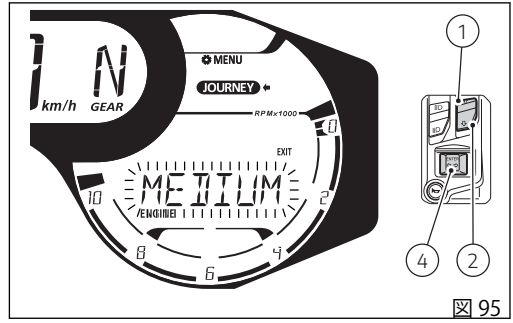


図 95

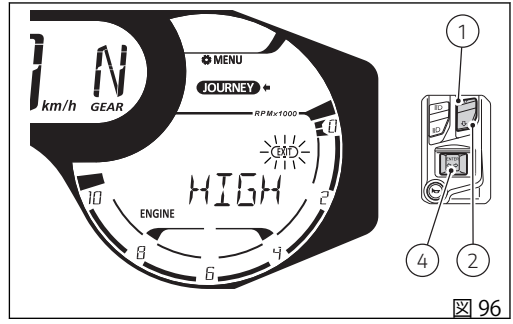


図 96

ライディングモードのパーソナライズ：DTC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動したDTC介入レベルの設定または解除を行うことができます。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“R.M.” を選択します (A)。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

"R.M." メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、希望するライディングモードを ACTIVE、JOURNEY、CITY から選択します (B)。希望のライディングモードを選択したら (横の矢印が点滅)、ボタン (4) を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります (例：“JOURNEY”)。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して、パーソナライズするパラメーターDTCを点滅させて選択します (C)。パラメーターを強調表示したら、ボタン (4) を押します。

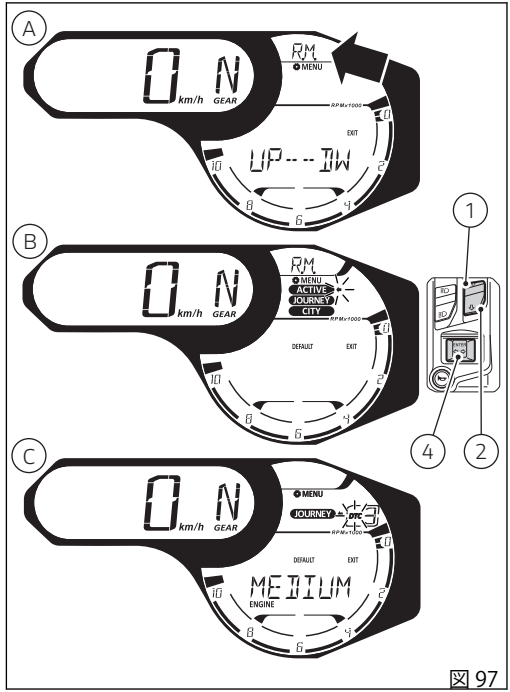


図 97

この機能に入ると、現在設定されている DTC 介入レベルが点滅します (図 98)。ボタン (1) と (2) で、“-” (DTC OFF)、“1”、“2”、“3”、“4” の値と “EXIT” の文字 (枠が点滅) を順番に選択することができます。

DTC パラメーターの新しいレベルを選択したら、ボタン (4) を押します。

インストルメントパネルには新しく設定したレベルが表示され、“EXIT” の枠が点滅します (図 99)。この時点でボタン (4) を押すと、前の画面に戻ります。

参考

"– " (OFF) を選択すると、DTC は解除されます。

レベルを “-” (DTC OFF) に設定して DTC 機能を解除すると、インストルメントパネルに DTC ランプ Ⓐ (ランプ 12、“インストルメントパネル” 参照) が点灯します。

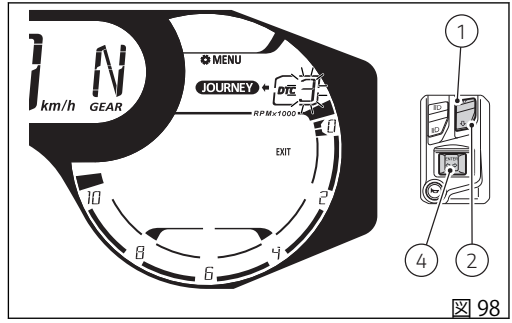


図 98

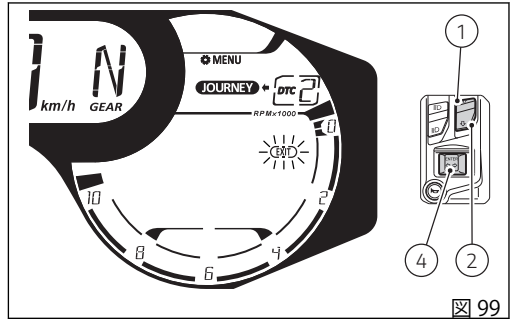


図 99

ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復 (DEFAULT)

ここでは個別のライディングモードに連動するパラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“R.M.” を選択します (A)。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

"R.M." メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、希望するライディングモードを ACTIVE、JOURNEY、CITY から選択します (B)。希望のライディングモードを選択したら (横の矢印が点滅)、ボタン (4) を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります (例：“JOURNEY”)。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して、“DEFAULT” (枠が点滅) を点滅させて選択します (C)。

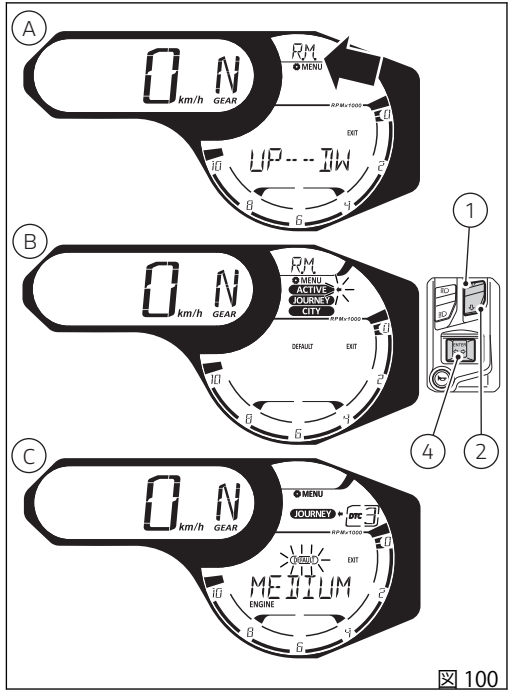


図 100

ボタン (4) を押すと、インストルメントパネルは選択したライディングモードをドゥカティ初期設定値に回復します。このとき、以下のように 2 秒間表示されます。

- ENGINE 値の代わりに破線 “- - - - - -” が点滅
- DTC 値の代わりにマーク “-” が点滅
- 選択したライディングモードの横にある矢印が点滅

続いて、インストルメントパネルは “DF - OK” の文字をさらに 2 秒間固定表示します。

2 秒後、インストルメントパネルにはライディングモードの初期設定値され、"EXIT" が選択 (枠が点滅) されます。この時点でボタン (4) を押すと前の画面に戻ります。

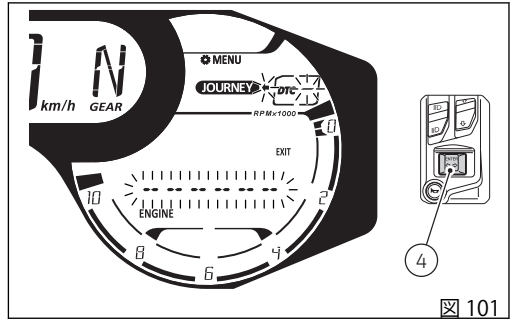


図 101

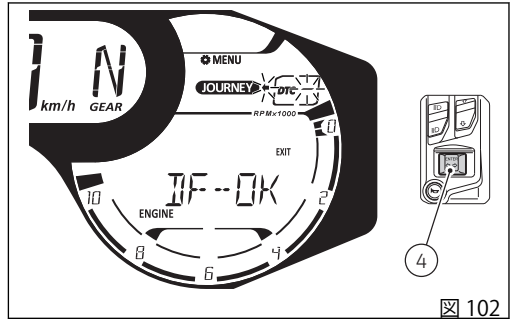


図 102

ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復 (ALL DEFAULT)

ここではすべてのライディングモードに連動するENGINE と DTC のパラメーター値をドゥカティ初期設定値に回復させることができます。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“R.M.” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

"R.M." メニューに入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押して、“DEFAULT” を選択 (枠が点滅) します (図 104)。

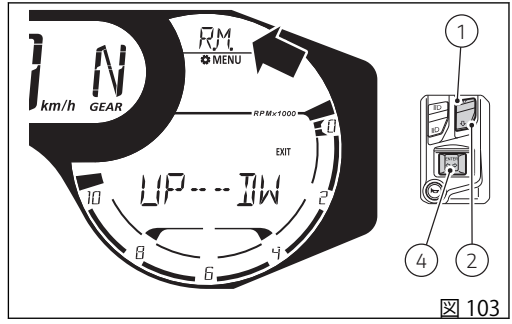


図 103

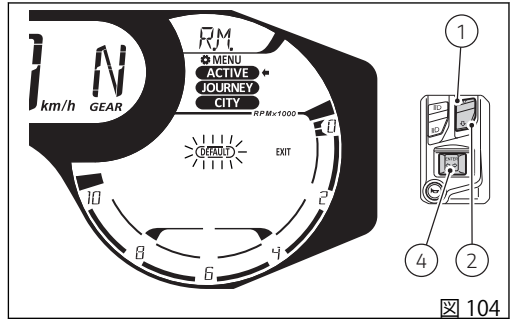


図 104

ボタン (4) を押すと、インストルメントパネルはすべてのライディングモードのドゥカティ初期設定値を回復します。インストルメントパネルには 2 秒間 3 つすべてのライディングモード “ACTIVE”、“JOURNEY”、“CITY” が固定表示され、ライディングモードの右側にある 3 つの矢印が点滅します (図 105)。

続いて、インストルメントパネルは “DF - OK” の文字をさらに 2 秒間固定表示します (図 106)。
2 秒が経過すると、"EXIT" が選択されます (枠が点滅)。この時点でボタン (4) を押すと、前の画面に戻ります。

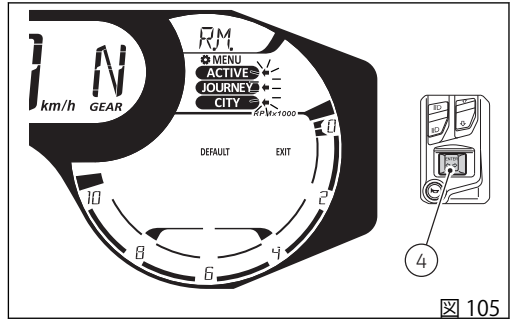


図 105

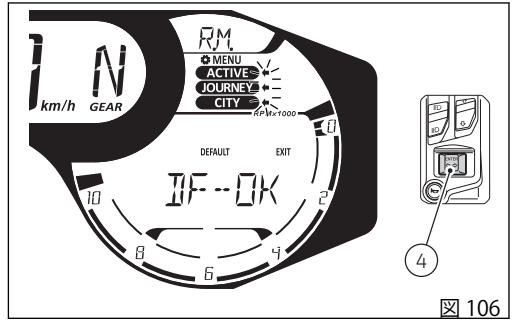


図 106

PIN CODE (PIN) - 登録

この機能で PIN CODE の有効化または変更を行います。PIN CODE は最初車両に登録されていませんので、ユーザーが 4 桁の PIN をインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動することができません。
PIN を変更するには "PIN CODE (PIN) - 変更" (ページ 138) の手順に従います。
不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"PIN CODE による車両の解除" (ページ 67) の手順に従います。

警告

PIN CODE は車両の所有者が設定 (登録) しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに本機能の "リセット" を依頼してください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODE 機能を有効にし、PIN を入力するには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“PIN” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

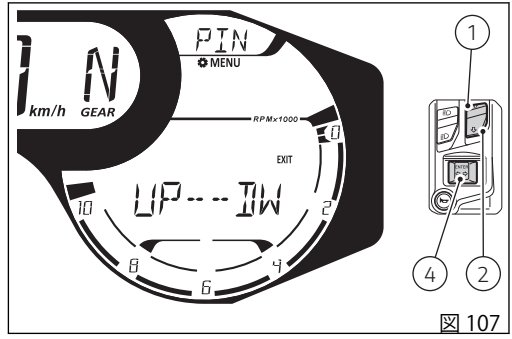


図 107

参考

機能に入った時に “OLD:” が表示されて 4 本の破線 “----” が点滅する場合は、PIN がすでに存在し、機能が有効であることを表します。

機能に入ると、"N:" の表示に続いて 4 本の破線 "- - - -" がディスプレイに点滅します (A)。
PIN CODE を有効にしないで前の画面に戻るには、ボタン (1) またはボタン (2) を押して "EXIT" を選択します (枠が点滅)。この時点でボタン (4) を押します。
一方、4 本の破線 "- - - -" が点滅している状態でボタン (4) を押すと、PIN CODE の入力に進みます。

コードの入力 (B)：

1) ボタン (4) を押すと、"0" で表示される 1 桁のみが点滅します。
2) ボタン (1) を押す度に数 (+1) 字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (2) を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定し、次の桁に移動します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します (C)。

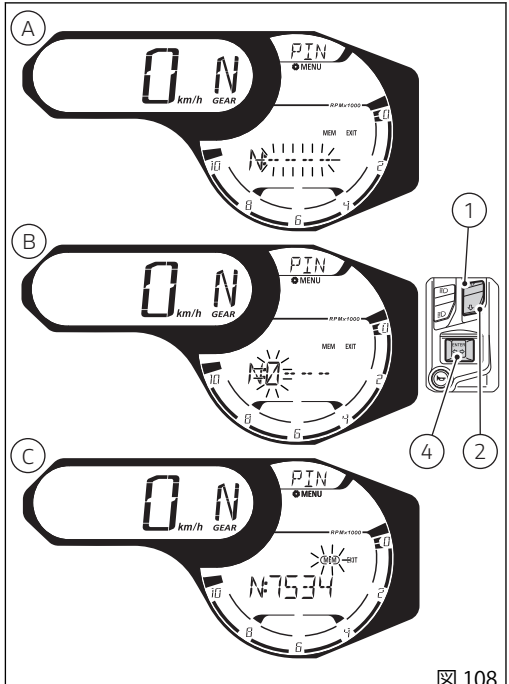


図 108

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、"MEM" (C、図 108) の文字枠が点滅します。
ボタン (1)、(2) を使用して、以下の操作を行うことができます。

- "EXIT" を選択 (枠が点滅) してボタン (4) を押すと、PIN CODE を保存せずに終了します。
- 設定したコードのひとつの数字を選択 (点滅) してボタン (4) を押すと、コード入力をもう一度行い数字を変更することができます。
- "MEM" (C、図 108) を選択 (枠が点滅) してボタン (4) を押すと、新しい PIN CODE が保存されます。インストルメントパネルは "MEM OK" を 2 秒間表示し、続いて "EXIT" の文字枠を点滅させます。ボタン (4) を押して終了します。

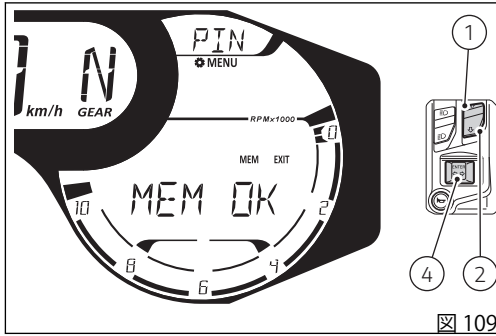


図 109

最初の PIN CODE を設定して以降は、メニューから PIN CODE 登録ページに入ることができなくなり、代わりに PIN CODE の変更ページになります。PIN CODE 機能がリセットされた場合 (Ducati 正規ディーラーのみ実施可能) に限り、最初の PIN CODE の登録ページが有効になり、メニューから入ることができるようになります。

PIN CODE (PIN) - 変更

この機能で PIN CODE の有効化または変更を行います。PIN を登録するには "PIN CODE (PIN) - 登録" (ページ 135) の手順を参照してください。
不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"PIN CODE による車両の解除" (ページ 67) の手順に従います。

PIN CODE を変更するには、設定メニューに入ります。ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“PIN” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

参考
PIN CODE を変更するには、現在設定されている PIN を知っている必要があります。

参考
機能に入った時に "N : " (NEW) が表示され、点線 "- - - -" が点滅する場合は、PIN CODE が登録されたことがないことを示します。PIN CODE を登録してください。

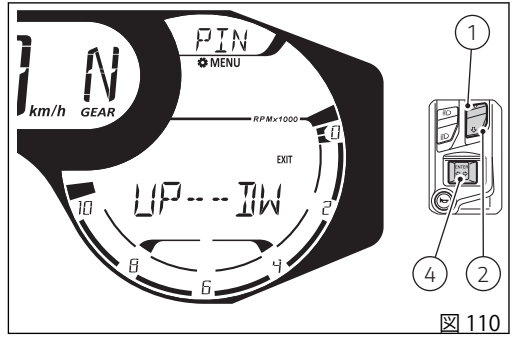


図 110

機能に入ると、旧コードを入力する必要があります。"O:" の表示に続いて 4 本の破線 "- - - -" がディスプレイに点滅します (A)。
PIN CODE を入力しないで前の画面に戻るには、ボタン (1) またはボタン (2) を押して "EXIT" を選択します (枠が点滅)。この時点でボタン (4) を押します。
一方、4 本の破線 “- - - -” が点滅している状態でボタン (4) を押すと、PIN CODE の入力に進みます。

コードの入力 (B)：

1) ボタン (4) を押すと、"0" で表示される 1 桁のみが点滅します。
2) ボタン (1) を押す度に数 (+1) 字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (2) を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定し、次の桁に移動します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します (C)。

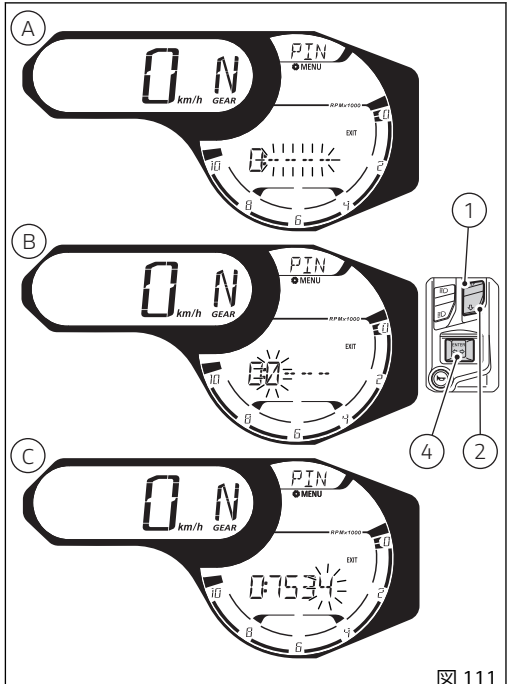


図 111

ボタン (4) を押して最後の桁 (C、図 111) を決定すると、インストルメントパネルは次の動作を行います。

- PIN CODE が正しくない場合は、インストルメントパネルは "ERROR" を 2 秒間点滅表示します。2 秒後に "EXIT" が選択されます (枠が点滅)。この時点でボタン (4) を押すと、PIN CODE の変更機能を終了します。一方、ボタン (1) と (2) を使うと、もう一度旧コード (A、図 111) を入力することができます。(図 111)
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "OK" を 2 秒間表示し、その後新コード入力画面に進みます。

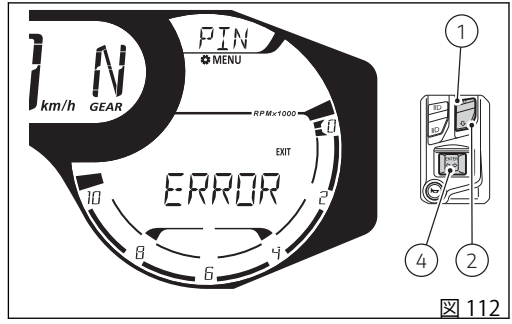


図 112

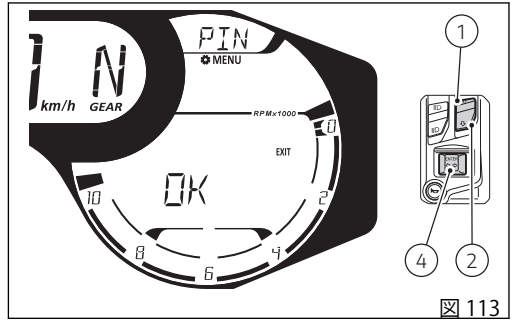


図 113

参考

登録済みの PIN CODE に誤入力回数の制限はありません。

"N:" の表示に続いて 4 本の破線 "- - - -" がディスプレイに点滅します (A)。
PIN CODE を有効にしないで前の画面に戻るには、ボタン (1) またはボタン (2) を押して "EXIT" を選択します (枠が点滅)。この時点でボタン (4) を押します。
一方、4 本の破線 "- - - -" が点滅している状態でボタン (4) を押すと、PIN CODE の入力に進みます。

コードの入力 (B)：

1) ボタン (4) を押すと、"0" で表示される 1 桁のみが点滅します。
2) ボタン (1) を押す度に数 (+1) 字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (2) を押す度に数字が "1" までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定し、次の桁に移動します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します (C)。

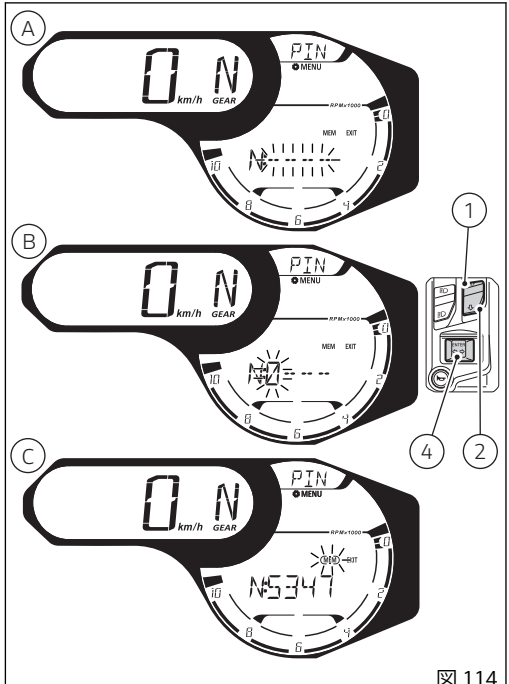


図 114

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、"MEM" (C、図 114) の文字枠が点滅します。
ボタン (1)、(2) を使用して、以下の操作を行うことができます。

- "EXIT" を選択 (枠が点滅) してボタン (4) を押すと、PIN CODE を保存せずに終了します。
- 設定したコードのひとつの数字を選択 (点滅) してボタン (4) を押すと、コード入力をもう一度行い数字を変更することができます。
- "MEM" (C、図 114) を選択 (枠が点滅) してボタン (4) を押すと、新しい PIN CODE が保存されます。インストルメントパネルは "MEM OK" を 2 秒間表示し、続いて "EXIT" の文字枠を点滅させます。ボタン (4) を押して終了します。

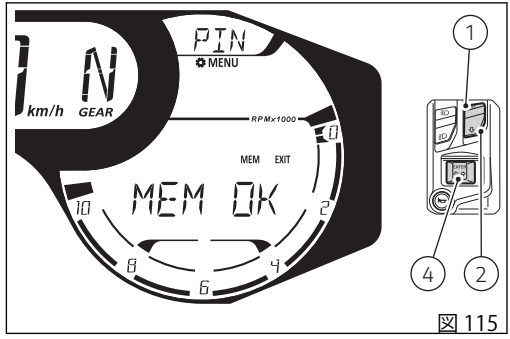


図 115

参考
PIN CODE の変更は何度でも可能です。

バックライト設定 (B.L.)

この機能ではバックライトの明るさを調整することができます。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“B.L.” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、現在の設定値 (点滅) と "EXIT" が表示されます。
ボタン (1) と (2) を押して、選択できるレベル (点滅) “AUTO”、“HIGH”、“MEDIUM”、“LOW” と “EXIT” の文字 (枠が点滅) を順番にスクロールして選択することができます。
設定できる値をスクロールすると、バックライトの明るさも連動して変わります。
ボタン (4) を押して選択した値を決定します。

設定値に基づいてインストルメントパネルはバックライトの明るさを調整し、"EXIT" の文字枠を点滅させます。
ボタン (4) を押して機能を終了し、前の画面に戻ります。

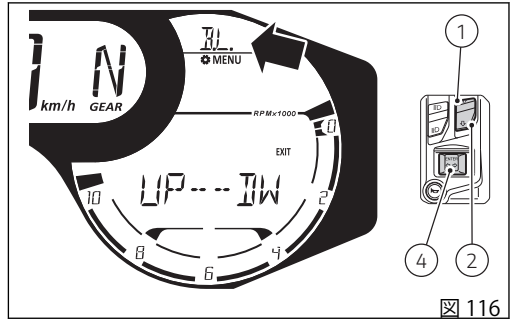


図 116

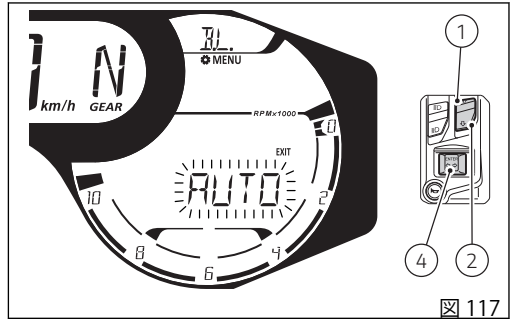


図 117

DRL Auto / Manual モード設定 (DRL)

この機能では DRL ステータス：AUTO または MANUAL を選択します。DRL が搭載されている場合にのみ有効です。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“DRL” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、現在の設定 (点滅) と "EXIT" が表示されます。
ボタン (1) と (2) を押して、選択できるレベル (点滅) “AUTO”、“MANUAL” と “EXIT” の文字 (枠が点滅) を順番にスクロールして選択することができます。
選択した値を設定するにはボタン (4) を押します。続いて、"EXIT" の枠が点滅して文字が強調表示されます。
ボタン (4) を押して機能を終了し、前の画面に戻ります。

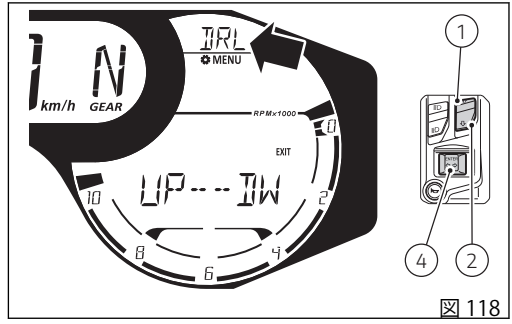


図 118

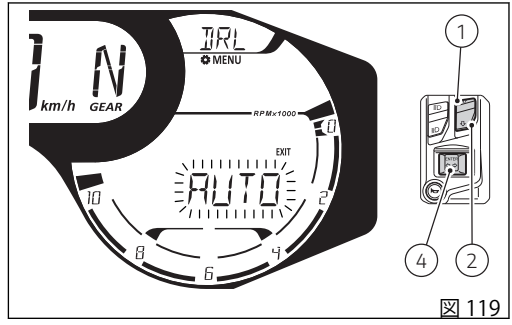


図 119

時計の調整 (CLK)

この機能は時計の調整/設定をします。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“CLK” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

参考
バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされますでの、ユーザーは再度設定する必要があります。

参考
時計を初めて設定する場合には、時間は "AM" で表示され、「時」「分」の値には “- -” が表示されています。

設定が可能な項目は以下のように表示されます。

- AM / PM
- 時間
- 分

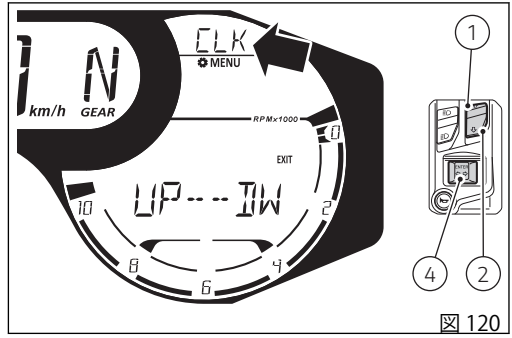


図 120

機能に入ると、現在の設定時間と "EXIT" が表示されます。

ボタン (1) および (2) で時間表示 (点滅) と "EXIT" (枠が点滅) をスクロールして選択することができます。

"EXIT" を選択 (枠が点滅) している時にボタン (4) を押すと、前の画面に戻ります。

時間表示を選択 (点滅) している時にボタン (4) を押すと、時間の設定に入ります。

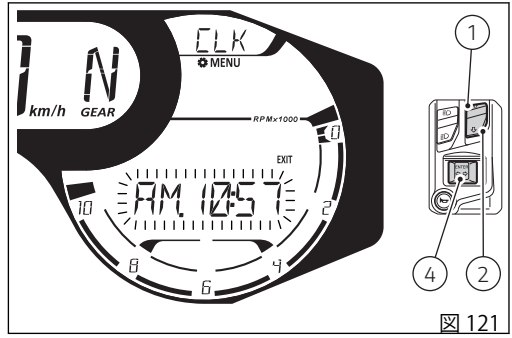


図 121

時間の設定に入ると、最初に変更できるパラメーターは AM / PM (点滅) です (A)。ボタン (1) および (2) で "AM" と "PM" を切り替えます。

ボタン (4) を押すと、時間の設定に移ります (点滅)(B)。ボタン (1) および (2) を押すと、時間の値が 1 ずつ増減します。

ボタン (4) を押すと、分の設定に移ります (点滅)(C)。ボタン (1) および (2) を押すと、分の値が 1 ずつ増減します。

ボタン (4) を押すと、"EXIT" が選択されます (枠が点滅)。

この時点で時間の設定を繰り返すか、"EXIT" を選択 (枠が点滅) している時にボタン (4) を押して設定メニュー の前の画面に戻ることができます。

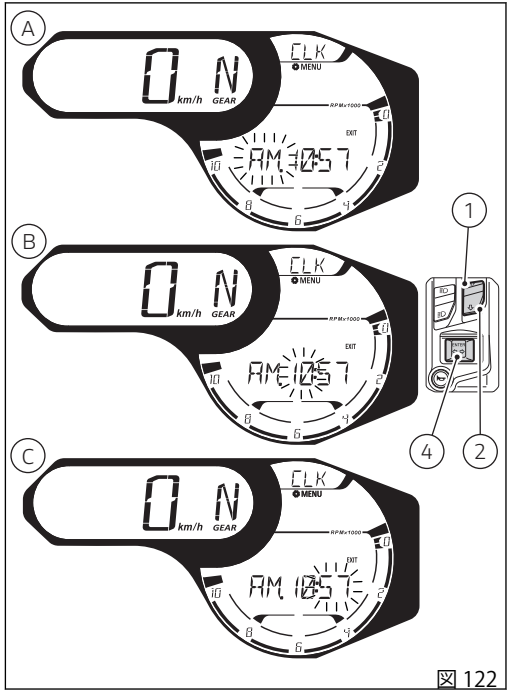


図 122

日付設定 (DAT)

この機能は日付の表示、設定/変更を行います。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“DAT” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

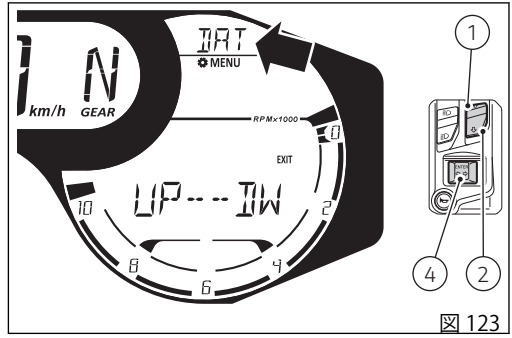


図 123

重要

バッテリーが切断されるたびにカレンダー情報はリセットされるので、その都度設定する必要があります。

参考

日付を初めて設定する場合、「年」「月」「日」の値には “- -” が表示されています。

設定が可能な項目は以下のように表示されます。

- Y：年
- M：月
- D：日

機能に入ると、現在の設定「年」と "EXIT" が表示されます。

ボタン (1) とボタン (2) を使用してスクロールし、点滅している “Y.”(年) (A)、“M.” (月) (B)、“D.” (日) (C) および "EXIT" (枠が点滅) を選択することができます。
変更したいパラメーターの点滅している現在値を選択した後にボタン (4) を押すと、値を変更することができます。

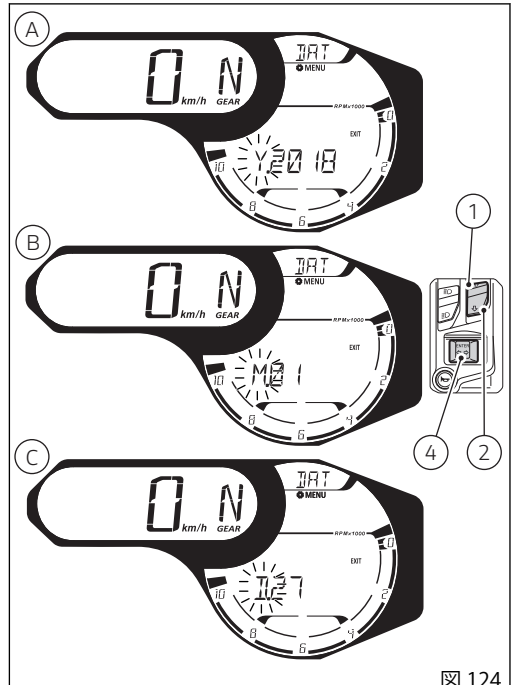


図 124

年の調整

ボタン (1) および (2) で点滅する "Y." (A、図 124) を選択し、ボタン (4) を押します。
年に相当する 4 桁のデータが点滅し始めます。
ボタン (1) を押すと、年の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。“2017, 2018, ...2099, 2017”。
ボタン (2) を押すと、年の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。“2099, 2098, ...2017, 2099”。
希望の値に達したら、ボタン (4) を押します。設定された年の値が固定表示に変わり、"Y." (A、図 124) の表示が再び点滅します。

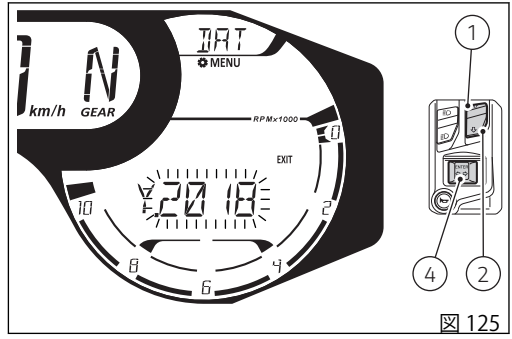


図 125

月の調整

ボタン (1) および (2) で点滅する "M." (B、図 124) を選択し、ボタン (4) を押します。
月に相当する 2 桁のデータが点滅し始めます。
ボタン (1) を押すと、月の値が以下のように 1 ずつ大きくなります。01, 02, ...12, 01。
ボタン (2) を押すと、月の値が以下のように 1 ずつ小さくなります。12, 11, ...01, 12。
希望の値に達したら、ボタン (4) を押します。設定された月の値が固定表示に変わり、"M." (B、図 124) の表示が再び点滅します。

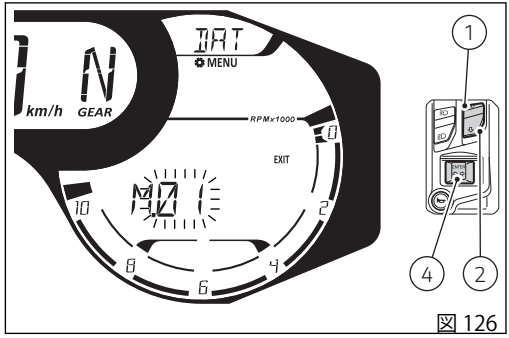


図 126

日の調整

ボタン(1)および(2)で点滅する"D."(C、図124)を選択し、ボタン(4)を押します。
強調表示されたら、ボタン(4)を押します。
日に相当する2桁のデータが点滅し始めます。
ボタン(1)を押すと、日の値が以下のように1ずつ大きくなります。01, 02, ...31, 01。
ボタン(2)を押すと、日の値が以下のように1ずつ小さくなります。31, 30, ...01, 31。
希望の値に達したら、ボタン(4)を押します。設定された日の値が固定表示に変わり、"D."(C、図124)の表示が再び点滅します。

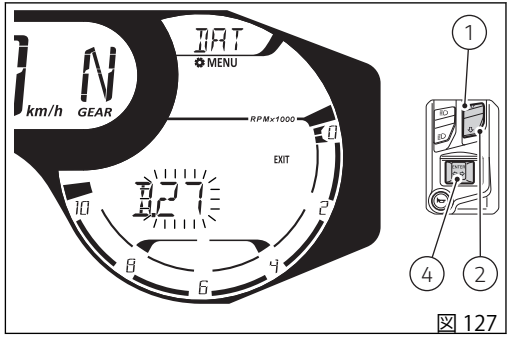


図 127

日付の保存

設定もしくは変更した日付を保存するには、ボタン (1) と (2) を使用して "EXIT" を選択し (枠が点滅)、ボタン (4) を押します。
インストルメントパネルは入力された日付が正しいか、内部の日付 (SERVICE DATE) より前の日付になっているかを検証します。

- 入力された日付が正しくない場合は、インストルメントパネルに "WRONG" と “DATE” の文字が 4 秒間交互に表示されます。その後、日付に相当する 6 本の破線 “- - - -” が固定表示され、 “EXIT” が選択されます (枠が点滅)。この場合は、ボタン (4) を押して日付を保存せずに設定メニューの前のページに戻るか、もしくはボタン (1) と (2) を使用して 6 本の破線 “- - - -” を選択し、もう一度日付の設定を繰り返すことができます。
- 日付が正しい場合、インストルメントパネルは新しい日付を保存して設定メニューの前の画面に戻ります。

サービス期限の表示 (SRV)

この機能は、Desmo Service (キロまたはマイル)、Oil Service (キロまたはマイル)、Annual Service (日付) の次回のサービス期限を通知します。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“SRV” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

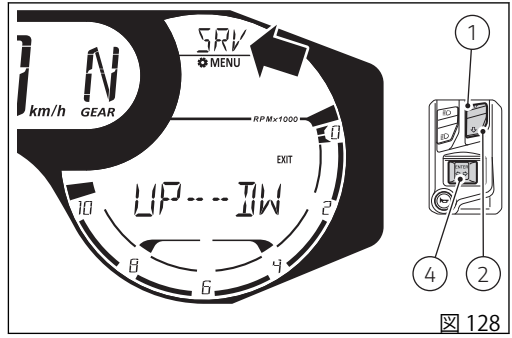


図 128

インストルメントパネルには最初に “Desmo Service” (A) が表示されます。
ボタン (1) と (2) を使用して、Desmo Service (A) までの残りの走行距離、Oil Service (B) までの残りの走行距離、Annual Service (C) の期限日をスクロールすることができます。

「Info Service」を閲覧中も "EXIT" の文字は常時強調表示 (枠が点滅) されています。ボタン (4) を押すと前の画面に戻ります。

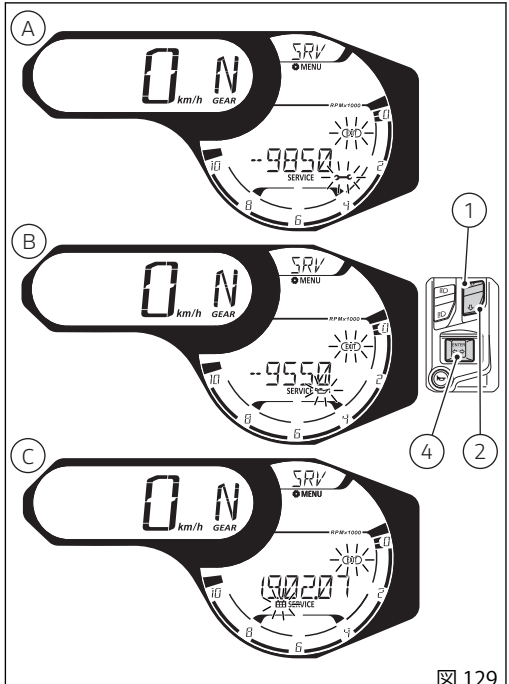


図 129

単位の設定 (UNT)

この機能では表示単位の変更が可能です。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“UNT” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

以下の項目の単位を変更することができます。

- スピード (SPEED)
- 温度 (TEMP.)

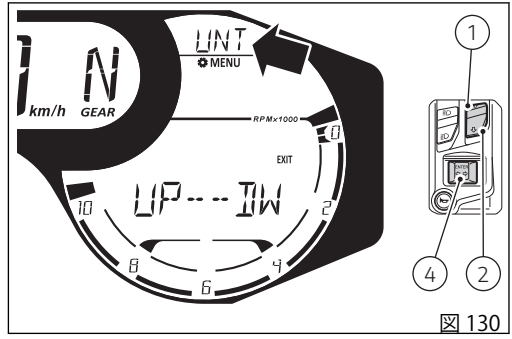


図 130

機能に入ると、"SPEED" (点滅) と "EXIT" が表示されます。

ボタン (1) と (2) で、“SPEED” と “TEMP.” の設定 (点滅)、“DEFAULT” (枠が点滅) と "EXIT" (枠が点滅) をスクロールして選択することができます。

単位を変更するには、変更したい項目を選択してボタン (4) を押します。

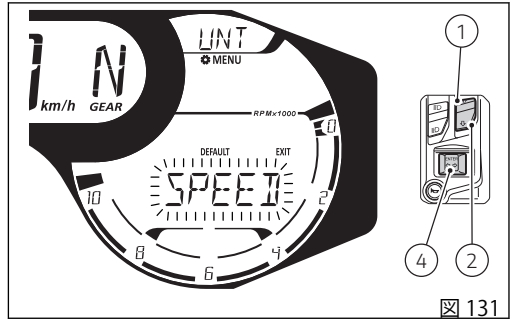


図 131

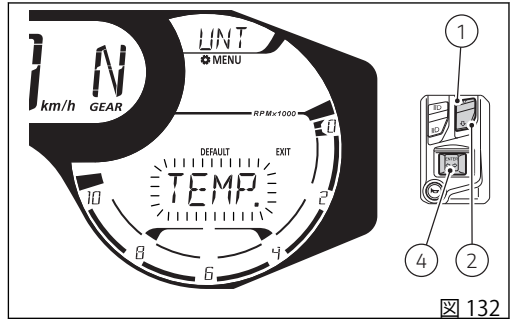


図 132

単位の設定スピード

この機能では速度の単位を変更することができます(走行距離の単位も同時に変更します)。
この機能に入ると、現在使用中の単位が点滅して表示されます。

ボタン (1) と (2) で、選択できる単位 (点滅) “km/h”、“mph” と “EXIT” の文字 (枠が点滅) をスクロールして選択することができます。
ボタン (4) を押すと、選択した単位を保存して前の画面に戻ります。
"EXIT" を選択 (枠が点滅) している時にボタン (4) を押すと、パラメーターを変更せずに前の画面に戻ります。

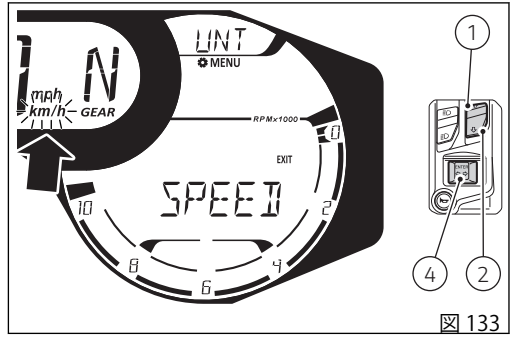


図 133

単位の設定温度

この機能では温度の単位の変更が可能です。
この機能に入ると、現在使用中の単位が点滅して表示されます。

ボタン (1) および (2) を使って選択できる単位 (“° C”、“° F”) をスクロールさせて選択 (点滅) することができます。
ボタン (4) を押すと、選択した単位を保存して前の画面に戻ります。
"EXIT" を選択 (枠が点滅) している時にボタン (4) を押すと、パラメーターを変更せずに前の画面に戻ります。

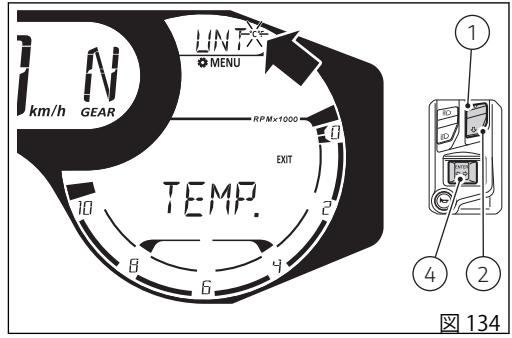


図 134

単位の設定自動設定回復 (DEFAULT)

この機能では、インストルメントパネルに表示されるすべての測定単位の自動設定を回復することができます。

ボタン (1) と (2) で "DEFAULT" (枠が点滅) を選択し、ボタン (4) を押します。
ディスプレイに "WAIT.." が 2 秒間表示されます。その後、単位がデフォルト設定に回復されたことを示す "DF - OK" がさらに 2 秒間表示されます。
2 秒が経過すると、"EXIT" が選択されます (枠が点滅)。終了して前の画面に戻るには、ボタン (4) を押します。

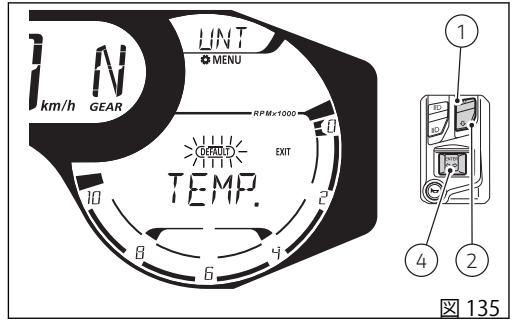


図 135

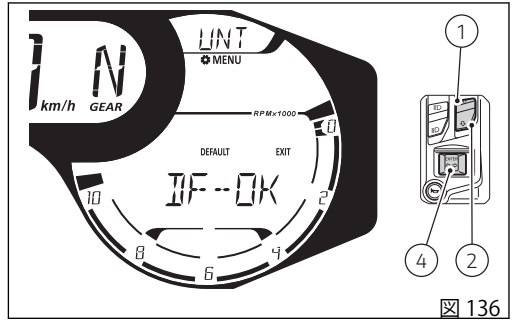


図 136

バッテリー表示 (BAT)

この機能では車両のバッテリー電圧を表示することができます。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“BAT” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、バッテリー電圧が次のように表示されます。

- バッテリー電圧が 11.8〜14.9 V の場合、固定表示されます。
- バッテリー電圧が 11.0〜11.7 V の場合、もしくは 15.0〜16.0 V の場合は点滅して表示されます。
- バッテリー電圧が 11.0 V を下回る場合は、インストルメントパネルに "LOW" の文字が点滅します。
- バッテリー電圧が 16.1 V 以上の場合、インストルメントパネルに "HIGH" の文字が点滅します。

ボタン (4) を押して機能を終了し、前の画面に戻ります。

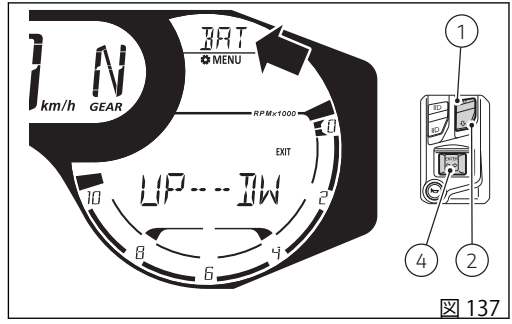


図 137

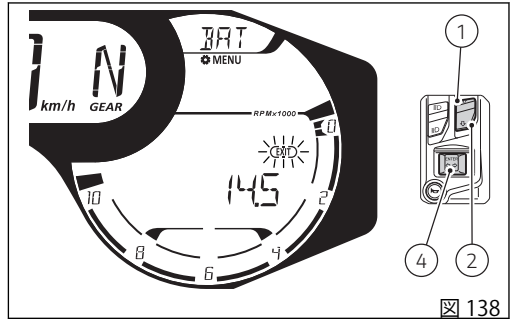


図 138

ターンインジケーター自動解除の停止 (TRN)

この機能では、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーを自動モード (AUTO)、または手動モード (MANUAL) に設定することができます。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“TRN” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、現在の設定モード (“AUTO” または “MANUAL”) と "EXIT" が表示されます。
ボタン (1) と (2) で、“AUTO” と “MANUAL” 間のモード (点滅) の切り替えと “EXIT” の文字 (枠が点滅) を選択することができます。

"AUTO" を選択 (点滅) している時にボタン (4) を押すと、ターンインジケーターの解除ストラテジーが自動に設定されます。

"MANUAL" を選択 (点滅) している時にボタン (4) を押すと、ターンインジケーターの解除ストラテジーが手動に設定されます。ターンインジケーターを解除するには、専用ボタンを操作してください。

"EXIT" を選択 (枠が点滅) している時にボタン (4) を押すと、前の画面に戻ります。

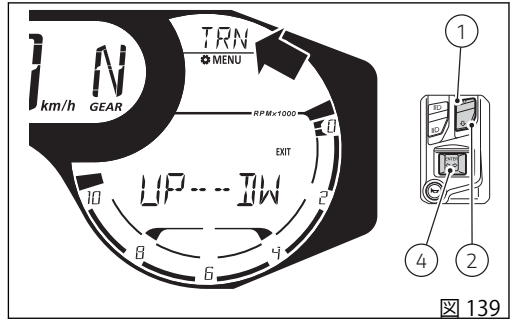


図 139

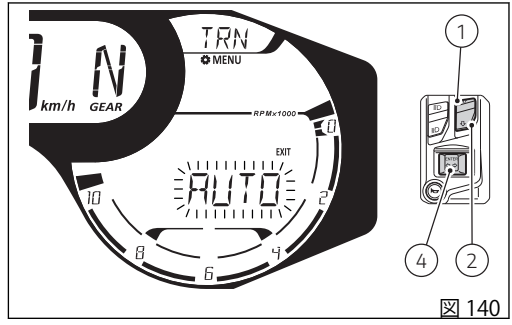


図 140

参考

保存した設定 (“AUTO” または “MANUAL”) は Key-OFF 後も維持されます。バッテリーが中断した場合 (Battery OFF) は、電源回復後の Key-ON 時にシステムは自動的に "AUTO" モードに設定されます。

参考

ターンインジケーターをハザードモードで点灯している場合は、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーは作動しません。

エンジン回転数表示 (RPM)

この機能でエンジン回転数 (rpm) データをデジタル表示することができます。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) と (2) で設定メニュー内の項目をスクロールし、“RPM” を選択します。
機能を選択したら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、エンジン回転数 (rpm) データが 50 rpm 単位でデジタル表示されます。データ範囲は 0〜10000 rpm です。。

ボタン (4) を押して機能を終了し、前の画面に戻ります。

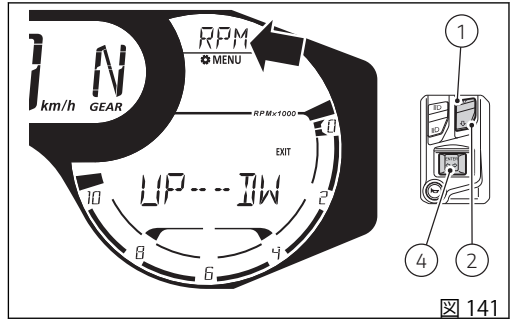


図 141

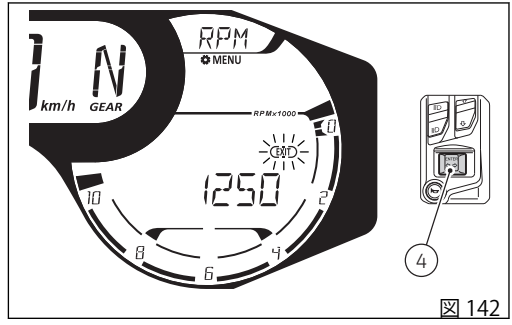


図 142

メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス (定期点検) を実施する必要があることをユーザーに通知します。
メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。
定期点検には 3 つの種類があります。

- OIL SERVICE ZERO
- ANNUAL SERVICE
- DESMO SERVICE

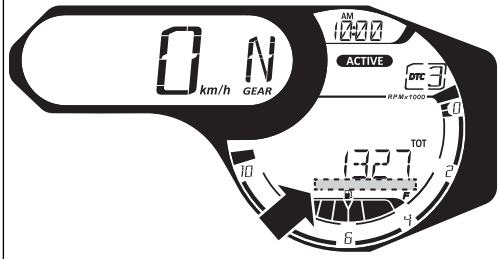


図 143

OIL SERVICE ゼロの表示

最初のメンテナンス表示は、OIL SERVICE ゼロを通知します。オドメーターが最初の 1000 km (600 mi) に達すると、Key-ON する度に 5 秒間表示されます。
メンテナンス表示は、"SERVICE" の文字、オイルマーク 、"OIL" の文字を Key-ON の度に 5 秒間点滅表示します。5 秒後、"SERVICE" の文字、オイルマーク は点灯に移行します。Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯し続けます。

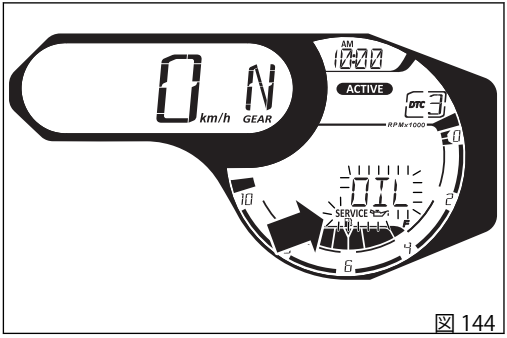


図 144

SERVICE DATE または DESMO SERVICE 表示

メンテナンスを必要とする走行距離に達すると、次のうち必要なメンテナンスが表示されます。

- ANNUAL SERVICE
- DESMO SERVICE

Key-ON する度に “SERVICE” の文字と一緒に 5 秒間点滅する表示には次のものがあります。アニュアルマーク と “ANNUAL” の文字、またはデスモマーク と “DESMO” の文字。

5 秒を過ぎると、"SERVICE" の文字とアニュアルマーク 、またはデスモマーク が点灯に移行します。Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯し続けます。

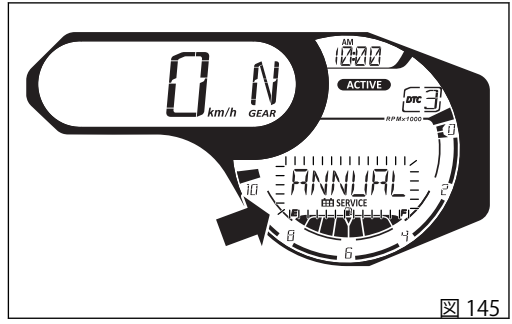


図 145

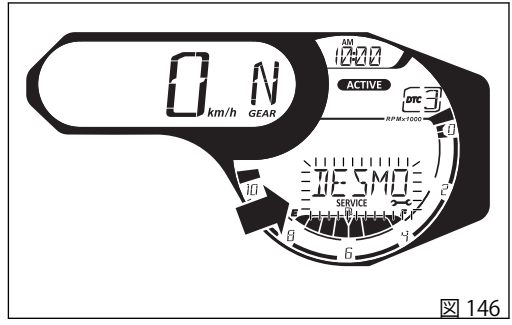


図 146

SERVICE DATE または DESMO SERVICE カウントダウン表示

OIL SERVICE ゼロ (1000 km - 600 mi) 表示の最初のリセットが行われた後、インストルメントパネルは Key-ON ごとに以下を 5 秒間表示します。

- 次回の定期点検 ANNUAL SERVICE までの日数が 30 日を切ると、残りの日数をカウントします。
- 次回の定期点検 DESMO SERVICE までの走行距離が 1,000 km (600 mi) を切ると、残りのキロ数 (マイル数) をカウントします。

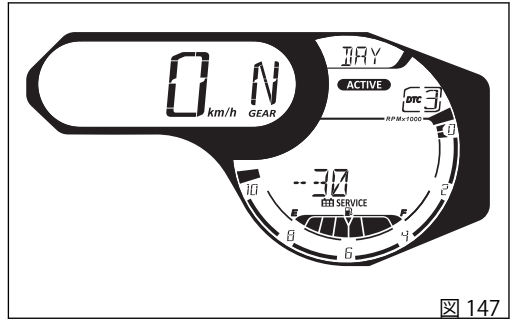


図 147

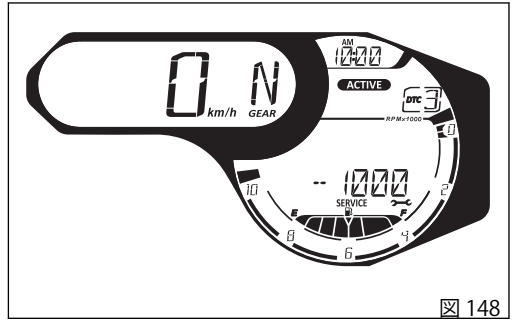


図 148

注意 / 警告 (Warning)

車両使用中にユーザーに有用な情報を提供するため、インストルメントパネルは一連の注意/警告 (warnings) を管理します。
KEY-ON 時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が表示されます。
車両の通常作動時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに警告が自動的に表示されます。

バッテリーレベル LOW (LOW BATTERY) インジケーター

この機能は車両のバッテリー充電レベルが低下していることを通知します。
バッテリー電圧が 11.0 V 以下になると表示されます。

参考
この場合、車両を始動できなるおそれがありますので、正規チャージャーで速やかにバッテリーを充電してください。

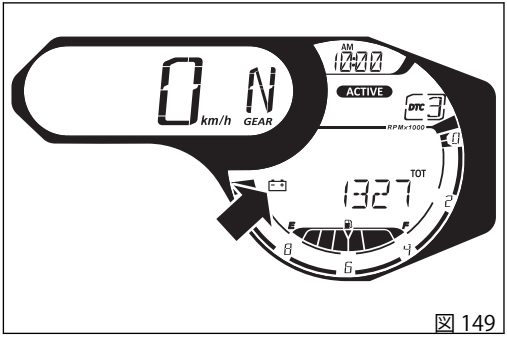


図 149

日付の入力

この「警告」が起動するときは、設定メニューから日付を入力する必要があります ("日付設定" をご覧ください ページ 148)。インストルメントパネルは Key-ON 時に "INSERT" (A) と "DATE" (B) の文字を交互に 6 秒間表示します。

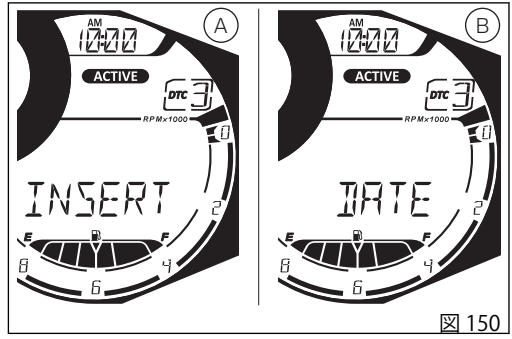


図 150

エンジンの過熱

この機能は、エンジン温度が異常な高温に達したことを表示します。警告はエンジン温度が 200° C を超えると作動します。

- "HI" の文字が点滅
- 温度マークと設定されている表示単位(° C または ° F) が点灯

参考

この警告が作動すると、エンジン温度データが 200° C 以下に戻るまでインストルメントパネルに時計は表示されません。

参考

エンジン温度センサーにエラーが発生している場合、またはインストルメントパネルがエンジン温度データを受信できない場合は、点線 "- - -" が点滅表示されます。

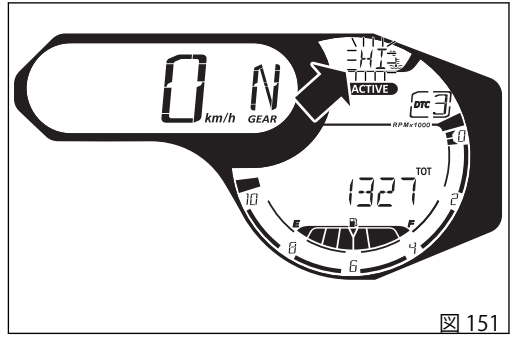


図 151

エラー表示

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。
車両の Key-ON 時にエラーが検知された場合、インストルメントパネルのディスプレイに MIL ランプ (A) (エンジンコントロールユニットに直接関連するエラー) もしくは一般的エラー警告灯 (B) (その他エラー全般) が点灯します。
車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルには MIL ランプ (A) もしくは一般的エラー警告灯 (B) が点灯します。

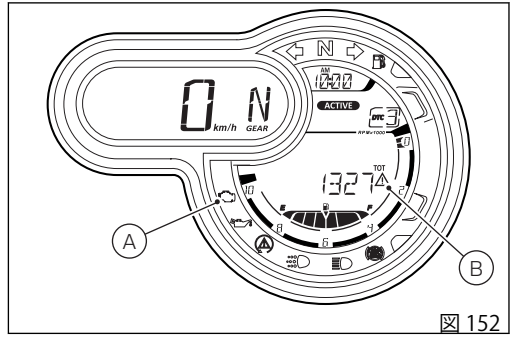


図 152

警告
ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

ブレーキフルードレベルの点検

フルードレベルは各リザーバータンクのMIN目盛りを絶対に下回らないようにしてください。(図153) はフロントブレーキフルードのリザーバータンク、(図154) はリアブレーキフルードのリザーバータンクです。
フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。
また、「メンテナンスプログラム」表に指定されているブレーキ / クラッチフルード補充および交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご依頼ください。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

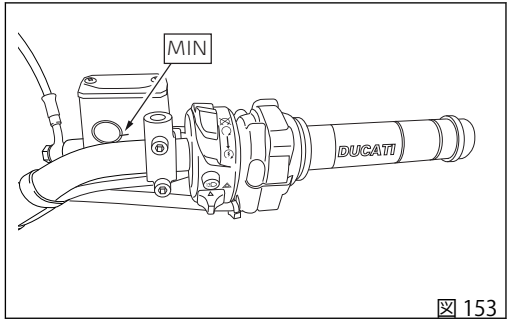


図 153

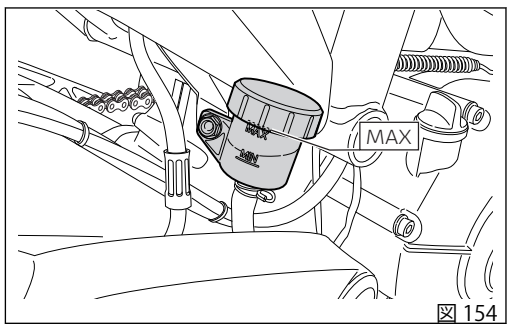


図 154

警告

ブレーキフルードはプラスチックおよび塗装部分に損傷を与えますので、こぼさないようにして下さい。これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

エアフィルターの交換

重要

エアフィルターのメンテナンスは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。
どちらか片方でもパッドの厚さが約1 mmになっている場合は、両方のパッドを交換します。

警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。

重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

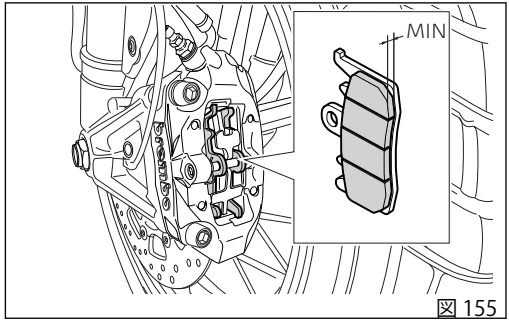


図 155

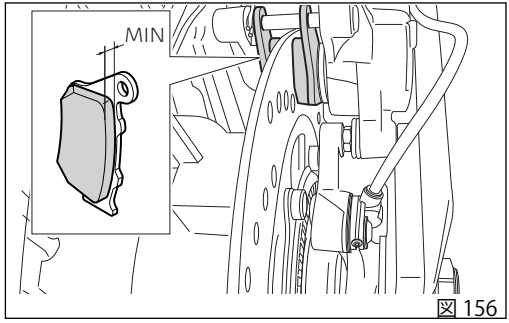


図 156

バッテリーの充電

バッテリーの取り外し

警告

バッテリーの取り外しは Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

バッテリー (A) の作業を行うには、"シートの取り外しおよび取り付け" の記載に従ってシートを取り外し、バンド (B) を取り外してください。
スクリュー (1) を緩めて外し、陽極ケーブル (2) および陽極ケーブル (ABS) (3) をプラス端子から、陰極ケーブル (4) および陰極ケーブル (ABS) (5) をマイナス端子から取り外します。取り外しは必ずマイナス側(-) から始め、所定の位置からバッテリーを引き抜きます。

警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

バッテリーの取り付け

スクリュー (1) にグリースを塗布します。
バッテリーを配置し、プラスケーブル (2) と ABS プラスケーブル (3) をバッテリーのプラス端子に、マイナスケーブル (4) と ABS マイナスケーブル (5) をマイナス

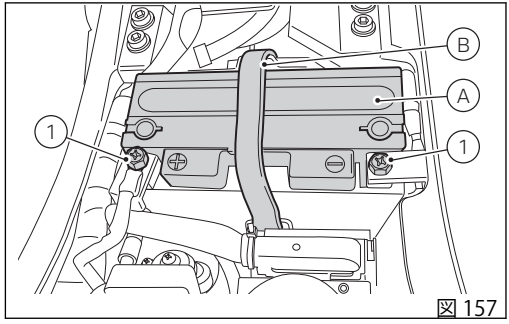


図 157

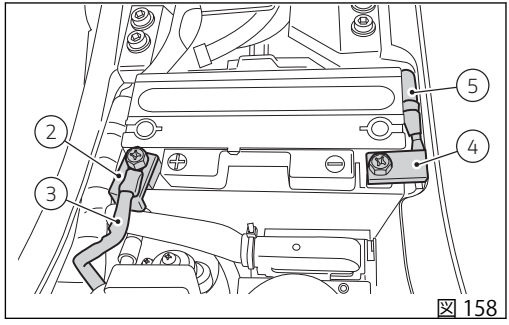


図 158

端子に接続します。接続は必ずプラス側 (+) から始めてください。スクリュー (1) を差し込みます。

充電は換気の良い場所で行ってください。端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス (+)、黒い端子がマイナス (-) です。
Ducati は、Ducati 純正品以外のバッテリー充電器やメンテナーを使用したことに起因するいかなる責任も負いません。
Ducati 専用バッテリーメンテナー (バッテリーメンテナーキット、部品番号：69928471A (ヨーロッパ)、部品番号：69928471AW (日本)、69928471AX (オーストラリア)、69928471AY (イギリス), 69928471AZ (USA)、当社販売店にてお求めいただけます) を使用してください。使い方は「バッテリー充電の維持」の記載に従ってください。

警告
バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

警告
バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス (+) 端子から行ってください。

警告
バッテリーのショートやオーバーヒートの原因となりますので、絶対に他の車両のバッテリーと並列に接続しないでください。

警告
バッテリーを車両に取り付けた状態で電極に外部エンジンスターターを接続する際は、車両のほかの金属部分に触れないように注意してください。

ジョイント部の潤滑

定期的にスロットルコントロールケーブル、およびスターターコントロールケーブルのアウターガードの状態を点検する必要があります。外側のプラスチックコーティングがつぶれていたり、ひびが入っていてはなりません。コントロールを操作し、インナーケーブルが滑らかに作動することを確認します。摩擦や引っかかりがある場合は Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに交換を依頼してください。
このような問題を防止するため、定期的に各フレキシブルトランスミッションケーブルの先端にグリース SHELL Advance Grease または Retinax LX2 を塗布して潤滑してください。
スロットルトランスミッションの場合、2 本の固定スクリュー (1) を緩めてコントロールを開き、ケーブルの先端およびプーリーにグリースを塗布します。

警告

プーリーにケーブルを挿入し、注意してコントロールを閉じます。

カバーを取り付け、スクリュー (1) を 1.8 Nm のトルクで締め付けます。
サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。

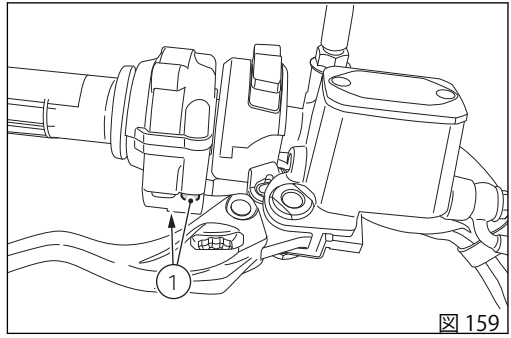


図 159

トランスミッションチェーン張力の点検

重要

チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で一度だけ下に押し、放します。チェーンが休止した位置から上方向への移動距離を測定します。値は、A = 41 ～ 43 mm (1.61 ～ 1.69 in) でなければなりません。

警告

この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

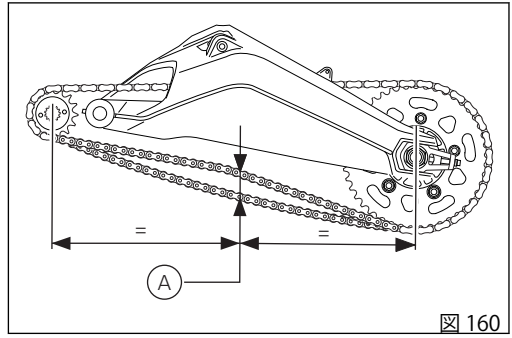


図 160

重要
ドライブチェーンが張りすぎ、もしくは緩みすぎている場合は、測定値が指定の値になるように調整します。

警告
安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー (1) の正しい締め付けが重要です。

重要
チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。

スイングアーム両側の位置決めマーキングが合っていることを確認します。これにより正確なホイールアラインメントを取ることができます。ホイールシャフトのナット (2) のネジ山に SHELL Retinax HDX2 を塗布し、145 Nm のトルクで締め付けます。アジャスタースクリュー (1) のネジ山に SHELL Alvania R3 を塗布し、10 Nm のトルクで締め付けます。

重要
チェーンが常に最高レベルの性能を維持し、かつ長持ちするようにするため、チェーンの洗浄、チェック、張りに関する情報に従うことを推奨します。

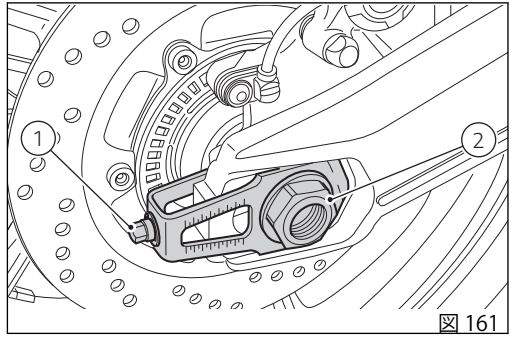


図 161

チェーンの潤滑

重要
ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

警告
この作業は、車両のスイッチを切り、乾いた平坦な場所にスタンドで駐車した状態で実施してください。

ドライブチェーンの清掃および潤滑

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つ O リングガスケット付きチェーンが装着されています。
チェーンの潤滑を行う前に、チェーンを正しく洗浄し、清掃することが重要です。

チェーンの清掃は、その寿命を伸ばすために非常に重要なことです。従って、チェーン上に泥や土、砂、その他一般的な汚れが見られる場合は、それらの汚れをウォータージェットで取り除き、その後すぐに 30cm (11.81 インチ) 以上離れたところから圧縮空気で乾燥させてください。

チェーンスライダーの点検

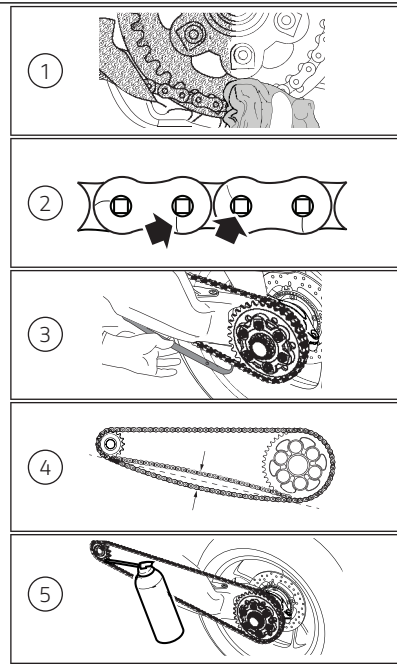


図 162

チェーンスライダー (3) の摩耗状態を確認し、必要な場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

チェーン張力の点検

「ドライブチェーン張力の点検」の記載に従って、チェーン張力 (4) を確認してください。
チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ドライブチェーンの潤滑

重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

警告

潤滑には SHELL Advance Chain を使用してください。規定以外の潤滑剤を使用するとO リングや、それに伴ってトランスミッションシステム内部を損傷することがあります。

チェーンの潤滑は、新しい潤滑剤がリンク間の内外に染み込み、保護作用がより効果的に発揮されるよう、バイクの使用後、車両が冷えるのを待たずに行ってください。

リアパドックスタンドに車両を駐車します。リアホイールを進行方向とは逆の方向に速く回転させてください。

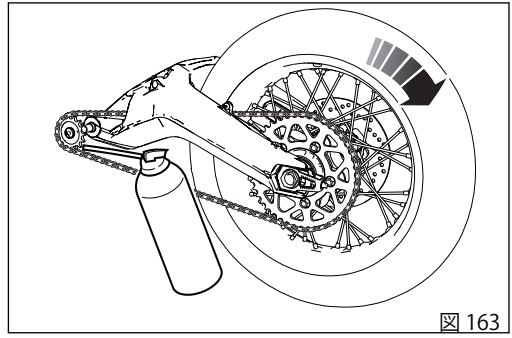


図 163

チェーン内部のリンクの内側と外側に、スプロケットとのかみ合わせの直前の箇所 (2) で、潤滑剤 (1) のジェットを噴射します。

遠心力によりスプレーの中身が液状になり、潤滑剤がピンとブッシュの間の作動部分に行き渡り、完璧な潤滑を保証します。

潤滑剤のジェットをチェーンの中央部 (5) に配置して作業を繰り返し、図のようにニードルベアリング (4) および外側のプレート (6) を潤滑します。

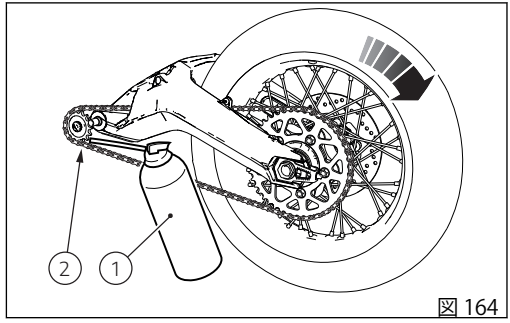


図 164

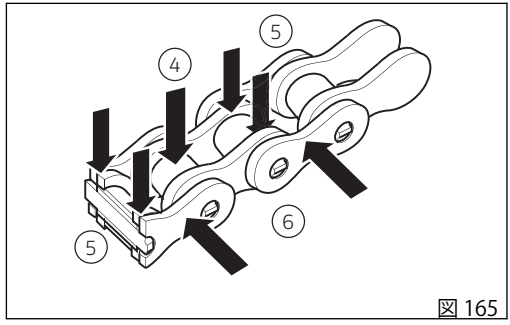


図 165

潤滑の終了後10～15分待ち、チェーンの内側と外側表面に潤滑剤を行き渡らせ、その後余分な潤滑剤を布でふき取ります。

重要

チェーンの潤滑後、すぐにバイクを使用しないでください。潤滑の直後は潤滑剤がまだ流れやすく、外側に向かって飛び散り、後輪やライダーフットペグを汚す可能性があります。

重要

チェーンのチェックを頻繁に行い、プログラムされた表に従って、少なくとも1000 km (621マイル)毎に行ってください。外気温度が高い(40°C)土地での使用時、または長距離におよぶ高速道路での走行の後は、より頻繁(約400 km (248マイル)毎)に潤滑を行ってください。

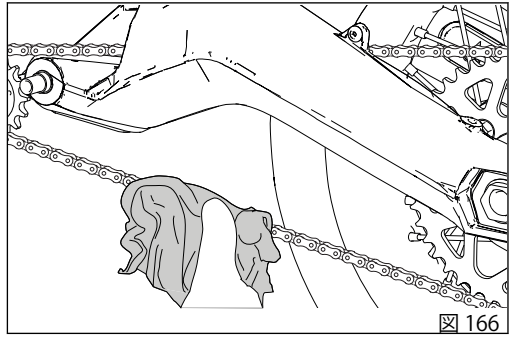


図 166

ヘッドライドの電球の交換

重要
電球の交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

警告
雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

切れた電球を交換する前に、新しい電球が の "エレクトリカルシステム" の段落に記載されている電圧、電力と同じであることを確認してください。取り外した部品を再度取り付ける前に、必ず新しく取り付けた電球の機能を点検してください。
スクリュー (1) を緩めて外し、ヘッドライトマウントのクランプ (2) を回収します。

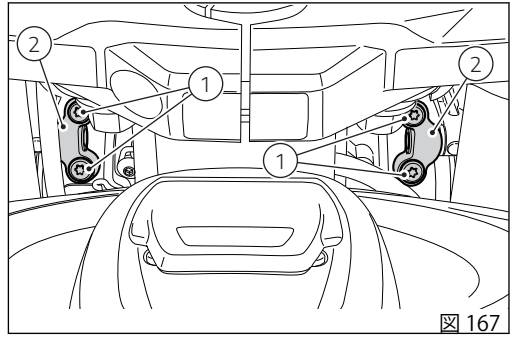


図 167

スクリュー (3) を緩めて外します。
ヘッドライトユニットをフロントマッドガード側に傾け、適切に支えます。電球カバー (5) のスクリュー (4) を緩めて外し、カバーを取り外します。

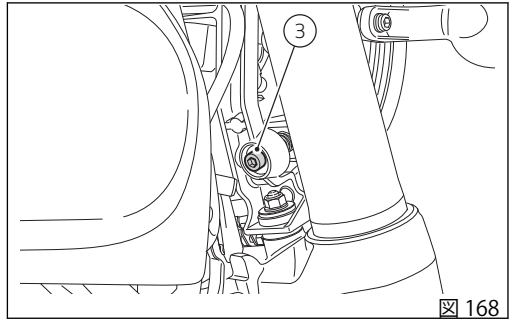


図 168

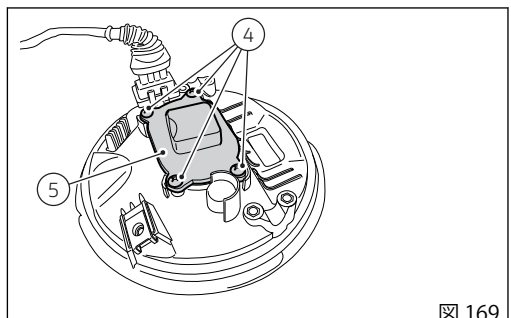


図 169

コネクター (6) を切り離します。
クリップ (7) を外します。
電球 (8) はバイヨネットベースタイプなので、取り外すには押しながら反時計回りに回します。電球を交換し、新しい電球を押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。

参考
レンズの部分は絶対に指で触れないでください。電球の光度が落ちる原因となります。

取り付けの際は、取り外した部品を取り外し時とは反対の手順で取り付け、スクリュー (1、図 167) を 5 Nm のトルクで締め付けます。

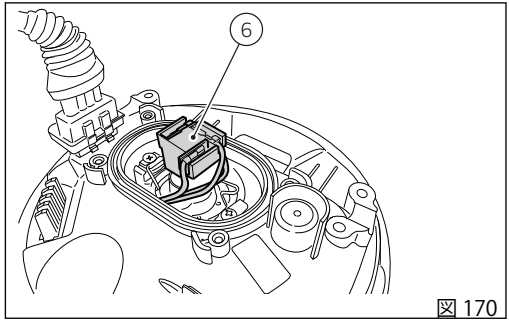


図 170

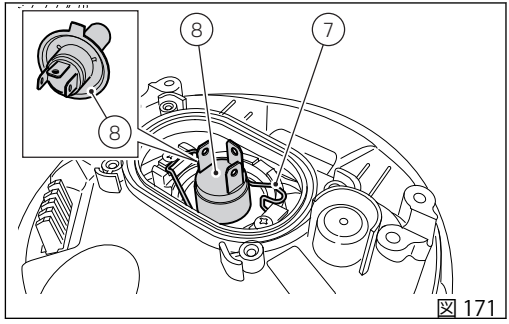


図 171

ヘッドライトの光軸調整

参考
ヘッドライトには左右の光軸調整用に 2 つのアジャスターが付いています。

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員 1 名がシートに乗った状態で、壁面またはスクリーンの前 10 メートル (32.8 フィート) の位置に車両を直角に配置し、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯し、左右の光軸調整を行います。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの 9/10 以下でなければなりません。

参考
この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

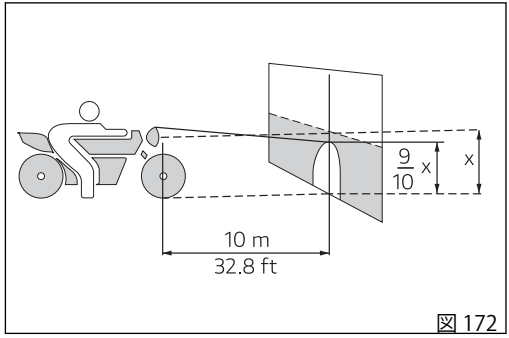


図 172

ヘッドランプの光軸調整

ヘッドライトの垂直方向の調整は、スクリュー (1) をマニュアルで操作して行います。

重要
ヘッドランプの調整スクリューにエンドストップはありません。

警告
雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

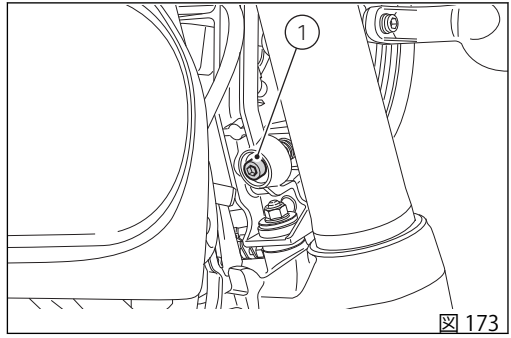


図 173

リアビューミラーの調整

リアビューミラー (A) を手動で好みの位置に調整します。

警告

ミラーを調節する際は、無理な力をかけてミラーを破損しないように慎重に調節してください。

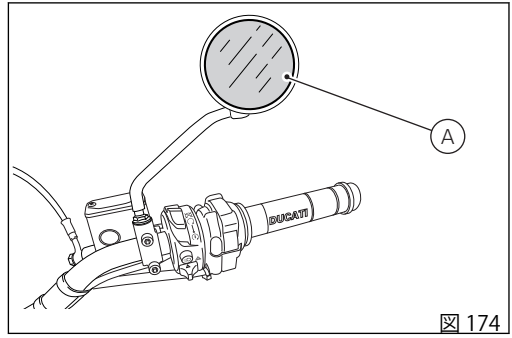


図 174

チューブタイヤ

タイヤの種類とタイヤ空気圧については、「テクニカル仕様」セクションの「タイヤ」を参照してください。
タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

重要
タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2～ 0.3 bar 上げてください。

チューブタイヤの修理と交換

タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。チューブに穴が開いたり破損した場合は、チューブを速やかに交換してください。修理したチューブは、新品のものと同様の信頼性が得られないことがあり、運転中にパンクする可能性もあります。

警告
パンクした場合は、タイヤとチューブを交換してください。交換の際は、タイヤとチューブの両方とも標準装備と同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認してください。チューブレスタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤがつぶれ、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

参考
タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

警告
タイヤを交換する際にはチューブも必ず交換してください。使用済みのチューブは弾力性がない場合があります。新しいタイヤに入れて使用した場合、回復できない損傷を与えるおそれがあり、その結果ライダーやパッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

重要

タイヤとチューブは両方共、標準装備のものと同じメーカー、タイプのものを使用してください。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。

警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所 (S、図 175) の溝の深さを測定します。溝の深さは 2 mm (0.08 in) 以上でなければならず、また現地法で定めれた規定値以下であってはなりません。

重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドの溝に入り込んだ石や異物は取り除いてください。

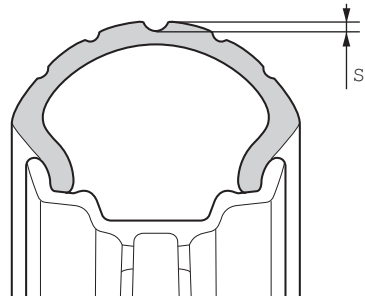


図 175

エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓(1)から見ることができます。レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。
ドゥカティ社規定オイルはSAE 15W-50/JASO MA2のみで、推奨オイルはShell Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、API：SN) です。
フィラーキャップ(2)を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。
プラグを取り付けます。

警告

「メンテナンスプログラム」の章で規定されているエンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルレベルの正確な点検を実施するには、以下に記載する作業をよく読んで指示に従ってください。
1) オイルレベルの点検はエンジンを切ってから約15分後、エンジンが熱い状態で実施してください。
2) エンジンを停止し、オイルが完全にオイルパンに戻るまで10〜15分待ちます。

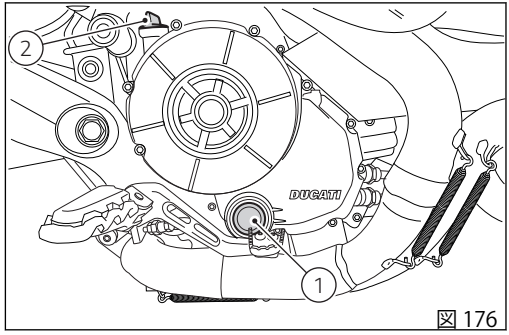


図 176

3) 平坦な場所に両方の車輪を地面に着け、直立に駐車します。
4) この時点で、エンジンオイル点検窓からオイルレベルを点検します。
5) オイルレベルがMINとMAX目盛りの中央より下であれば、MAX目盛りまでオイルを補充してください。

警告

MAX目盛りは絶対に超えないようにしてください。

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格：SN
- JASO 規格：MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API (米国での分類) および JASO (日本標準) は、オイルが有する特徴を表します。

車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。
プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。
アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨材付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

重要

走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。
洗車には温水ジェットや高圧洗浄機を使用しないでください。
洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露 (くもり) を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。
エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統 (チェーン、フロント/リアスプロケット等) に脱脂剤が付着しないように注意してください。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

警告

洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABS システムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けてください。

重要

ドライブチェーンの清掃や潤滑は、「ドライブチェーンの潤滑」を参照してください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダー内に少量のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1 ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検を実施し、必要であればバッテリーの充電または交換を行ってください。
結露を防止し塗装を保護するため、車体をカバーで覆います。
車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

国によっては (フランス、ドイツ、イギリス、スイス等) 排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。
法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

車載されている様々な電子コンポーネントには、車両の状態、イベント、故障に関する技術情報を一時的または永続的に保存するデータメモリがあります。
通常、これらの情報は、ひとつのコンポーネント、モジュール、システム、または環境の状態を記録しています。

- システムコンポーネントの動作状態 (例：排出ガス制御システム)
- 車両と個別コンポーネントの状態のメッセージ (例：車輪回転速度、エンジン回転数、挿入ギアなど)
- システムの重要コンポーネントの不具合と故障 (例：ライト、ブレーキなど)
- 特定の運転状況での車両レスポンス (例：トラクションコントロールシステムなど)
- 環境条件 (例：気温など)

これらのデータは技術的な性質のものであり、故障を特定・修正して、車両の機能を最適化するために使用されます。
修理、メンテナンス作業、保証対象作業、品質保証などのサービスを実施する際、アシスタンスネットワーク (製造メーカーを含む) のスタッフは、特別な診断ツールを使用して、イベントや故障データメモリからこれらの技術情報を読み取ることができます。故障が解

消されれば、故障メモリの情報を徐々に消去または上書きすることができます。
車両データは、お客様から要請されたサービスや契約に基づいて車両に実施されるサービスの際に収集されます。
これらのサービス環境において、お客様の個人情報は、サポートの効率を高めるという Ducati の正当な利益に基づき、また最終的な法的義務 (例：修理・メンテナンスに関する情報義務) を果たすために、現行の個人データ保護規則に従って取り扱われます。必要に応じて、個人データの読み取りが行われ、車両識別番号と併せて使用されます。
当社のコントロールユニットが位置情報データを収集することはありません。

車両の運搬

別の車でモーターサイクルを運搬する前に、安全に関する以下の指示に従ってください。

1) 確実に固定されていない物やアクセサリーを車両から取り外してください。
2) 運搬に使用する車に対して真っすぐになるように前輪を進行方向に向けて配置し、前輪が動かないように適切に固定してください。
3) ギアを 1 速に入れてください。
4) 固定用ベルトを使用してください。固定用ベルトは硬い部品 (フレームなど) の位置で固定するようにし、ハンドルバー (またはハーフハンドルバー、装備に応じる) や破損する危険のある部品 (グリップ、リアビューミラーなど) には取り付けないでください。
5) ベルトやロープが車両の塗装部品をこすらないように取り付けてください。
6) 運搬中に路面からの振動に対する車両の動きが少なくなるように、可能であれば、サスペンションを部分的に圧縮された位置に設定してください。

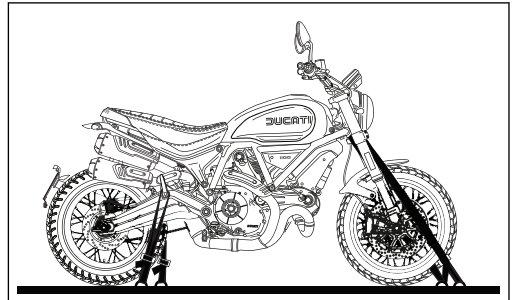


図 177

ロープをハンドルバーに固定しないでください。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム： ディーラーでおこなうメンテナンス

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

	1000 走行距離サービス*	DESMO A* 走行距離サービス	DESMO B* 走行距離サービス	定期サービス*
DDS 2.0 による不具合メモリーの読み取り、DSC から技術アップデートとリコールキャンペーンの有無の確認	•	•	•	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換	•	•	•	12
エアフィルターの点検と清掃		•		12
エアフィルターの交換			•	
タイミングベルトの交換			•	60

	1000 走行距離サービス*	DESMO A* 走行距離サービス	DESMO B* 走行距離サービス	定期サービス*
バルブクリアランスの点検と調整		•	•	
スパークプラグの交換			•	
ジェネレーターエキゾースト側バーチカルヘッドスタッドボルトのナット締め付け点検		•	•	•
フロントフォークオイルの交換	36,000 km / 22,500 mi ごと			
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検	•	•	•	12
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	•	•	•	12
ブレーキ/クラッチフルードの交換				24
フロント/リアブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検		•	•	12
ブレーキキャリパーのスクリュー、ブレーキディスクのスクリュー、フロント/リアホイールナット、リアスプロケットナットの締め付け点検		•	•	12
エンジン、スイングアーム、リアショックアブソーバーへのフレーム固定の締め付け点検		•	•	12
ホイールハブベアリングの点検		•	•	12
リアスプロケットのクッシュドライブダンパー点検、リアホイールシャフトの潤滑			•	

定期サービス*				
DESMO B* 走行距離サービス				
DESMO A* 走行距離サービス				
1000 走行距離サービス*				
チェーン、リアスプロケット、フロントスプロケットの摩耗点検、チェーン張力点検、ファイナルドライブチェーンの潤滑と伸び点検。 伸び測定値：_____ (mm) (in) **参考** ファイナルドライブチェーンキットは、走行距離 20,000km/12,000mi を超える前に交換してください。	•	•	•	12
ステアリングチューブベアリングの遊び点検		•	•	12
サイドスタンドの作動、締め付け点検	•	•	•	12
目視できるすべてのカバーやフレキシブルホース (燃料供給、ブレーキ、クラッチ、冷却システムのフレキシブルホース、ブリーザーホース、ドレンホースなど) に亀裂や漏れなどがなく、正しく取り回されていることを点検する	•	•	•	12
リアブレーキペダルの遊び点検、ハンドルレバーおよびペダルコマンドの潤滑	•	•	•	12
タイヤ空気圧、磨耗点検	•	•	•	12
ワークショップマニュアルに従ったワイヤースポークホイールの点検	•	•	•	
電気安全装置の作動点検 (サンドスタンドとクラッチセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー)	•	•	•	12

	1000 走行距離サービス*	DESMO A* 走行距離サービス	DESMO B* 走行距離サービス	定期サービス*
ランプ類、ターンインジケーター、警告ホーン、コマンド類の動作点検	•	•	•	12
安全装置 (ABS、DTC など)、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト	•	•	•	12
車両のソフトクリーニング	•	•	•	12
DDS 2.0 による定期点検の登録とインストルメントパネルのサービス警告灯のリセット、定期点検実施の車載書類 (サービスブック) への記入	•	•	•	12

* 1000 走行距離サービスは、慣らし運転 1,000 km/600 mi 終了後に実施します。
* DESMO A 走行距離サービス は、12,000 km/7,500 mi ごとに実施します。
* DESMO B 走行距離サービス は、24,000 km/15,000 mi ごとに実施します。
* 定期サービスは、 12 カ月ごとに実施します。

メンテナンスプログラム： お客様が行うメンテナンス

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000	1
	マイル x1000	0.6
	月	6
エンジンオイルレベルの点検		●
ブレーキオイルレベル点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

テクニカル仕様

重量

車両重量 (燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠)：
206 kg (454 lb)
車両重量 (液体類およびバッテリーを除く)：
189 kg (416 lb)
車両総重量 (最大負荷重量)：
396 kg (873 lb)

警告
重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

サイズ

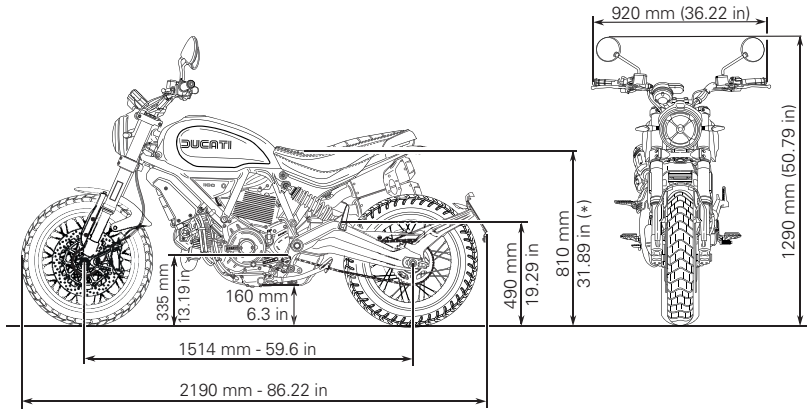


図 178

(*)：シート高
ローシート (中国、タイ、台湾、韓国向けバージョンの標準装備)：790 mm (31.10 in)

補給

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4 リットル (0.88 UK ガロン) を含む	オクタン価が 95 以上の無鉛ガソリン SHELL V-Power を使用してください。	15 リットル (3.3 UK ガロン)
エンジンクランクケースおよびフィルター	ドゥカティ社規定オイルは SAE 15W-50/ JASO MA2 のみで、推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、API：SN) です。	3.4 リットル (0.75 UK ガロン)
フロント/リアブレーキシステム、クラッチ	DOT 4	-
電極保護液	電気系統の保護スプレー	-
フロントフォーク (チューブのプリロードおよびスプリングがなく、レッグのストロークエンド位置で測定されたオイルレベル)	SHELL Donax TA	- 585 cc (35.70 cu in) 90 mm (3.54 in)

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

"L" 型 2 気筒、シリンダーごとに 2 バルブのデスモドロミックタイミングシステム、空冷式

ボア：98 mm (3.86 in)

ストローク mm：71.5 mm (2.81 in)

総排気量：1079 cm^3 (65.84 cuin)

圧縮比：(11.5±0.5):1

クランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X、kW /HP：
62.3 kW / 84.7 HP / 7,250 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X：
90.5 Nm - 92.3 Kgm / 4,750 rpm

最大回転数：8,500 rpm

重要
走行中いかなる状況においても、決して最高回転数を超えてはいけません。

参考
記載されている出力/トルクデータは、基準適合規則に従って静的テストベンチを使用して測定されたもので、認証時に測定され車両登録証に記載されているデータと同じになります。

潤滑システム

トロコイド式ポンプによる強制循環。
オイルクーラー (ツインシールジョイントニップル付きホース)。

タイミングシステム

デスモドロミックシステム：シリンダーごとに2本のバルブ、4本のロッカーアーム(2オープニングロッカーアーム、2クロージングロッカーアーム)、オーバーヘッドカムシャフトスパーギア、プーリー、コグドベルトを介してクランクシャフトで制御されます。

デスモドロミックタイミングシステム

1) オープニング(アッパー)ロッカーアーム
2) オープニングロッカーシム
3) スプリットリング
4) クロージング(ロア)ロッカーシム
5) クロージングロッカーアームリターンスプリング
6) クロージング(ロア)ロッカーアーム
7) カムシャフト
8) バルブ

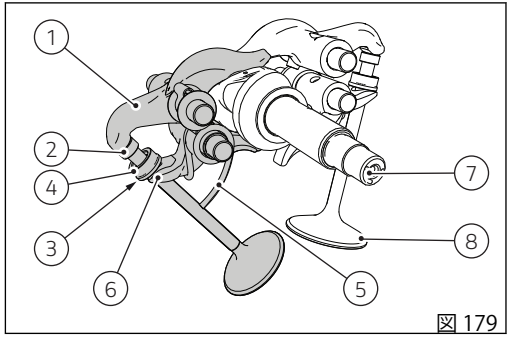


図 179

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：NGK
タイプ：DCPR8E

燃料供給

間接式エレクトロニックインジェクションシステム
スロットルボディタイプ：ライドバイワイヤ (RbW)
スロットルボディ直径：55 mm (2.16 in)
シリンダーごとのインジェクター数：1
インジェクター孔数：8
ガソリン燃料：95-98 RON

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント

フロントブレーキディスク
穴あきセミフローティングダブルディスク
ブレーキシュー材質：ステンレス
ハウジング材質：黒色ステンレス

ディスク径：320 mm (12.60 in)
フロントブレーキディスク厚：4.5 mm (0.177 in)
フロントブレーキディスク厚 (摩耗限界)：4.0 mm (0.157 in)

フロントブレーキコントロール
右側ハンドルレバーによる油圧コントロール

フロントブレーキキャリパー
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO
タイプ：M4.32b 4 ピストン Ø32 mm (1.26 in) モノブロックラジアルマウントキャリパー
ブレーキパッド材質：TT 2182 FF

フロントブレーキマスターシリンダー
ポンプタイプ：アキシャルポンプ PR 16/22
コーナリング ABS

リア

リアブレーキディスク
穴あき固定ディスク、スチール製
ディスク径：245 mm (9.64 in)
リアブレーキディスク厚：4.2 mm (0.165 in)
フロントブレーキディスク厚 (摩耗限界)：3.8 mm (0.149 in)

リアブレーキコントロール
車体右側ペダルによる油圧コントロール

リアブレーキキャリパー
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO
タイプ：直径 34 mm (1.33 in) 1 ピストン フローティングキャリパー
ブレーキパッド材質：Toshiba TT H38 GF

リアブレーキポンプ
ポンプタイプ：PS 11
コーナリング ABS

警告
ブレーキフルードは腐食性があります。
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスミッション

湿式多板クラッチ、油圧式制御、セルフサーボ機構およびスリッパークラッチ機構付き
左側ハンドルレバーによるコントロール
一次減速比：33/61
二次減速比：15/39
6 速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作

変速比：
1 速 37/15
2 速 30/17
3 速 28/20
4 速 26/22
5 速 24/23
6 速 23/24

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達
メーカー：DID
タイプ：520 VP2–T
リンク数：103+1 開

重要
上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

警告
リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。
この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

フレーム
スチール製トレリスパイプフレーム
ステアリングアングル (片側)：
– Scrambler 1100 PRO：34°
– Scrambler 1100 Sport PRO：33°
キャスター角：24.5°
トレール：111 mm (4.37 in)。

ホイール
アルミニウム製ワイヤースポークホイール。
フロント：MT 3.00"x17"
リア：MT 5.50"x17"

タイヤ
タイヤの種類

フロント
チューブタイヤ
タイプ：Pirelli MT60 RS
120/70 R18 M/C

リア
チューブタイヤ
タイプ：Pirelli MT60 RS
寸法： 180/55 R17 M/C

タイヤ空気圧

フロントタイヤ空気圧
2.30 bar (33.3 PSI) (一般道、ライダーのみ)
2.40 bar (34.8 PSI) (一般道、ライダーとパッセンジャー、最大積載)

リアタイヤ空気圧
2.50 bar (36 PSI) (一般道、ライダーのみ)
2.90 bar (42 PSI) (一般道、ライダーとパッセンジャー、最大積載)

サスペンション
フロント

MARZOCCHI 製フルアジャスタブル倒立フォーク
インナーチューブ径：45 mm (1.89 in)
ホイールトラベル：150 mm (5.90 in)

リア

KAYABA 製モノショックアブソーバーによるプログレッシブサスペンション、リバウンドダンピング、コンプレッションダンピングおよびスプリングプリロードの調整が可能なフルアジャスタブル。
ショックアブソーバーストローク：57.3 mm (2.25 in)

エキゾーストシステム

2–1–2 エキゾーストシステム、触媒コンバーターとラムダセンサー 2 個装備。
アルミニウム製カバーとエンドキャップを備えたステンレス製サイレンサー。

カラーバリエーション

フレームカラー：ブラックカーボン
リアサブフレームカラー：ブラックターマック Inver 部品番号：61196
スイングアームカラー：ブラックターマック Inver 部品番号：61196

フロント/リアマッドガード
1) ベース (プライマー) デュアルプライマーホワイト
供給元 Lechler、コード DS20052
2) ベース イエローオーカー
供給元 Lechler、コード 2909041
3) クリア、
供給元 Lechler、コード 96230

フューエルタンク
2) ベース 1 ブラック 94、
供給元 Lechler、コード 929R223
3) ベース (プライマー) デュアルプライマーホワイト、
供給元 Lechler、コード DS20052
4) ベース イエローオーカー
供給元 Lechler、コード 2909041
5) クリア
供給元 Lechler、コード 96230

フレーム
1) カーボンブラック
供給元 AKZO NOBEL、コード MY/2/9611AV

ホイールリム
アルマイト処理ホイールリム

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

インストルメントパネル
LCD

ヘッドランプ：
ロービーム/ハイビームランプ：H4 Blue Vision 電球 12V 60/55W
パーキングライト / DRL (装備している場合)：LED　4 個

ターンインジケーター
フロント/リアターンインジケーター (USA バージョン) タイプ：
電球 12V RY10W 琥珀色

テールランプ
LED パーキングライト：LED　12 個
ストップランプ：LED　12 個 + LED　6 個

ナンバープレートランプ：LED　3 個

ハンドル上スイッチ
警告ホーン
ストップランプスイッチ
YUASA YT 7B-BS 密閉型、6.5Ah - 12V
ジェネレーター 14V-487W

電子レギュレーターは、ヒューズボックス (C、図 182) 近くに設けられた 30A ヒューズで保護されています。
スターターモーター：12V-0.7 kW

参考
電球の交換は、"ハイ/ロービーム電球の交換" を参照してください。

ヒューズ

電装品保護するために、ヒューズボックス内に 7 個、スターターコンタクター上に 1 個のヒューズが設置されています。ヒューズボックス内には 2 個の予備ヒューズが用意されています。
ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。
ヒューズボックス (A、図 180) はシート下に設置されています。ヒューズを交換するには、シートとバッテリーカバーを取り外します。ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。

ヒューズボックス (B、図 181) は (A、図 180) の隣に設置され、ABS システムに関連する 2 個のヒューズが収納されています。

ヒューズボックス (A、図 180) 凡例		
配置	保護装置	容量
1	フューエルポンプ	15 A
2	アクセサリー	7.5 A
3	コントロールユニット	10 A
4	-	-
5	-	-
6	ABS モーター	25 A
7	ABS	10 A
8	スペア	20 A
8	スペア	25 A
8	スペア	15 A

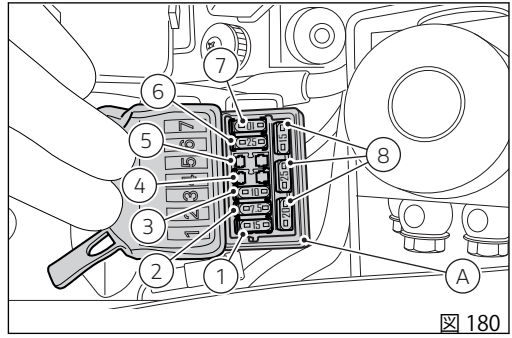


図 180

ヒューズボックス (B、図 181) 凡例		
配置	保護装置	容量
1	診断	7.5 A
2	アラーム	5 A
3	BBS	10 A
4	-	-
5	インジェクション負荷	20 A
6	インストルメントパネル	10 A
7	パーキングランプ	5 A
8	スペア	7.5 A
8	スペア	10 A
8	スペア	5A

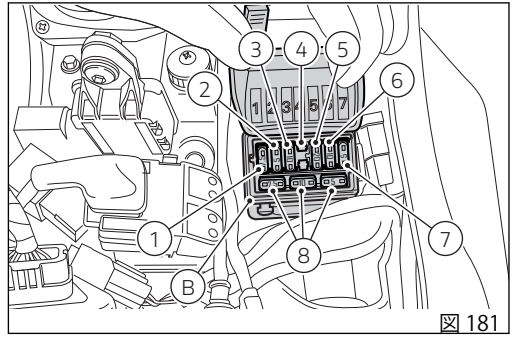


図 181

メインヒューズ (C) は、予備ヒューズ (G) と一緒にスターターコンタクター (D) 上に設置されています。メインヒューズを交換するには、保護キャップを取り外してください。
切れたヒューズは、インナーフィラメント (F) が溶断しているかどうかで確認することができます。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFF にしてください。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。

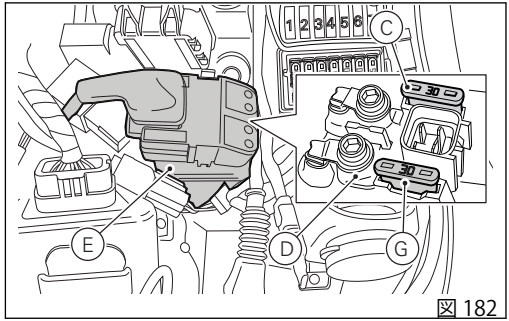


図 182

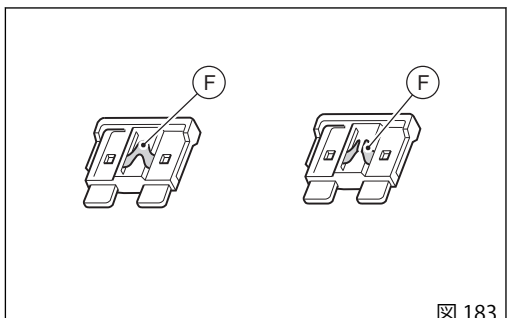


図 183

オープンソースソフトウェア

オープンソースソフトウェアに関する情報

車両のいくつかのコンポーネントは、オープンソースソフトウェアを使用しています。使用されているソースコードとオープンソースに関連する情報は、次のリンクからオンラインで入手できます。
https://www.ducati.com/ww/en/home/open-source-software

EU 適合宣言書

EU 指令 2014/53/EU

EU 適合宣言書

無線部品製造業者の住所

すべての無線部品には、欧州指令 2014/53/EU の規定に基づき、製造業者の住所が記載されていなければなりません。その性質または寸法の問題上シールを貼付できない部品については、法律に規定される通り製造業者の住所を表示 2 に記載します。

参考

本機器の取扱い、設置は経験のある人のみが行ってください。

表 1

車両に装備されている無線機器	周波数帯域	最大送信電力
インストルメントパネル	134.2 KHz 120 KHz ÷ 140 KHz	< 66 dB μ A/m (10m)

ドゥカティマルチメディアシステム (Bluetooth)	2402 ÷ 2480 MHz	4.4 mW
Antitheft (盗難防止装置)	433.92 MHz (±75 KHz)	<0.6 mA

表 2

車両に装備されている無線機器	製造業者の住所
インストルメントパネル	EGICON S.r.l. Via Posta Vecchia, 36 41037 - Mirandola (MO), Italy
ドゥカティマルチメディアシステム (Bluetooth)	COBO S.p.a. Via Tito Speri, 10 25024 Leno (BS), Italy
Antitheft (盗難防止装置)	PATROLLINE Via Cesare Cantù, 15/C 22031 Albavilla (CO), Italy

簡易 EU 適合宣言書

[Austria]

Ihr Fahrzeug ist mit einer Reihe von Funkgeräten ausgestattet. Die Hersteller dieser Funkgeräte erklären, dass diese, wo gesetzlich vorgeschrieben, mit der Richtlinie 2014/53/EU übereinstimmen. Der vollständige Text der EU-Konformitätserklärung ist unter folgender Adresse verfügbar: certifications.ducati.com

[Belgium]
Votre véhicule est équipé d'une série d'appareillages radio. Les constructeurs de ces appareillages radio déclarent que ces derniers sont conformes à la directive 2014/53/UE lorsque la loi le requiert. Le texte complet de la déclaration de conformité UE est disponible à l'adresse suivante : certifications.ducati.com

[Bulgaria]
Твоят мотоциклет е оборудван с различна по вид радиоапаратура. Производителите на тази радиоапаратура декларират, че тя съответства на Директива 2014/53/ЕС, съгласно изискванията по закон. Пълният текст на декларацията за съответствие ЕС, ще намерите на следния адрес: certifications.ducati.com

[Cyprus]
Το όχημά σας εξοπλίζεται με μια σειρά από ραδιοσυσκευές. Οι κατασκευαστές των συσκευών αυτών δηλώνουν ότι οι συσκευές συμμορφώνονται με την οδηγία 2014/53/ΕΕ, όπου απαιτείται από το νόμο. Το πλήρες κείμενο της δήλωσης συμμόρφωσης ΕΕ είναι διαθέσιμο στη διεύθυνση: certifications.ducati.com

[Czech Republic]

Vaše vozidlo je vybaveno řadou rádiových zařízení. Výrobci těchto radio zařízení, prohlašují, že zařízení jsou v souladu se směrnicí 2014/53/EU, pokud to vyžaduje zákon. Úplné znění prohlášení o shodě EU je k dispozici na internetových stránkách: certifications.ducati.com

[Germany]
Ihr Fahrzeug ist mit einer Reihe von Funkgeräten ausgestattet. Die Hersteller dieser Funkgeräte erklären, dass diese, wo gesetzlich vorgeschrieben, mit der Richtlinie 2014/53/EU übereinstimmen. Der vollständige Text der EU-Konformitätserklärung ist unter folgender Adresse verfügbar: certifications.ducati.com

[Denmark]
Dit køretøj er udstyret med et udvalg af radioudstyr. Producenterne af dette radioudstyr erklærer, at dette udstyr overholder direktiv 2014/53/EU, hvis det kræves i henhold til loven. Den komplette tekst af EU-overensstemmelseserklæringen findes på følgende webadresse: certifications.ducati.com

[Estonia]
Teie sõiduk on varustatud raadioseadmete seeriaga. Selle raadioseadme tootjad kinnitavad, et see seade vastab direktiivile 2014/53/EÜ, kui seadus seda nõuab. EÜ vastavusdeklaratsiooni terviktekst on saadaval järgmisel veebisaidil: certifications.ducati.com

[Spain]
Su vehículo está equipado con una serie de equipos de radio. Los fabricantes de dichos equipos de radio declaran su conformidad con la directiva 2014/53/UE, como requiere la ley. El texto completo de la declaración de conformidad UE está disponible en el siguiente sitio: certifications.ducati.com

[Finland]
Ajoneuvossasi on radiolaitteita. Näiden radiolaitteiden valmistajat vakuuttavat, että laitteet vastaavat direktiiviä 2014/53/EU lain edellyttämällä tavalla. EU-vaatimustenmukaisuusvakuutuksen täydellinen teksti on saatavilla seuraavasta osoitteesta: certifications.ducati.com

[France]
Votre véhicule est équipé d'une série d'appareillages radio. Les constructeurs de ces appareillages radio déclarent que ces derniers sont conformes à la directive 2014/53/UE lorsque la loi le requiert. Le texte complet de la déclaration de conformité UE est disponible à l'adresse suivante : certifications.ducati.com

[United Kingdom]
Your vehicle is equipped with a range of radio equipment. The manufacturers of this radio equipment declare that these equipment complies with Directive 2014/53/EU where required by law. The complete text of the EU declaration of conformity is available at the following web address: certifications.ducati.com

[Greece]
Το όχημά σας εξοπλίζεται με μια σειρά από ραδιοσυσκευές. Οι κατασκευαστές των συσκευών αυτών δηλώνουν ότι οι συσκευές συμμορφώνονται με την οδηγία 2014/53/ΕΕ, όπου απαιτείται από το νόμο. Το πλήρες κείμενο της δήλωσης συμμόρφωσης ΕΕ είναι διαθέσιμο στη διεύθυνση: certifications.ducati.com

[Croatia]
Vaše vozilo je opremljeno nizom radio uređaja. Proizvođači ovih radio uređaja tvrde da su uređaji u skladu s Direktivom 2014/53/UE ako je propisano zakonom. Cjelokupan tekst deklaracije o sukladnosti dostupan je na: certifications.ducati.com

[Hungary]
Járműved egy sor rádió készülékkel van felszerelve. Ezeknek a rádióberendezéseknek a gyártói kijelentik, hogy a készülékek megfelelnek a 2014/53/EU irányelvnek, ahol ezt a törvény megköveteli. Az EU megfelelőségi nyilatkozat teljes szövege az alábbi címen érhető el: certifications.ducati.com

[Ireland]

Your vehicle is equipped with a range of radio equipment. The manufacturers of this radio equipment declare that these equipment complies with Directive 2014/53/EU where required by law. The complete text of the EU declaration of conformity is available at the following web address: certifications.ducati.com

[Italy]
Il tuo veicolo è dotato di una serie di apparecchiature radio. I costruttori di queste apparecchiature radio dichiarano che esse sono conformi alla direttiva 2014/53/UE laddove richiesto per legge. Il testo completo della dichiarazione di conformità UE è disponibile al seguente indirizzo: certifications.ducati.com

[Lithuania]
Jūsų transporto priemonėje įdiegta daug įvairios radijo įrangos. Šios radijo įrangos gamintojai patvirtina, kad ji atitinka 2014/53/ES direktyvos reikalavimus, kaip tai numato galiojantys įstatymai. Visas ES atitikties deklaracijos tekstas pateikiamas svetainėje adresu certifications.ducati.com

[Luxembourg]
Votre véhicule est équipé d'une série d'appareillages radio. Les constructeurs de ces appareillages radio déclarent que ces derniers sont conformes à la directive 2014/53/UE lorsque la loi le requiert. Le texte complet de la déclaration de conformité UE est disponible à l'adresse suivante : certifications.ducati.com

[Latvia]
Jūsu transportlīdzeklis ir aprīkots ar dažādām radioierīcēm. Šo radioierīču ražotājs apliecina, ka ierīces atbilst Direktīvas 2014/53/ES prasībām, ja to paredz attiecīgie tiesību akti. Pilnīgo ES atbilstības deklarāciju skatiet šajā tīmekļa vietnē: certifications.ducati.com

[Malta]
Il-vettura tiegħek hija mgħammra b'firxa ta' tagħmir tar-radju. Il-manufatturi ta' dan it-tagħmir tar-radju jiddikjaraw li dan it-tagħmir jikkonforma mad-Direttiva 2014/53/UE fejn meħtieġ mil-liġi. It-test kollu tad-dikjarazzjoni ta' konformità tal-UE huwa disponibbli fuq l-indirizz tal-web: certifications.ducati.com

[Netherlands]
Uw voertuig is voorzien van diverse draadloze apparatuur. De fabrikanten van deze draadloze apparatuur verklaren dat deze, daar waar dit door de wet voorschreven wordt, overeenstemmen met de richtlijn 2014/53/EU. De volledige tekst van de EU-verklaring van overeenstemming is beschikbaar op het volgende webadres: certifications.ducati.com

[Poland]
Państwa pojazd został wyposażony w szereg urządzeń radiowych. Producenci tych urządzeń radiowych oświadczają, że są one zgodne z dyrektywą 2014/53/UE, tam, gdzie wymaga tego prawo. Pełny tekst deklaracji zgodności UE jest dostępny pod następującym adresem internetowym: certifications.ducati.com

[Portugal]
O seu veículo é dotado de uma série de equipamentos de rádio. Os construtores desses equipamentos de rádio declaram que os mesmos estão em conformidade com a diretiva 2014/53/UE sempre que a lei o determinar. O texto completo da declaração de conformidade UE está disponível no seguinte endereço: certifications.ducati.com

[Romania]
Vehiculul dvs. este dotat cu o serie de aparate radio. Producătorii acestor aparate radio declară că acestea sunt conforme cu directiva 2014/53/UE, dacă legea impune acest lucru. Textul complet al declarației de conformitate UE este disponibil la următoarea adresă: certifications.ducati.com

[Sweden]
Ditt fordon är utrustat med radioutrustning. Radioutrustningens tillverkare förklarar att denna utrustning uppfyller direktiv 2014/53/EU där så lagen kräver det. Fullständig text om EU-försäkran om överensstämmelse finns på följande adress: certifications.ducati.com

[Slovenia]

Vaše vozilo ima tudi vrsto radijske opreme. Proizvajalci eteh radijskih naprav izjavljajo, da so ti v skladu z uredbo 2014/53/UE, kjer zakon to predvideva. Celotno besedilo izjave o skladnosti EU je na voljo na spodnjem naslovu: certifications.ducati.com

[Slovakia]
Vaše vozidlo je vybavené rádiofónnymi zariadeniami. Výrobcovia týchto rádiofónnych zariadení prehlasujú, že tieto zariadenia sú v zhode so smernicou 2014/53/EÚ v rozsahu predpísanom zákonom. Úplný text ES prehlásenia o zhode je k dispozícii na nasledujúcej adrese: certifications.ducati.com

United States (USA)

"This device complies with Part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation."
"Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment." "NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment gene rates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interfere nee to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.

- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help."

- RF exposure Information according 2.1091/2.1093 / OET bulletin 65:
Radiofrequency radiation exposure Information: This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body. This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.
The manufacturers of these radio equipment declare that devices comply with the FCC

DASHBOARD	FCC ID: 2ANYI- DSB1402
DUCATI MULTIMEDIA SYSTEM (Bluetooth)	FCC ID: Z64-2564N

Canada

This device contains licence-exempt transmitter(s)/ receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause interference.
(2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:
(1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage;
(2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

RF Exposure Information:
This equipment complies with Canada radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.

Déclaration d'exposition aux radiations: Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements IC établies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé avec un minimum de 20 cm de distance entre la source de rayonnement et votre corps.

DASHBOARD	IC: 23285- DSB1402
DUCATI MULTIMEDIA SYSTEM (Bluetooth)	IC: 4511-2564N

DASHBOARD

Japan

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。
This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）
This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

DASHBOARD	DDT-R19101203-1E1

South Korea

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다

R-R-Egi- RTA111

DUCATI MULTIMEDIA SYSTEM (Bluetooth)

Brasil

Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário. Para consultas, visite: www.anatel.gov.br .

ANATEL

07755-17-10873

Japan

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。
This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）
This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

South Korea

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다

R-R- Cbo-1080795

91375851JA

Stampato 07/2022 ED.02

MIX
From responsible sources
FSC™ C110200
FSC
www.fsc.org

Ducati Motor Holding spa
ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
A Company subject to the Management and Coordination activities of AUDI AG